第2012号 本文

本文

明治二十五年三月三十一日第三種郵便物認可

官報

昭和八年九月十三日
第二千十二號 水曜日

勅令

朕關東廳海務局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和八年九月十二日
内閣總理大臣 子爵 齋藤 實
拓務大臣 永井柳太郎

勅令第二百三十九號

關東廳海務局官制中左ノ通改正ス

第二條中「屬 專任五人」ヲ「屬 專任六人」ニ、「技手 專任十三人」ヲ「技手 專任十五人」ニ改ム

附 則

本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

告示

◎內務省告示第二百八十五號

佐世保都市計畫街路事業及之カ執行年度左ノ通決定シ昭和八年九月八日內閣ノ認可ヲ得タリ其ノ街路ヲ表示シタル圖面ハ佐世保市役所ニ備ヘ置キ縱覽ニ供ス

昭和八年九月十三日
內務大臣 男爵 山本 達雄

佐世保都市計畫街路事業及其ノ執行年度

第一 佐世保都市計畫街路中左ノ路線ノ一部ヲ都市計畫事業トス

街路番號 等級	街路番號 類別	街路番號 番號	街路名稱	起點	終點	幅員
二	一	一	佐世保縱貫線	戸尾町九十六番ノ三	同町九十五番ノ一	一一間

別紙圖面表示ノ通（圖面省略）

第二 本事業ハ昭和八年度ニ於テ之ヲ執行スルモノトス

◎大藏省告示第二百六十三號

外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件第十七條第二項ニ基キ株式會社三十五銀行ヨリ本年九月四日以後左記店舖ニ於テ外國爲替業務ヲ營ムベキ旨屆出アリタリ

昭和八年九月十三日
大藏大臣 高橋 是淸

株式會社三十五銀行

◎大藏省告示第二百六十四號

外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件第十七條第二項ニ基キ株式會社名古屋銀行ヨリ本年九月十一日以後左記店舖ニ於テ外國爲替業務ヲ營ムベキ旨屆出アリタリ

昭和八年九月十三日
大藏大臣 高橋 是淸

株式會社名古屋銀行一宮支店

◎商工省告示第五十五號

昭和二年商工省令第八號石油試掘奬勵金交付規則第二條ニ依リ本年度ニ於ケル試掘ノ地域及深度ヲ左記ノ通定ム

昭和八年九月十三日
商工大臣 男爵 中島久萬吉

地域	深度
(一)北海道宗谷郡稚內町	千百メートル以上
(二)北海道宗谷郡宗谷村	同
(三)北海道天鹽郡幌延村	同
(四)北海道天鹽郡天鹽町	同
(五)北海道天鹽郡遠別村	同
(六)北海道留萌郡鬼鹿村	同
(七)北海道留萌郡留萌町	同
(八)北海道雨龍郡北龍村 同 雨龍村	千メートル以上
(九)北海道雨龍郡幌加內村	同
(十)北海道樺戸郡新十津川村	同
(十一)北海道石狩郡當別村	同
(十二)北海道札幌郡豐平町	同
(十三)北海道空知郡岩見澤町 同 栗澤村	千百メートル以上
(十四)北海道勇拂郡厚眞村 同 鵡川村	同
(十五)北海道勇拂郡似灣村	同
(十六)北海道新冠郡新冠村	千メートル以上
(十七)青森縣東津輕郡蟹田村 同 蓬田村 同 後潟村	千五百メートル以上
(十八)青森縣東津輕郡奥內村 同 新城村	同
(十九)青森縣西津輕郡大戸瀨村	千メートル以上
(二十)青森縣北津輕郡喜良市村 同 嘉瀨村 同 飯詰村	六百メートル以上
(二十一)青森縣北津輕郡七和村	千五百メートル以上
(二十二)青森縣南津輕郡大杉村 同 野澤村 同 浪岡村 同 五鄕村	同
(二十三)青森縣南津輕郡尾崎村 同 町居村 同 竹舘村 同 大光寺村	同
(二十四)秋田縣北秋田郡下大野村 同 落合村	千メートル以上
(二十五)秋田縣北秋田郡綴子村 同 坊澤村	千百メートル以上
(二十六)秋田縣山本郡藤琴村	千メートル以上
(二十七)秋田縣山本郡種梅村 同 富根村	同
(二十八)秋田縣山本郡常盤村	同
(二十九)秋田縣山本郡澤目村	七百メートル以上
(三十)秋田縣山本郡榊村 同 淺內村 同 金岡村	千百メートル以上
(三十一)秋田縣山本郡上岩川村 同 下岩川村	千メートル以上
(三十二)秋田縣南秋田郡馬川村 同 上井河村	九百メートル以上
(三十三)秋田縣南秋田郡下井河村 同 飯田川村	同
(三十四)秋田縣南秋田郡潟西村	千百メートル以上
(三十五)秋田縣南秋田郡船川港町	九百メートル以上
(三十六)秋田縣南秋田郡金足村 同 上新城村 同 下新城村	千百メートル以上
(三十七)秋田縣由利郡松ヶ崎村 同 龜田町	六百メートル以上
(三十八)秋田縣由利郡岩谷村	八百メートル以上
(三十九)秋田縣由利郡小友村	千百メートル以上
(四十)秋田縣由利郡矢島町	七百メートル以上
(四十一)秋田縣由利郡平澤町 同 院內村 同 小出村	千メートル以上
(四十二)秋田縣由利郡上鄕村	同
(四十三)山形縣最上郡豐田村	九百メートル以上
(四十四)山形縣最上郡大藏村	千メートル以上
(四十五)山形縣飽海郡日向村	同

第 2012 号 本文

（四十六）	山形縣飽海郡大澤村	千百メートル以上
	同　觀音寺村	
（四十七）	山形縣北村山郡龜井田村	千五百メートル以上
	同　横山村	
	同　大高根村	
（四十八）	新潟縣中蒲原郡新津町	同
	同　新關村	
	同　金津村	
（四十九）	新潟縣中蒲原郡橋田村	千百メートル以上
（五十）	新潟縣中蒲原郡七谷村	同
（五十一）	新潟縣西蒲原郡鎧郷村	千二百メートル以上
	同　巻町	
	同　和納村	
（五十二）	新潟縣南蒲原郡下條村	千百メートル以上
	同　鹿峠村	
（五十三）	新潟縣南蒲原郡大面村	同
（五十四）	新潟縣南蒲原郡中之島村	千三百メートル以上
	同　葛巻村	
（五十五）	新潟縣南蒲原郡見附町	千五百メートル以上
（五十六）	新潟縣古志郡北谷村	千百メートル以上
	同　山本村	
	同　荷頃村	
（五十七）	新潟縣古志郡上鹽谷村	同
	同　下鹽谷村	
（五十八）	新潟縣古志郡新組村	千三百メートル以上
	同　黒條村	
（五十九）	新潟縣三島郡寺泊町	八百メートル以上
（六十）	新潟縣三島郡大河津村	千二百メートル以上
（六十一）	新潟縣三島郡與板町	同
	同　大津村	
	同　脇野町村	
	同　日吉村	
	同　關原村	
	同　宮本村	
（六十二）	新潟縣三島郡西越村	九百メートル以上
（六十三）	新潟縣三島郡岩塚村	千百メートル以上
（六十四）	新潟縣三島郡片貝村	千五百メートル以上
（六十五）	新潟縣刈羽郡高柳村	千百メートル以上
（六十六）	新潟縣刈羽郡北條村	同
	同　武石村	
（六十七）	新潟縣刈羽郡中里村	千五百メートル以上
	同　上小國村	
（六十八）	新潟縣刈羽郡二田村	千百メートル以上
	同　中通村	
（六十九）	新潟縣刈羽郡刈羽村	同
	同　西中通村	
	同　北鯖石村	
	同　柏崎町	
（七十）	新潟縣刈羽郡石黒村	六百メートル以上
（七十一）	新潟縣北魚沼郡川口村	千二百メートル以上
	同　川井村	
（七十二）	新潟縣北魚沼郡城川村	千五百メートル以上
（七十三）	新潟縣北魚沼郡吉谷村	同
（七十四）	新潟縣北魚沼郡田麥山村	千二百メートル以上
（七十五）	新潟縣中魚沼郡眞人村	千五百メートル以上
（七十六）	新潟縣南魚沼郡大巻村	八百メートル以上
	同　六日町	
（七十七）	新潟縣東頸城郡松代村	千メートル以上
	同　松之山村	
（七十八）	新潟縣東頸城郡山平村	九百メートル以上
（七十九）	新潟縣東頸城郡奴奈川村	同
（八十）	新潟縣東頸城郡小黒村	八百メートル以上
	同　安塚村	
（八十一）	新潟縣東頸城郡大島村	千百メートル以上
	同　菱里村	
（八十二）	新潟縣東頸城郡沖見村	千メートル以上
（八十三）	新潟縣中頸城郡黒岩村	同
	同　源村	
	同　吉川村	
（八十四）	新潟縣中頸城郡上杉村	同
（八十五）	新潟縣中頸城郡菅原村	九百メートル以上
（八十六）	新潟縣中頸城郡泉村	千百メートル以上
	同　上郷村	
	同　豐葦村	
（八十七）	新潟縣西頸城郡能生谷村	千メートル以上
（八十八）	長野縣上水内郡淺川村	六百メートル以上
（八十九）	長野縣上水内郡北小川村	同
（九十）	長野縣下水内郡柳原村	千メートル以上
（九十一）	長野縣北安曇郡美麻村	六百メートル以上
（九十二）	長野縣東筑摩郡坂北村	同
	同　本城村	
	同　東川手村	
（九十三）	靜岡縣榛原郡川崎町	九百メートル以上
（九十四）	靜岡縣榛原郡萓山村	同
（九十五）	靜岡縣榛原郡地頭方村	千メートル以上
	同　白羽村	
（九十六）	靜岡縣小笠郡朝比奈村	九百メートル以上

◎遞信省告示第二千五十五號

高知縣高岡郡上ノ加江町立上ノ加江港燈臺ハ廢止セシ旨同縣ヨリ報告アリタリ

昭和八年九月十三日　遞信大臣　南　弘

◎遞信省告示第二千五十六號

大正四年勅令第二百十五號ニ基ク請願ニ依リ昭和八年九月十六日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス但シ呼出事務ヲ取扱ハス

昭和八年九月十三日　遞信大臣　南　弘

名稱	位置
名古屋米野郵便局	名古屋市中區米野町

◎遞信省告示第二千五十七號

左記私設無線電信ノ工事設計ヲ左ノ通變更ヲ許可セリ

昭和八年九月十三日　遞信大臣　南　弘

關係告示	施設者名	機器裝置場所
大正十四年二月遞信省告示第二百十九號	日魯漁業株式會社	汽船蛟龍丸

一、裝置方式　ニッポンラヂオ「クエンチトスパーク」式

二、通常通達距離　晝間六百「キロメートル」

三、空中線電力　九百「ワット」

四、使用周波數（波長）　三百七十五「キロサイクル」（八百「メートル」）、四百十「キロサイクル」（七百三十「メートル」）、四百二十五「キロサイクル」（七百五「メートル」）、五百「キロサイクル」（六百「メートル」）、千三百六十四「キロサイクル」（二百二十「メートル」）

◎遞信省告示第二千五十八號

左記私設無線電信ハ昭和八年九月十日限リ廢止ノ旨屆出アリタリ

昭和八年九月十三日　遞信大臣　南　弘

關係告示	施設者名	機器裝置場所
大正十五年三月遞信省告示第四百一號	日本合同工船株式會社	汽船嚴島丸
同九年八月同第千三百四號	同	同樺太丸
昭和二年二月同第四百十二號	同	同富美丸

◎遞信省告示第二千五十九號

昭和八年九月十日限リ左記電信取扱所（閉鎖中）ヲ廢止ス但シ當該所ニ於テ取扱ヒタル事務ハ下記電信局之ヲ承繼ス

昭和八年九月十三日　遞信大臣　南　弘

名稱	位置	承繼局
嚴島丸無線電信取扱所	日本合同工船株式會社所屬汽船嚴島丸	大阪中央電信局
樺太丸無線電信取扱所	同樺太丸	同
富美丸無線電信取扱所	同富美丸	同

◎遞信省告示第二千六十號

昭和八年九月十日限リ大正十四年九月遞信省告示第千三百五十號海岸局、船舶局、固定局及託送發受所名等中「嚴島丸」、「樺太丸」及「富美丸」ノ項ヲ削除ス

昭和八年九月十三日　遞信大臣　南　弘

◎遞信省告示第二千六十一號

左記私設無線電信ノ施設者名義ヲ下記ノ通變更ヲ許可セリ

昭和八年九月十三日　遞信大臣　南　弘

關係告示	舊施設者名	機器裝置場所	新施設者名
大正十五年八月遞信省告示第千六百五十八號	共立汽船株式會社	汽船登川丸	日魯漁業株式會社

◎遞信省告示第二千六十二號

昭和八年九月五日ヨリ左記電信取扱所ノ位置ヲ下記ノ通變更セリ

昭和八年九月十三日　遞信大臣　南　弘

名稱	舊位置	新位置
登川丸無線電信取扱所	共立汽船株式會社所屬汽船登川丸	日魯漁業株式會社所屬汽船登川丸

◎遞信省告示第二千六十三號

昭和八年九月十四日限リ大正十四年九月遞信省告示第千三百五十號海岸局、船舶局、固定局及託送發受所名等中「信濃丸託送」及「第百國際丸託送」ノ項ヲ削除ス

昭和八年九月十三日　遞信大臣　南　弘

◎遞信省告示第二千六十四號

大正四年勅令第二百十五號ニ基ク請願ニ依リ昭和八年九月十六日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス但シ電報配達事務ヲ取扱ハス

昭和八年九月十三日　遞信大臣　南　弘

名稱	位置
名古屋清水（ナゴヤシミヅ）郵便局	名古屋市東區北清水町三丁目

◎遞信省告示第二千六十五號

昭和八年九月十六日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス

昭和八年九月十三日　遞信大臣　南　弘

名稱	位置
岩崎郵便局	秋田縣雄勝郡岩崎町
舟形郵便局	山形縣最上郡舟形村
飯豐郵便局	福島縣相馬郡飯豐村

◎鐵道省告示第四百十四號

豆炭ニ對スル割引運賃左ノ通定ム

昭和八年九月十三日　鐵道大臣　三土　忠造

一品名　豆炭

一發驛　梅田

一著驛　汐留。大崎。龜有。松戸。八王子。東飯能。青梅鐵道福生。總武鐵道野田町。西武鐵道川越、東村山

一扱種別　貨切扱

一期間　自昭和八年九月十三日　至昭和九年九月十二日

一賃率　十級賃率ノ三割九分減

一條件　一般賃率ニ依リ本特定區間通計一五、〇〇〇瓩以上託送シタルモノニ對シ貨物運輸帳表並收入拂戻取扱手續ニ依リ既收運賃ト本賃率ニ依ル運賃トノ差額ヲ拂戻スモノトス

◎鐵道省告示第四百十五號

木材ニ對スル割引運賃左ノ通定ム

昭和八年九月十三日　鐵道大臣　三土　忠造

一品名　丸太（姫小松）

一發驛　能代

一著驛　湊町

一扱種別　貨切扱

一期間　自昭和八年九月十三日　至昭和八年十二月十二日

一賃率　十級賃率ノ三割八分減

一條件　一般賃率ニ依リ本特定區間通計一、五〇〇瓩以上託送シタルモノニ對シ貨物運輸帳表並收入拂戻取扱手續ニ依リ既收運賃ト本賃率ニ依ル運賃トノ差額ヲ拂戻スモノトス

◎關東廳告示第百二十九號

昭和八年八月三日ヨリ左記電信取扱所ヲ設置セリ

昭和八年八月四日　關東長官　菱刈　隆

名稱	位置	定繫港
錦州丸（キンシウマル）無線電信取扱所	大連汽船株式會社所屬汽船錦州丸	大連

◎關東廳告示第百三十號

大正十三年關東廳告示第六十九號中左ノ通改正ス

昭和八年八月四日　關東長官　菱刈　隆

雄基丸無線電信取扱所ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

錦州丸無線電信取扱所　同

（參照）

大正十三年五月關東廳告示第六十九號ハ電信官署ノ電報取扱種別ノ件ナリ

◎關東廳告示第百三十一號

大正十四年關東廳告示第百八十三號中左ノ通改正ス

昭和八年八月四日　關東長官　菱刈　隆

船舶局ノ部中雄基丸無線電信取扱所ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

錦州丸無線電信取扱所　JPAG

託送發受所ノ部中金州丸託送ノ項ヲ左ノ如ク改ム

海務局金州丸託送（カイムキヨクキンシウマルタクソウ）（關東廳海務局金州丸）　JGDB　同　同

（參照）

大正十四年十月關東廳告示第百八十三號ハ無線電信規則第二條ニ依ル海岸局、船舶局、固定局及託送發受所名等ノ件ナリ

◎關東廳告示第百三十二號

昭和八年八月五日ヨリ長春丸無線電信局ノ名稱及位置ヲ左ノ通改正ス

昭和八年八月五日　關東長官　菱刈　隆

名稱	位置
青島丸（チンタオマル）無線電信局	大連汽船株式會社所屬汽船青島丸

◎關東廳告示第百三十三號

大正十三年關東廳告示第六十九號中左ノ通改正ス

昭和八年八月五日　關東長官　菱刈　隆

「長春丸無線電信局」ヲ「青島丸無線電信局」ニ改ム

◎關東廳告示第百三十四號

大正十四年關東廳告示第百八十三號中左ノ通改正ス

昭和八年八月五日　關東長官　菱刈　隆

「長春丸無線電信局」ヲ「青島丸無線電信局」ニ改ム

◎關東廳告示第百三十九號

昭和八年八月十九日ヨリ左記電信取扱所ノ事務ヲ開始ス

昭和八年八月十九日　關東長官　菱刈　隆

名稱	位置
新屯丸（シントンマル）無線電信取扱所	大連汽船株式會社所屬汽船新屯丸

昭和八年度第二豫備金支出

昭和八年度第二豫備金支出

文部省所管

京都帝國大學災害費臨時支出金　一五、〇〇〇圓

京都帝國大學工學部電氣工學教室工作室其他火災ニ罹リタル爲之カ應急費ノ豫算外支出ヲ要シ前記金額第二豫備金ヨリ支出ノ儀勅裁ヲ經タリ

昭和八年九月十三日　大藏大臣　高橋　是清

正誤

本月九日鐵道省告示第四百十一號中「別表第二號中」ノ上ニ『第五十五條中「市川」ヲ「船橋」ニ改メ』ヲ脱ス

鐵道書記官

敍任及辭令

◉昭和八年九月八日
勳八等　平　顯明
同　辻　種麿
（各通）
和田　眞吾
稻穗　義男
敍從七位
◉昭和八年九月九日
鈴木　喜作
佐藤　岸郎
勳八等　渡邊　新吉
加茂茂三郎
（各通）
勳八等　多賀須　雪
豐田　勝
鈴木常太郎
勳八等　川田久四良
敍從七位
◉昭和八年九月十一日
從五位勳四等功五級　園田勉次郎
敍正五位
勳七等　德永　善松
伊原伊太郎
結城周太郎
古谷　恂三
勳七等　北村喜千雄
勳八等　常田龜次郎
勳七等　茂村喜三郎
藤木光太郎
（各通）
中村　新吾
勳七等　新妻　善吉
敍從七位
海軍機關中尉從七位　田尻　幸男
任海軍機關大尉
從七位　田尻　幸男
敍正七位
正七位　田尻　幸男
敍勳六等授單光旭日章
海軍特務少尉正七位勳六等　西川熊太郎
任海軍特務中尉

正七位勳六等　西川熊太郎
敍勳五等授雙光旭日章
檢疫醫　穎川　正次
檢疫醫ニ任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル
穎川　正次
敍從七位
◉昭和八年九月十二日
正三位勳二等子爵　仙石　政敬
敍從二位
從六位勳六等　數山　祐馨
敍正六位
鈴木　新吉
敍從七位
遞信局技師正五位勳四等　小船井敬吉
任遞信技師
敍高等官二等
關東廳事務官正五位勳六等　中村孝次郎
任關東廳財務局長
敍高等官二等
正五位勳四等　大場鑑次郎
任關東廳警務局長
敍高等官二等
公使館一等書記官從五位勳三等　渡邊　理惠
任總領事
敍高等官三等
領事從五位勳四等　緒方　整庸
（各通）
大使館二等書記官從五位勳四等　島田　正靖
任總領事
敍高等官四等
內務技手　鈴木　新吉
任內務技師
敍高等官七等
陸軍步兵少尉正八位　松田季五郎
任陸軍三等軍醫
電氣試驗所技師正六位勳六等　武中貞津衛
兼任遞信技師
敍高等官四等

電氣試驗所技師從七位　岡田　成敏
兼任遞信技師
敍高等官七等
遞信技師兼遞信局技師正六位勳五等　鈴木　淳一
兼任電氣試驗所技師
敍高等官四等
遞信技師從七位　篠原　登
兼任電氣試驗所技師
敍高等官七等
鐵道屬勳八等　山口　市藏
鐵道屬　元吉　理
（各通）
同　今政　正治
任鐵道省事務官
敍高等官七等
鐵道局書記勳七等　福井　光男
鐵道局書記勳八等　清水新太郎
鐵道局書記　岡田佐衞治
同　垂澤初太郎
鐵道局書記勳七等　近藤　峰藏
（各通）
鐵道局書記　石黑　增治
鐵道局書記勳七等　村越　浪造
同　鹿野與左衞門
鐵道局書記正七位勳七等　安田彌太郎
鐵道局書記　中野　秀次
同　平石　友藏
任鐵道局副參事
敍高等官七等
關東廳遞信書記正七位勳六等　福永　高介
同　尾立　米喜
（各通）
關東廳遞信書記正七位勳七等　八島　盛敏
任關東廳遞信副事務官
敍高等官六等
從五位　城戶　鎭吉
土木技師兼道路技師ニ任ス
高等官三等ヲ以テ待遇セラル
齋藤精一郎
衞生技師ニ任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル

警視廳防疫醫　後藤　昌平
防疫醫ニ任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル

遞信技師兼遞信局技師　園田勉次郎
依願免本官竝兼官
關東廳財務局長　殖田　俊吉
關東廳警務局長　友部　泉藏
總領事　山口爲太郎
同　佐々木靜吾
領事　內藤　啓三
（各通）
營繕管財局事務官　遠山　義光
京都帝國大學助教授　飯塚　忠治
依願免本官
外務省通商局長　來栖　三郎
米穀委員會委員被仰付
遞信書記官　平澤　要
簡易生命保險審査會委員被仰付
同　上ノ畑悌二
簡易生命保險審査會委員被免
鐵道局副參事　重松　保
同　結城周太郎
同　古谷　恂三
同　北村喜千雄
同　常田龜次郎
同　茂村喜三郎
同　中村　新吾
同　新妻　善吉
（各通）
依願免本官
關東廳法院通譯生兼關東廳法院書記兼關東廳警視　木村　寬
依願免兼關東廳警視
關東廳遞信副事務官　高木　正七
同　池部　才次
（各通）
同　中村　馨
依願免本官
都市計畫地方委員會技師兼地方技師　城戶　鎭吉
依願免本官竝兼官
衞生技師　福住　一郎
地方商工技師　西坂　祥一
（各通）
朝鮮土木技師　彥坂　剛邦
願ニ依リ本職ヲ免ス（以上九月十二日內閣）

正三位勳二等子爵　仙石　政敬
特旨ヲ以テ位一級被進（九月十二日宮內省）
總領事　渡邊　理惠
浦潮斯德在勤ヲ命ス
同　緒方　整庸
賜一級俸
アレクサンドロフスク在勤ヲ命ス
同　島田　正靖
賜一級俸
ハバロフスク在勤ヲ命ス
副領事（ハバロフスク）　小柳　雪生
ノヴォシビルスク在勤ヲ命ス（以上九月十二日外務省）
道路技師兼土木技師　大野　謙三
高知縣道路技師兼高知縣土木技師ニ補ス
土木技師兼道路技師　鬼丸　忠男
靜岡縣土木技師兼靜岡縣道路技師ニ補ス
（以上九月八日內務省）
檢疫醫　穎川　正次
七級俸下賜
長崎稅關在勤ヲ命ス（九月十一日大藏省）
營繕管財局事務官　遠山　義光
三級俸下賜（九月十二日同）
海軍中佐　林　蓉齋
橫須賀鎭守府附被仰付（九月十一日海軍省）
海軍艦政本部總務部第三課長海軍機關大佐　石井常次郎
兼補海軍大學校教官
第三艦隊機關長海軍機關大佐　幸山　作
佐世保鎭守府附被仰付
海軍機關大佐　田崎　義
補第三艦隊機關長
海軍艦政本部造船監督官海軍機關大佐　出口　俊雄
橫須賀鎭守府附被仰付
八雲分隊長海軍機關大尉　村角　安三
補伊號第二十三潛水艦機關長兼分隊長

伊號第二十三潛水艦機關長兼分隊長海軍機關大尉　奧田　洋平
補鳳山海軍無線電信所附
鳳山海軍無線電信所附海軍機關大尉　尾崎　憲彥
佐世保鎭守府附被仰付
羽黑分隊長海軍機關大尉　松浪　嘉一
補長良分隊長
加賀分隊長海軍機關大尉　柿沼　計雄
（各通）
海軍機關少尉　古川　尙志
橫須賀鎭守府附被仰付
海軍艦政本部員海軍主計少佐　南部　忠藏
兼補海軍經理學校教官
海軍造兵中尉　松浦　陽惠
（各通）
同　大築　志夫
同　永盛　義夫
橫須賀鎭守府附被仰付
廣海軍工廠造機部部員海軍技師　川名忠兵衞
補海軍艦政本部造船監督官（以上九月十一日同）
磐手乘組海軍特務少尉　前田　近義
補霧島乘組
霧島乘組海軍特務少尉　田口助次郎
補陸奧乘組
陸奧乘組海軍特務少尉　松金　福太
補磐手乘組（以上九月十二日佐世保鎭守府）
司法書記官　坂野　千里
大臣官房秘書課長兼務ヲ命ス
官報報告主任ヲ命ス
判事　佐々木良一
補東京控訴院部長
二級俸下賜
福岡地方裁判所檢事檢事　副島　次郎
兼補福岡區裁判所檢事（以上九月十二日司法省）
京都帝國大學助教授　田久保實太郎
滿洲國ヘ出張ヲ命ス（九月十二日文部省）
公立實業學校長　有馬　市藏
鹿兒島縣肝屬郡小根占村立小根占公民學校長ニ補ス

同　飛島　貫治
北海道廳立小樽水産學校長ニ補ス
公立實業學校長兼公立實業學校教諭　宇都　眞吾
鹿兒島縣立薩南工業學校長兼鹿兒島縣立薩南工業學校教諭ニ補ス
公立盲學校長兼公立盲學校教諭公立聾啞學校長公立聾啞學校教諭　松永　榮重
靜岡縣立靜岡盲啞學校長兼靜岡縣立靜岡盲啞學校教諭ニ補ス
東京帝國大學教授　高柳　賢三
亞米利加合衆國ヘ出張ヲ命ス
九州帝國大學教授　白木　正博
（各通）
北海道帝國大學教授　鈴木　醇
滿洲國ヘ出張ヲ命ス
九州帝國大學助教授　伊藤　兆司
比律賓諸島及蘭領東印度ヘ出張ヲ命ス
廣島文理科大學教授　栗田　元次
歐米各國ヘ出張ヲ命ス（以上九月十二日同）
測候技師　中村　勝次
中華民國ヘ出張ヲ命ス（九月十二日同）
農林技師　池部　祐吉
島根縣山林會主催第四回一府七縣林產共進會審査長ヲ命ス（九月十二日農林省）
遞信技師　初見　五郎
賜二級俸（九月十二日遞信省）
同　園田勉次郎
賜四級俸
同　生野　熊一
工務局兼務ヲ命ス
同　生島　莊三
工務局兼務ヲ免ス（以上九月十二日同）
鐵道省事務官　高須　俊一
三級俸下賜
運輸局總務課勤務ヲ命ス
鐵道局副參事　重松　保
五級俸下賜
大阪鐵道局勤務ヲ命ス

同　德永　善松
同　伊原伊太郎
（各通）
同　結城周太郎
同　古屋　恂三
同　北村喜千雄
同　常田龜次郎
七級俸下賜
名古屋鐵道局勤務ヲ命ス
同　茂村喜三郎
同　藤木光太郎
（各通）
八級俸下賜
名古屋鐵道局勤務ヲ命ス
同　中村　新吾
七級俸下賜
札幌鐵道局勤務ヲ命ス
同　新妻　善吉
七級俸下賜
東京鐵道局勤務ヲ命ス（以上九月十二日鐵道省）
同　德永　善松
同　伊原伊太郎
（各通）
同　藤木光太郎
文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職ヲ命ス（九月十二日同）
檢査官　木村　精一
副檢査官　池田　直
（各通）
內閣、貴族院及衆議院會計實地檢査トシテ出張ヲ命ス（九月十二日會計檢査院）
朝鮮總督府道理事官　豐永榮一郎
九級俸下賜
全羅北道在勤ヲ命ス（八月二十六日朝鮮總督府）
同　帖佐　啓二
九級俸下賜
全羅北道在勤ヲ命ス
朝鮮總督府道警視　千坂雄左衞門
八級俸下賜
補江界警察署長
同　久枝　賴三
八級俸下賜
補惠山警察署長
同　永田　仁助
八級俸下賜
補羅南警察署長

第2012号　本文

同　池内勝太郎
八級俸下賜
補鎭南浦警察署長
同　吉利惠美喜
八級俸下賜
補會寧警察署長
同　吉浦豐一郎
九級俸下賜
黃海道在勤ヲ命ス
同　遠藤國太
九級俸下賜
咸鏡北道在勤ヲ命ス
朝鮮總督府島司　余座豐次郎
八級俸下賜
慶尙北道鬱陵島在勤ヲ命ス
朝鮮總督府道警視　余座豐次郎
補鬱陵島警察署長
同　古市金彌
五級俸下賜
同　前田貴
同　武田虎一
同　今瀨金太郎
同　和田三郎
（各通）
六級俸下賜
朝鮮總督府道慈惠醫院醫官　矢澤俊一郎
二級俸下賜
朝鮮總督府島司　小宅貞藏
七級俸下賜
朝鮮總督府道警視　谷口慶弘
補釜山警察署長
同　中村美賀
補新義州警察署長
同　田中傳次郎
補清津警察署長（以上八月二十八日同）
朝鮮總督府典獄　蓑田長平

開城少年刑務所長トシテ勤務中京城府黃金町在住小山隆平ヨリ荷札工作業製作品ノ注文ヲ受ケ同人ニ對シ之カ販賣ヲ爲スニ際リ同所作業係主任ニシテ物品會計官吏カ昭和四年四月四日以降同五年五月三十一日迄ノ間ニ於テ數百回ニ亙リ各製作命令ニ依リ荷札及運送用印刷物等ヲ製作シ之カ交付ノ事實ヲ證明スヘキ適正ノ手續ヲ執ラス注文者タル右小山隆平ニ對シ之ヲ交付シ且該代金徵收ノ手續ヲ怠リタル爲昭和四年度ニ於テ二千百四十一圓五十三錢昭和五年度ニ於テ三千七十六圓四十七錢合計五千二百十八圓ノ代金收入未濟ヲ生セシメ其ノ儘何レモ昭和六年度以降ニ繰越整理スルノ已ムナキニ至ラシメタルハ畢竟同所長トシテ平素部下指導監督上缺クル所アリタルニ基因シ職務ヲ怠リタルモノトス仍テ文官懲戒令ニ依リ譴責ス（八月三十日同）

關東廳遞信副事務官　市川薫
奉天郵便局臨時在勤ヲ命ス
同　三宅伊太郎
補大連中央電話局長
遞信局兼務ヲ命ス
同　高橋富十郎
補新京郵便局長（以上八月十七日關東廳）
關東廳事務官　近藤壤太郎
警務局勤務ヲ命ス（八月二十三日同）
關東廳警視　松木勘十郎
奉天警察署勤務ヲ命ス
同　石井金三郎
警務局高等警察課兼務ヲ命ス（以上八月二十六日同）
關東廳遞信技師　加藤知正
七級俸下賜
同　長谷忠二
同　荒井芳太郎
同　鈴木惠四郎
（各通）
九級俸下賜
同　中田末廣
年功加俸六百圓下賜（以上八月二十九日同）
地方農林技師　佐脇專次郎
十級俸下賜（八月三十日三重縣）

正　誤

本月九日本欄二三〇頁三段宮埼忠二ハ宮崎忠二、岡野靜吉ハ岡野靜喜ノ孰モ報告誤
陸軍省副官

彙報

○官廳事項

◎神戸及大阪駐在瑞典國名譽領事御認可　今般アーネスト、ウイリアム、ゼイムス（Ernest William James）ハ神戸及大阪兩市並ニ其附近ヲ管轄區域トスル神戸及大阪駐在瑞典國名譽領事ニ任命セラレタルニ付本月三日附ヲ以テ其職務執行ニ關スル御認可狀御下付相成リタリ

◎在本邦「ソ」聯邦大使館參事官更迭　在本邦ソヴィエト大使館參事官ジアン、スピルワネックハ今般在中華民國同聯邦大使館參事官兼上海駐在同聯邦總領事ニ任命セラレ近ク赴任スヘキ旨並ニニコラス、レーウィッド（Nicolas Rayvid）其後任トシテ在本邦同聯邦大使館參事官ニ任命セラレ本月四日著任セル旨同聯邦大使ヨリ同五日附ヲ以テ通知アリタリ

◎在本邦ペルー國公使館二等書記官任命　今般アウレリオ、ミロ、ケサーダ、ソーサ（Aurelio Miro Quesada Sosa）ハ在本邦ペルー國公使館二等書記官ニ任命セラレ本月八日著任ノ筈ナル旨同國臨時代理公使ヨリ同二日附ヲ以テ通知アリタリ

◎橫濱駐在英國總領事一時離任　橫濱駐在英國總領事イー、エイチ、ホルムスハ今般病氣ノタメ一時離任シ其不在中ハ長崎駐在同國領事エフ、シー、グレートレックス總領事代理ト爲リ本月四日著任セル旨並ニグレートレックス領事不在中在長崎同國領事館館務ハ同領事館勤務名譽副領事エス、エイ、リンガーニ於テ之ヲ處辨スヘキ旨同國臨時代理大使ヨリ同五日附ヲ以テ通知アリタリ

◎轉任　公立中學校敎諭兼公立中學校舍監巴川涼重ハ本年六月二十二日山口縣立中學校敎諭ニ轉任セリ

◎退職　栃木縣公立小學校長若菜佐吉ハ本年四月三十日、奈良縣公立小學校長川口良橘ハ去月三十日、同勝山倉吉、靜岡縣公立小學校長村松十和吉、同增田隆一、同木野孫平治、同太田民次郎、同壬生春吉、同高梨賢一、同井上磯三郎、同下山耕平、山形縣公立小學校長石川操輔、香川縣公立小學校長蓮井利應、同高島元逸、同山本喜一、同曾川正信、同都崎茂、同平井彌須吉、同臼杵政雄、同大西正久、同山本發太郎、愛媛縣公立小學校長志賀信吉、同上順一、同正岡賴吉、同伊賀上武、同兩信豐次郎、同源田多三郎、同土居源太郎ハ同三十一日、北海道公立小學校長中田直義、同島野壽美男ハ本月一日孰モ願ニ依リ退職ヲ命セラレタリ

◎檢疫醫死去　檢疫醫從七位頴川正文ハ一昨十一日死去セリ

◎地方警察技師死去　地方警察技師從七位中野市太郎ハ本月四日死去セリ

○陸海軍

◎練習生卒業　霞ヶ浦海軍航空隊ニ於テ本月二日左記第二十一期操縱練習生ニ對シ卒業ヲ申渡セリ

×印ハ首席優等卒業者ナリ（海軍省）

橫須賀鎭守府所管

海軍一等機關兵　佐藤進　　同　近藤重一
海軍二等水兵　片山正三　　同　稲山三郎
同　伊藤留藏　　同　三上一政
海軍二等機關兵　北出大太　　同　青木義雄
海軍三等水兵　奧山益美　　同　相澤八郎
同　藤池喜一　　同　山岸正三
同　齊藤忠治　　海軍三等機關兵　綿引秀四郎
同　山中幸三郎　　同　宮崎三郎
同　鈴木壽一　　同　大石善一

吳鎭守府所管

海軍一等水兵　香川美治　　海軍二等水兵　太田源吾
同　松村恒治　　海軍三等水兵　北畑三郎
同　川上勉

佐世保鎭守府所管

海軍一等水兵　中村克男　　同　×佐藤正夫
海軍二等水兵　鞘野宗夫　　同　加用益喜
海軍二等機關兵　神崎生次郎　　海軍三等水兵　島田一之
海軍三等主計兵　森澄夫

○學事

◎學位授與　京都帝國大學ニ於テ去月二十五日附長野縣藤森賢而、島根縣錦織修藏、宮城縣佐々木統一郎、和歌山縣有本邦太郎、奈良縣塚原仲光、愛媛縣忽那將愛ニ醫學博士、北海道阿部良之助ニ工學博士、滋賀縣今堂健雄ニ理學博士ノ學位ヲ孰モ授與セリ（文部省）

○產業

◎麥收穫高　昭和八年麥收穫高左ノ如シ（農林省）

昭和八年三府三十五縣（北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟及長野ノ一道八縣ヲ除ク）ニ於ケル麥作付段別ハ

大麥　二七六、三二三・〇町段
稞麥　四一七、五八七・九
小麥　五四二、八八六・三
計　一、二三六、七九七・二

ニシテ之ヲ前年作付段別ニ比スレハ

大麥　二九、〇七四・九（九分五厘）減
稞麥　四〇、九五三・五（八分九厘）減
小麥　九〇、一三九・七（一割九分九厘）增
計　二〇、一一一・三（一分七厘）增

ナリ而シテ本年麥收穫高ハ

大麥　五、四二九、〇〇一石
稞麥　五、一七五、〇八一
小麥　七、一二五、八六九

ニシテ之ヲ本年豫想收穫高ニ比スレハ

大麥　二〇、一九九石（四厘）減
稞麥　五九八、八四九（一割四厘）減
小麥　一五一、六〇一（二分一厘）減

ヲ示シ前年收穫高ニ比スレハ

大麥　五五〇、五三〇石（九分二厘）減
稞麥　一、二八三、八六五（一割九分九厘）減
小麥　一、二三六、七七三（二割一分）增

ヲ示シ前五箇年平均收穫高ニ比スレハ

大麥　四〇一、八六四石（六分九厘）減
稞麥　一、三九四、四三五（二割一分二厘）減
小麥　一、三六〇、五二〇（二割三分六厘）增

ヲ示セリ

蓋シ本年ノ麥作ハ小麥カ作付段別ニ於テ著シク增加シタルト一般ニ播種以來氣候概シテ順調ナリシヲ以テ五月二十日現在豫想收穫高ニ於テハ前年實收高ニ比シ大麥五十三萬餘石、稞麥六十八萬餘石ノ各減收ヲ、小麥百三十九萬餘石ノ增收ヲ豫想セラレタルモ其後地方ニ依リテハ天候順調ナラサルモノアルト且ツ風雨害、病蟲害等ヲ蒙リタルモノアリシタメ實收高ハ豫想收穫高ニ比シ大麥二萬餘石、稞麥五十九萬餘石、小麥十五萬餘石ノ各減收ヲ示シタリ

尚地方別狀況左ノ如シ

（備考）

一、作付段別ニ於テ曩ニ發表セルモノト相違アルハ今回府縣ヨリ訂正報告アリタルニ由ル

二、收穫期ノ關係上青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟及長野ノ八縣ハ九月限、北海道ハ十月限報告

昭和八年大麥收穫高

	收穫高	增減（△ハ減）豫想收穫高ニ比シ	前年收穫高ニ比シ	前五箇年平均收穫高ニ比シ
總數	五、四二九、〇〇一石	△二〇、一九九石	△五五〇、五三〇石	△四〇一、八六四石
關東區				
茨城	七六六、一七八	一九、九〇八	△六〇、二九六	九、六七九
栃木	五四八、六六七	二三、九二七	五、九八三	二一、六二二
群馬	四〇四、一八七	九、七四七	△二三、〇二〇	△九、一三二
埼玉	七五三、九八八	△六三二	△五二、九五六	△二八、三七三
千葉	四九九、八一二	三一、九一二	△一〇三、九四〇	△六二、五四八
東京	二三八、九三五	六、三七五	七、四四〇	一八、八五二
神奈川	二三二、八三七	△九、九三三	△三六、八八二	△二九、八二五
北陸區				
富山	一〇、一七六	△一五四	△一、六九四	△五二五
石川	四三、九六一	四一一	△四、〇八一	△六、〇四六
福井	三〇、六六四	六三四	△二、六二九	△三、四二〇
東山區				
山梨	一七五、五三五	△六、一三五	△二五、九七七	△二四、六四〇
岐阜	一八五、五一四	△一六、四八六	△二一、九六七	△四一、〇五三
東海區				
靜岡	二七八、六四八	△七、二八二	△一六、五六二	△一二、七九五
愛知	二六五、八一一	△一二、〇五九	△三三、〇四二	△二七、八八四
三重	六六、三四七	△七、九八三	△一七、九四四	△一九、一五三
近畿區				
滋賀	七九、三〇二	△一、三〇八	△一三、七八五	△一一、二九五
京都	八〇、五六〇	△五、五〇〇	△一三、四三七	△一四、〇五〇
大阪	三四、二九六	△九、六四四	△一七、〇〇〇	△一六、五五五
兵庫	七六、二四〇	△一、七五〇	△一〇、五四九	△七、四七〇
奈良	四、九八四	△一、一七六	△二、〇七三	△二、一四七
和歌山	三、〇二四	△四〇六	△二、二五〇	△一、〇六六
中國區				
鳥取	三四、〇九九	△四、七〇一	△七、四九六	△一一、六一〇
島根	七九、九五〇	△二九〇	△二、二四二	△五、二二六
岡山	一四五、二九六	△五、七六四	△一三、八六五	△一五、六七五
廣島	九八、〇七六	△一二四	△一〇、八九三	△八、三三三
山口	六七、四〇一	△八、二五九	△一九、五二〇	△一九、〇二四
四國區				
德島	六、八〇六	五〇六	△七六五	△二、一一〇
香川	二四八	△二二二	△一、五二〇	△一、〇九九
愛媛	七、三一二	△一、六一八	△二、〇七一	△一、九〇一
高知	三、三四九	△六一一	△七一三	△一、二四三
九州區				
福岡	三二、七八一	△四、一〇九	△一五、六八三	△一八、五五六
佐賀	二〇、六六六	△一、六〇四	△三、八三四	△二、三四四
長崎	四三、四八〇	△五、一一〇	△八、〇三四	△九、六一八
熊本	三〇、三六三	△四、七九七	△六、五一二	△一一、七七一
大分	一六、三一四	△三、〇九六	△五、四四七	△五、三四九
宮崎	二〇、六四二	九五二	一八八	△一、五四四
鹿兒島	三八、八七〇	六、〇七〇	△一六、九一二	△一八、八五四
沖繩	三、六八二	一一二	四九	一七

第 2012 号 本文

昭和八年稞麥收穫高

	收穫高	增減（△ハ減） 豫想收穫高ニ比シ	前年收穫高ニ比シ	前五箇年平均收穫高ニ比シ
總數	五、一七五、〇八一石	△五九八、八九四石	△一、二八三、八六五石	△一、三九四、四三五石
關東區				
茨城	四八、六四三	二、一七三	一、八一七	△一、三二六
栃木	一三、〇二七	一、〇〇七	六四八	△三二八
群馬	五一八	四八	一三八	二〇二
埼玉	九、六一三	二九三	△一、〇七五	六五七
千葉	三〇、六〇四	一、七五四	△四、五六八	△三、三五八
東京	七、六七三	△一七七	△五六	△四一七
神奈川	二五、九〇〇	△一、〇九〇	△二、四〇四	△八二七
北陸區				
富山	六二九	△二一	△二五六	△二九七
石川	二四九	△一一	△四九	△一六五
福井	七八六	一三六	△二七	△二〇〇
東山區				
山梨	二、三一三	△三七	△一二	三〇
岐阜	二二、一四〇	△四、四三〇	△五、六九六	△九、九七七
東海區				
靜岡	七七、五八七	五二七	△二、六六七	△九、二八八
愛知	九九、八五一	△四、七六九	△一七、六一三	△二三、八九一
三重	一五一、七七〇	△一四、三六〇	△三九、八七一	△二七、三六〇
近畿區				
滋賀	一一、七六五	△八三五	△二、八一九	△二、三五九
京都	四七、五五四	△三、八六六	△九、二三四	△一一、五三一
大阪	一〇八、九三七	△一三、四六三	△三八、〇九九	△四六、三二六
兵庫	三四五、二一四	△四六、四三六	△一〇三、八八一	△一一四、六六一
奈良	一一〇、〇五五	△一四、七四五	△四四、七八二	△四三、三一八
和歌山	一一〇、四四四	△一五、二〇六	△三八、六二六	△三五、四〇二
中國區				
鳥取	四九、七七二	△二、〇九八	△六、一七七	△二、八一三
島根	三一、一五三	△一、八一七	△一九	△一、五〇五
岡山	二四七、三八一	△一四、四七九	△五五、六一九	△五三、〇二五
廣島	三八九、八六八	△三五、二〇二	△八三、二二〇	△一〇四、八七五
山口	二三一、二三九	△二五、九九一	△四〇、七八二	△五三、七五一
四國區				
德島	三一八、七二〇	△六九、七五〇	△一〇一、三二三	△七八、〇四三
香川	三一五、四〇〇	△七九、〇八〇	△一六四、九一七	△一五四、三二二
愛媛	三九九、八二七	△七四、八〇五	△一四一、五四〇	△一二七、七六四
高知	九六、〇六三	△一六、八六七	△一三、八八三	△五、一九八
九州區				
福岡	二二〇、八三四	△三四、四九六	△九六、二一一	△一三四、〇〇九
佐賀	一〇六、三七〇	△三、七六〇	△二五、二二二	△二七、四七五
長崎	三六七、三二五	△一二、五一五	△三二、四九九	△五一、六〇九
熊本	四八三、四二五	△六五、一四五	△九三、〇八九	△一三六、五九七
大分	二九九、七二四	△四五、四九六	△七二、七四七	△七一、六七八
宮崎	一七二、四二八	△七五二	四、四二一	一、四四八
鹿兒島	二一八、二五八	△三、一〇二	△五一、八六五	△六〇、二四〇
沖繩	二、〇二二	一二	△四一	五九

昭和八年小麥收穫高

	收穫高	增減（△ハ減） 豫想收穫高ニ比シ	前年收穫高ニ比シ	前五箇年平均收穫高ニ比シ
總數	七、一二五、八六九石	△一五一、六〇一石	一、二三六、七七三石	一、三六〇、五二〇石
關東區				
茨城	七一二、五九〇	七七、五五〇	二〇一、二〇三	一九七、一二五
栃木	五〇二、五一二	五三、一八二	一四五、四〇五	一四七、七五二
群馬	四七四、一一〇	二九、六〇〇	一一六、五二八	一三〇、〇二一
埼玉	五〇四、八〇九	三五、五四九	一三二、五六七	一五三、一四二
千葉	三二四、七二一	二五、二八一	七九、七二六	一〇三、六三二
東京	九九、一八三	五、七一三	二一、四四九	一九、七八一
神奈川	一八三、九〇四	七、二七四	二九、四六八	二九、三〇三
北陸區				
富山	二〇、五三八	△一、八九二	七、六七〇	一〇、四二四
石川	六、七六〇	五七〇	二、四一九	一、八三二
福井	八、一四九	四八九	二、七一七	三、二一〇
東山區				
山梨	九三、九六九	△二、四六一	一五、〇四〇	一四、四九七
岐阜	一三一、一六五	△八、五五五	三〇、四一九	二六、二一九
東海區				
靜岡	一五二、〇六五	△一、一三五	四二、六〇五	四三、〇一八
愛知	二八二、一一〇	△一、三四〇	三〇、〇二〇	三二、三三五
三重	七八、二八一	△六、五三九	二三、七四五	二八、九〇三
近畿區				
滋賀	四二、〇七九	△二、一一一	二〇、五七五	三三、四七一
京都	三九、九一〇	△一、二〇〇	九、〇五〇	一〇、九七八
大阪	三六、九六一	△四、六四九	一七、〇六三	一七、三六五
兵庫	三六三、五九八	△五五、三七二	五、〇四九	△三、一五三
奈良	七五、四四〇	△一四、一二〇	一一、六一〇	一一、二八七
和歌山	五三、一七五	△一三、三七五	二〇、六九六	二五、七八五
中國區				
鳥取	二二、五一七	九二七	八、八六七	一一、一六七
島根	二一、二二〇	△二六〇	七、四一八	八、七二二
岡山	四五五、八五八	△五〇、一七二	三五、〇二八	三五、〇三九
廣島	一一一、七二五	△二、八七五	四七、八〇〇	四八、一六〇
山口	九九、二六四	七、〇九四	三四、九二二	四三、七一五
四國區				
德島	六三、八八五	△二、二七五	一七、八二〇	一九、四六八
香川	三一八、四四〇	△五〇、四〇〇	一〇、九五七	一二、八〇四
愛媛	八六、七七九	△九、七六一	一五、九二一	二三、三八五
高知	二三、七九六	△四、二四四	七、一八四	九、八一〇
九州區				
福岡	四六三、八七三	△五九、二五七	△四九、九七〇	△五七、三六二
佐賀	一八一、八一八	△一五、二〇二	△一二、六九二	△一二、九二六
長崎	一四五、二三二	△四、八〇八	二三、一六五	一七、〇三二
熊本	三三九、九七七	△三九、五三三	四三、六四〇	四九、八九三
大分	二二二、四四〇	△三三、二七〇	△二、〇八三	一〇、七九六
宮崎	一一九、〇五七	三、五一七	四六、一〇六	五〇、三八〇
鹿兒島	二五六、九八四	△一三、七五六	三七、七八八	六二、五〇五
沖繩	六、九七五	二一五	△一二二	一、〇一五

◎綿織物產額概況　商工省ノ調査ニ係ル昭和八年七月ノ全國綿織物產額概況左ノ如シ（商工省）

昭和八年七月ニ於ケル本邦綿織物產額ハ總額五九、四〇五、九四三圓ニシテ其內廣幅物四八、四八六、三二〇圓（八割一分六厘）、小幅物七、一六五、五六〇圓（一割二分一厘）、特殊物三、七五四、〇六三圓（六分三厘）ノ割合ナリ然シテ之ヲ前月ニ比スレハ廣幅物四分三厘、小幅物二分八厘、特殊物二分ヲ各減少シ總額ニ於テハ四分ノ減少ト爲レリ尙ホ之ヲ前年同月ニ比スレハ廣幅物六割三分五厘、小幅物四割三分四厘、特殊物三割二分四厘ヲ各增加シ總額ニ於テハ五割八分五厘ノ增加ニ當レリ更ニ之ヲ種類別ニ觀レハ廣幅物ニ於テ產額ノ最モ多キハ金巾ニシテ總額ノ二割四分ヲ占メ之ニ次クハ細綾木綿（「ジーンス」）七分五厘、綿「ネル」（生地ヲ含ム）七分一厘、粗布六分五厘、其他ノ縞木綿及織色無地六分四厘、綾木綿（「ドリル」）五分五厘、天竺四分三厘、繻子三分八厘、小倉二分六厘、天鵞絨（「コール」天ヲ含ム）二分二厘ナリ小幅物ニ於テ產額ノ最モ多キハ白木綿五分八厘縞木綿二分五厘、又特殊物ニ於テ產額ノ最モ多キハ「タオル」ノ二分八厘ニシテ其他ノ品目ハ何レモ百萬圓未滿ナリ次ニ之ヲ地方別ニ擧クレハ愛知最モ多ク總額ノ二割五分八厘ヲ占メ之ニ次クヲ大阪ノ一割三分三厘トシ以下靜岡、兵庫、愛媛、和歌山、岡山、三重、東京、德島ノ順位ニシテ其他ノ地方ハ何レモ百萬圓未滿ナリ

尙ホ產額ヲ種類別ニ示セハ次ノ如シ

種類　數量及價額	七月分 數量	七月分 價額	前月比較（△減） 數量	前月比較（△減） 價額	前年同月比較（△減） 數量	前年同月比較（△減） 價額
廣幅物						
細綾木綿（「ジーンス」）	四〇、五三三、一〇九米	四、四四九、四九六圓	一、二三六、二九二米	一三七、七九八圓	二、〇〇九、三一五米	一、六〇五、三四二圓
綾木綿（「ドリル」）	一六、〇三〇、五二九	三、二四三、四一四	△七、二三八、八二六	△一、〇七八、八〇一	△一、二〇〇、四二二	一、〇七三、六八二
繻子	一〇、四八〇、四六六	二、二八〇、九五二	四六八、八四〇	一七八、五七五	五五	八一三、三七三
金巾	九八、一九一、一一六	一四、二七九、八六〇	二、一〇七、八一五	二八、四五三	一一、六二五、七六四	五、四〇二、七四九
粗布	二三、九一一、一五七	三、八五七、五四八	△八九三、四四二	△一九六、七五八	三八一、四一六	九六三、五九八
天竺	一八、七五三、二二一	二、五四八、三一五	△四、八〇五、二一三	△七二四、〇一四	二、九五三、四六一	一、〇〇六、九九四
綿縮	七、一八七、四九〇	九四六、七四一	△九五八、四四四	△一九〇、七七六	二、一一五、六五四	四四二、二四三
小倉	五、二四七、八八六	一、五四四、八七三	△二二八、七二二	△三二、九〇二	一、五八五、八六四	六八二、六六九
綿「ネル」（生地ヲ含ム）	二五、〇九三、八五七	四、二三四、二四七	三、七九六、一六四	九四一、六四七	△五、四四五、〇三七	七二二、六〇三
帆布	一、四九六、一四六	六七九、八九五	△九九、一七六	△二一、七六六	四八一、四七八	三八四、九九七
天鵞絨（「コール」天ヲ含ム）	三、五七八、五七六	一、三三〇、四二二	四八四、五七一	一八〇、三七三	一、一七三、二二二	七〇〇、六四七
其他ノ縞木綿及織色無地	二三、七八三、四二〇	三、七八一、二一四	△一、一七七、二五三	△四四六、四六〇	一二、一六六、七九八	二、一二六、七九七
其他	—	五、三〇九、三四三	—	△九三九、二九二	—	二、八九一、九〇〇
價額計	—	四八、四八六、三二〇	—	△二、一六三、九二三	—	一八、八二七、八九四
小幅物						
白木綿	七、一〇五、二五七反	三、四二八、二八一	△一五〇、三二八〃	△六八、六八一	五〇三、一五一〃	一、一〇四、九四三
縞木綿	一、四九三、一七三	一、四九九、〇六二	△一四九、四八七	△四〇、一一七	△七一、五二三	四二五、一四八
絣木綿	四六六、〇一〇	七一四、九四〇	△一四、八六〇	△三一、三七一	四〇、七三三	一五九、三八四
織色木綿	四二九、八一五	四三〇、六四一	七二、四三四	五五、九七九	四七、二五一	一二二、二七〇
綿縮	一三七、三二四	一五一、五五七	△一〇七、六八七	△一六六、二四八	一九、二五〇	一九、一四四
蚊帳地	二六〇、三八七	七六、七一九	△五二、四七〇	△一一、七四二	九七、七五三	三五、三二三
其他	—	八六四、三六〇	—	五六、二八五	—	三〇二、五九六
價額計	—	七、一六五、五六〇	—	△二〇五、八九五	—	二、一六八、八〇八
特殊物						
「タオル」	一、四〇七、九三三打	一、六八七、〇〇五	△一九一、九五〇打	△一六一、七七〇	三〇〇、七八六打	七四四、六四九
敷布	三〇、四二四	二四一、三一四	三、三二三	二二、一二五	△二、六一二	△七三、五一七
綿毛布（肩及膝掛ヲ含ム）	九六一、六〇四枚	九八三、二〇二	七〇、六二一枚	四八、七七六	三七四、四五二枚	一一四、六五三
調帶	三二五、八三二米	六一、七五五	四九、五七五米	二二一	三一四、九八八米	五五、七二二
「ホース」	一八、〇八八	一〇、三〇〇	四、五七二	一、三〇〇	七、三一五	三、一〇〇
「テープ」	一三、二二六、五五七	五七、七六三	△五五三、一一六	△一、四八〇	五六一、六〇三	六、〇二八
其他	—	七一二、七二四	—	一五、七〇五	—	六八、八二五
價額計	—	三、七五四、〇六三	—	△七五、一二三	—	九一九、四六〇
價額合計	—	五九、四〇五、九四三	—	△二、四四四、九四〇	—	二一、九一六、一六二

◎機船底曳網漁業　機船底曳網漁業取締規則ニ依リ機船底曳網漁業ヲ許可シ許可證ヲ交付シタルモノ左ノ如シ（農林省）

一、許可番號　鳥第二一六五
住所　鳥取縣岩美郡東村大字大羽尾
氏名　奧谷長太外一人
船名　第三朝日丸
漁業名稱　機船手繰網漁業、二艘曳機船打瀬網漁業
主タル漁業根據地　鳥取縣賀露港
從タル漁業根據地　鳥取縣赤崎港、境港
操業區域　出雲國十六島鼻ヨリ正北ノ線ト但馬國猫岬ヨリ正北ノ線トノ兩線間ニ於ケル出雲國、隱岐國、伯耆國、因幡國、但馬國沖合海面
船鑑札番號　三八八
船舶總噸數　一一噸
機關ノ馬力　純馬力三〇馬力
許可期間　自昭和八年六月二十六日　至昭和十三年六月二十五日
許可年月日　昭和八年六月二十六日

二、許可番號　鳥第二五六號
住所　鳥取縣岩美郡網代村
氏名　田中文四郎
船名　第二勢進丸

第2012号本文

漁業名稱　機船手繰網漁業、二艘曳機船打瀨網漁業
主タル漁業根據地　鳥取縣網代港
從タル漁業根據地　鳥取縣赤碕港、賀露港、境港
操業區域　出雲國十六島鼻ヨリ正北ノ線ト但馬國猫岬ヨリ正北ノ線トノ兩線間ニ於ケル出雲國、隱岐國、伯耆國、因幡國、但馬國沖合海面
船鑑札番號　二二四
船舶總噸數　六噸
機關ノ馬力　純馬力一二馬力
許可期間　自昭和八年六月二十九日　至昭和十三年六月二十八日
許可年月日　昭和八年六月二十九日

三、許可番號　石第六三三號
住所　石川縣石川郡金石町字下越前町七五番地ノ一
氏名　越野與四郎
船名　長重丸
漁業名稱　機船手繰網漁業
漁業根據地　石川縣金石港
操業區域　加賀國大聖寺川口中央ヨリ北西ノ線ト能登國赤埼ヨリ正東ノ線トノ兩線間ニ於ケル石川縣沖合海面
船鑑札番號　九五一
船舶總噸數　三噸
機關ノ馬力　純馬力六馬力
許可期間　自昭和八年七月四日　至昭和十三年七月三日
許可年月日　昭和八年七月三日

四、許可番號　山口第一號
住所　山口縣下關市大字關後地村四二六番地、寺本信太郎方
氏名　野田龜太郎
船名　第五霧島丸
漁業名稱　二艘曳機船打瀨網漁業
漁業根據地　山口縣下關港
操業區域　東經百三十度以西、北緯二十五度以北ノ海面但シ北緯三十六度以北ノ日本海ヲ除ク
船舶番號　三二五一二
船舶總噸數　三六噸四五
機關ノ馬力　公稱馬力五九馬力
許可期間　自昭和八年六月二十六日　至昭和十三年六月二十五日
條件制限　一、機船底曳網漁業取締規則ニ違反シテ處罰セラレタル者ヲ乘組マシムヘカラス
二、船體ハ紺青色ニ塗裝スヘシ但シ許可番號及船名ハ白色ニテ記載スヘシ
三、朝鮮總督府、臺灣總督府及關東廳ノ定ムル機船底曳網漁業ノ禁止區域ハ之ヲ遵守スヘシ
許可年月日　昭和八年六月二十六日

五、許可番號　山口第二號
住所　山口縣下關市大字關後地村四二六番地
氏名　寺本信太郎
船名　第二晴洋丸
漁業名稱　二艘曳機船打瀨網漁業
漁業根據地　山口縣下關港
操業區域　東經百三十度以西、北緯二十五度以北ノ海面但シ北緯三十六度以北ノ日本海ヲ除ク
船舶番號　三三五一〇
船舶總噸數　三六噸四五
機關ノ馬力　公稱馬力五九馬力
許可期間　自昭和八年六月二十六日　至昭和十三年六月二十五日
條件制限　一、機船底曳網漁業取締規則ニ違反シテ處罰セラレタル者ヲ乘組マシムヘカラス
二、船體ハ紺青色ニ塗裝スヘシ但シ許可番號及船名ハ白色ニテ記載スヘシ
三、朝鮮總督府、臺灣總督府及關東廳ノ定ムル機船底曳網漁業ノ禁止區域ハ之ヲ遵守スヘシ
許可年月日　昭和八年六月二十六日

六、許可番號　長第一四一八號
住所　長崎縣長崎市旭町三丁目五番地
氏名　山下儔四郎
船名　第十三蛭子丸
漁業名稱　二艘曳機船手繰網漁業
主タル漁業根據地　長崎縣長崎港
從タル漁業根據地　長崎縣玉之浦港
操業區域　東經百三十度以西、北緯二十五度以北ノ海面但シ北緯三十六度以北ノ日本海ヲ除ク
船舶番號　三七八五七
船舶總噸數　四四噸九七
機關ノ馬力　公稱馬力八四馬力
許可期間　自昭和八年七月四日　至昭和十三年七月三日
條件制限　一、機船底曳網漁業取締規則ニ違反シテ處罰セラレタル者ヲ乘組マシムヘカラス
二、船體ハ綠色ニ塗裝スヘシ但シ許可番號及船名ハ白色ニテ記載スヘシ
三、朝鮮總督府、臺灣總督府及關東廳ノ定ムル機船底曳網漁業ノ禁止區域ハ之ヲ遵守スヘシ
許可年月日　昭和八年七月三日

◎鑛業事項

鑛業法ニ依リ處分シタルモノ左ノ如シ（商工省）

試掘願許可

登錄番號	鑛區所在地	鑛種	面積	鑛業權者住所氏名	許可及登錄ノ月日
新潟一一、〇六〇	刈羽郡中通村、三島郡大積村	石油	五五九、五〇〇坪	長岡市坂之上町二丁目 大日本石油鑛業株式會社	八年五、二
岐阜三、二〇三	大野郡清見村、莊川村	金、銀、銅	三一七、九〇〇	東京市小石川區音羽町五丁目 碧海 康溫	五、二
長野二、一二九	長野市、上水內郡芋井村、小田切村、安茂里村	石油	八七六、二〇〇	同市麴町區丸ノ內三丁目 日本石油株式會社	五、二
茨城一、四九一	多賀郡華川村、關南村、關本村	石炭	七四四、一〇〇	同市同區丸ノ內一丁目 淺野同族株式會社	五、二
靜岡二、一〇一	引佐郡三ヶ日町	滿俺	二九七、五〇〇	名古屋市東區杉村町 藤岡 豊太郎 外二人	五、三
栃木二、三七一	上都賀郡眞名子村	同	六〇、〇〇〇	栃木縣上都賀郡清洲村 大貫 辰三	五、三
茨城一、四九二	久慈郡佐原村、大子町	金、銀	五八〇、七〇〇	東京市牛込區市谷河田町 磯塚 三夫	五、三
新潟一一、〇六一	刈羽郡高田村、柏崎町	石油	八四五、〇〇〇	新潟縣中蒲原郡金津村 中野興業株式會社	五、六
同　一一、〇六二	北魚沼郡川口村	同	二九〇、二〇〇	東京市麴町區丸ノ內二丁目 日本鑛業株式會社	五、六
同　一一、〇六三	中頸城郡下黑川村、米山村、柿崎村	同	六八四、六〇〇	同市同區丸ノ內三丁目 日本石油株式會社	五、六
同　一一、〇六四	三島郡大積村、刈羽郡北條村	同	七六二、六〇〇	同　上	五、六
同　一一、〇六五	刈羽郡西中通村、荒濱村、柏崎町	同	七四〇、三〇〇	同　上	五、六
同　一一、〇六六	古志郡北谷村	同	九九、〇〇〇	同　上	五、六
靜岡二、一〇二	安倍郡梅ヶ島村、井川村	金、銀、銅	五七四、〇〇〇	同市日本橋區箱崎町四丁目 名和 久諮	五、八
栃木二、三七二	河內郡城山村、上都賀郡落合村	同	一四五、二〇〇	栃木縣河內郡大澤村 福田 角吉	五、八
岐阜三、二〇四	本巢郡外山村、揖斐郡長瀨村	滿俺	三八四、六〇〇	名古屋市東區長久寺町 伊川 重良	五、八
同　三、二〇五	加茂郡八百津町、久田見村	金、銀、銅	一一三、二〇〇	福井縣敦賀郡敦賀町 市橋 與四郎 外一人	五、八
同　三、二〇六	吉城郡河合村	金、銀	六三二、八〇〇	岐阜縣大野郡高山町 長戶 松造	五、八
新潟一一、〇六七	刈羽郡中通村、二田村	石油	四二六、五〇〇	長岡市坂之上町二丁目 大日本石油鑛業株式會社	五、九
靜岡二、一〇三	富士郡柚野村	金、銀、銅	九七九、四〇〇	靜岡縣磐田郡久努村 田中 米吉 外一人	五、九
新潟一一、〇六八	刈羽郡刈羽村、高濱町	石油	七三〇、〇〇〇	東京市麴町區丸ノ內三丁目 日本石油株式會社	五、一一
同　一一、〇六九	中頸城郡吉川村、源村	同	三三二、八〇〇	同　上	五、一一
山梨　九一七	東八代郡田野村、北都留郡笹子村	金、銀、銅、硫化鐵	九五二、〇〇〇	川越市小仙波町 太田 直太郎	五、一一
栃木二、三七三	上都賀郡足尾町	金、銀、銅	四一〇、五〇〇	東京市淀橋區柏木五丁目 高山 長次郎	五、一一
靜岡二、一〇四	賀茂郡仁科村、宇久須村	金、銀	四九四、五〇〇	同市麴町區丸ノ內一丁目 持越金山株式會社	五、一一
新潟一一、〇七〇	刈羽郡田尻村、柏崎町	石油	五三八、七〇〇	同市同區丸ノ內三丁目 日本石油株式會社	五、一九
靜岡二、一〇五	榛原郡萩間村、菅山村、相良町	同	五四四、四〇〇	同　上	五、一九
山梨　九一八	北巨摩郡鳳來村	金、銀、鉛	四三、一〇〇	山梨縣北巨摩郡穴山村 河西 慶直	五、一九
同　九一九	南都留郡中野村	金、銀、銅	一二八、〇〇〇	同縣南都留郡中野村 小林 松太郎 外一人	五、一九
長野二、一三〇	南佐久郡北相木村	同	九五二、〇〇〇	同縣北巨摩郡大泉村 三井 佑雄 外一人	五、一九
同　二、一三一	埴科郡南條村、中之條村、小縣郡傍陽村、上田市	金、銀、銅、鉛、亞鉛	九九〇、〇〇〇	大阪市北區東梅田町 川治 まさ	五、一九
同　二、一三二	南安曇郡安曇村	滿俺	二六九、四〇〇	橫濱市中區永田町 石崎 久也 外一人	五、一九
同　二、一三三	諏訪郡下諏訪町	硫黃	六〇、〇〇〇	東京市瀧野川區田端町 杉澤 鷹之助 外一人	五、一九
栃木二、三七四	安蘇郡氷室村	滿俺	一一六、八〇〇	同市澁谷區公會堂通 加藤 豊治	五、一九
同　二、三七五	上都賀郡今市町	金、銀、銅	四九三、〇〇〇	栃木縣上都賀郡日光町 池田 留吉	五、一九
同　二、三七六	安蘇郡飛駒村	金、銀、銅、重石、硫化鐵	七七五、二〇〇	桐生市清水町 岩崎 誠藏	五、一九
岐阜三、二〇七	武儀郡洞戶村、板取村	金、銀、銅、鉛、亞鉛	六四〇、〇〇〇	東京市京橋區築地三丁目 合資會社フアブルブランド商會	五、二二
同　三、二〇八	同郡上牧村、下牧村	銀、銅、鉛、亞鉛	三五三、七〇〇	同　上	五、二二
同　三、二〇九	同郡乾村	銅、鉛、亞鉛	三二九、四〇〇	同　上	五、二二
山梨　九二〇	南巨摩郡硯島村	金、銀、銅	一三七、六〇〇	山梨縣南巨摩郡硯島村 石坂 孝吉 外一人	五、二三
同　九二一	北都留郡笹子村、初狩村	銅	二六九、六〇〇	東京市麴町區丸ノ內仲通 平井 虎二 外一人	五、二四
岐阜三、二一〇	大野郡丹生川村	滿俺	一五八、三〇〇	岐阜縣大野郡高山町 佐藤 彰	五、二四
長野二、一三四	西筑摩郡田立村	金、銀	八六一、五〇〇	靜岡縣濱名郡飯田村 杉本 守三郎 外一人	五、二五
群馬一、四〇九	利根郡片品村	同	四六六、八〇〇	群馬縣利根郡片品村 千明 三郎	五、二五
埼玉　四八〇	入間郡名栗村、東京府西多摩郡成木村	金、銀、銅、鐵	三四九、六〇〇	東京府西多摩郡成木村 橫田 春吉	五、二五
岐阜三、二一一	大野郡清見村	金、銀	二七五、六〇〇	岐阜市白木町 櫟原 孝次郎	五、二六
同　三、二一二	吉城郡河合村	同	一八三、〇〇〇	岐阜縣大野郡高山町 松本 末吉 外一人	五、二六
長野二、一三五	小縣郡東鹽田村、川邊村、上田市	石炭	九八五、二〇〇	上田市大字上田 川上 八郎	五、二六
靜岡二、一〇六	田方郡上狩野村	金、銀	七三三、七〇〇	東京市品川區東大崎三丁目 重宗 雄三	五、二七
同　二、一〇七	安倍郡井川村	同	二八四、一〇〇	山梨縣南巨摩郡都川村 望月 渡 外一人	五、二七
新潟一一、〇七一	中蒲原郡七谷村、南蒲原郡鹿峠村	金、銀、銅、鐵	七五七、六〇〇	新潟縣中蒲原郡大鄕村 遠藤 傳平	五、三〇
同　一一、〇七二	岩船郡鹽野町村	金、銅、鉛、亞鉛、水鉛、重石	一二三、八〇〇	同縣岩船郡鹽野町村 中山 ギン 外一人	五、三〇
靜岡二、一〇八	富士郡柚野村、山梨縣西八代郡榮村	金、銀	八〇七、八〇〇	濱松市菅原町 山田 佐九市 外二人	五、三〇
同　二、一〇九	安倍郡梅ヶ島村、井川村	金、銀、銅	七四七、二〇〇	東京市芝區高輪北町 今井 榮之助	五、三〇
群馬一、四一〇	利根郡水上村	金、銀、銅、鉛、亞鉛、硫化鐵	九〇五、二〇〇	同市同區田村町一丁目 廣瀨 爲久	五、三〇
同　一、四一一	同郡新治村、桃野村	金、銀、銅	二七七、二〇〇	富山縣氷見郡氷見町 古戶 孫右衞門	五、三〇
同　一、四一二	同郡水上村	金、銀、銅、鉛、亞鉛、硫化鐵	七八八、七〇〇	東京市芝區田村町一丁目 廣瀨 爲久	五、三〇
栃木二、三七七	河內郡豐岡村、上都賀郡今市町	金、銀、銅、水鉛	七六一、〇〇〇	同市麴町區下六番町 淺田 恭輔	五、三〇
同　二、三七八	上都賀郡西大蘆村	金、銀、銅、鉛、亞鉛、錫、蒼鉛、重石	五四九、九〇〇	宇都宮市今泉町 鈴木 滋二	五、三〇
同　二、三七九	同郡清洲村	滿俺	二五三、六〇〇	栃木縣下都賀郡壬生町 大山 正一	五、三〇
長野二、一三六	諏訪郡長地村、下諏訪町	金、銀、銅	九五七、〇〇〇	長野縣諏訪郡下諏訪町 吉澤 傳藏 外二人	五、三〇
埼玉　四八一	入間郡名栗村	金、銀	一〇六、五〇〇	東京市本鄕區本鄕五丁目 佐藤 靈樞	五、三〇

第2012号本文

○遞　信

◎郵便振替貯金加入承認取消　左記郵便振替貯金加入者ハ郵便振替貯金規則第八十二條ニ依リ今十三日限加入承認ヲ取消サレタリ（遞信省）

大阪二七一八六番　大阪市南區鹽町通二ノ二〇　合資會社楠標記製作所　代表者　長濱　高光

○衛　生

◎國際傳染病報告　本件ニ關シ本月八日在新嘉坡保健部東局ヨリ西貢無線電信局ヲ經テ左ノ通情報アリタリ（本月七日本聯内參着）（内務省）

自八月二十七日至九月二日國際傳染病狀況

港及地名	「ペスト」				「コレラ」				痘瘡			
	患者	（一月以來）累計	死者	（同上）累計	患者	（同上）累計	死者	（同上）累計	患者	（同上）累計	死者	（同上）累計
上海	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	二	二二〇	ー	五九
プノンペン	ー	二五	二	二三	ー	ー	ー	ー	二	二	ー	ー
セブ	ー	ー	ー	ー	一	二	ー	一	ー	ー	ー	ー
蘭貢	ー	六	ー	五	ー	六	ー	三	一	七〇	ー	一一
バセイン	ー	四八	ー	二四	ー	ー	ー	ー	四	一四八	ー	四四
カルカッタ	ー	ー	ー	ー	二一	一、七六六	ー	七八四	四	四、九五二	ー	三、四二八
マドラス	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	六三	三、〇二二	ー	七四
ネガパタム	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	二	六七	ー	五
コーチン	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	二	二〇	ー	ー
西貢	二	二	ー	ー	ー	一〇	ー	三	一	三、八〇四	ー	二、一一三
バグダッド	一	一四	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー

（摘要）前號報告中西貢、ショロンニ於ケル「ペスト」患者一ハ誤報ニ付取消ス

○雜　事

◎日本海員掖濟會月報　日本海員掖濟會各地出張所及高等海員養成所ニ於ケル昭和八年七月中ノ事業成績左ノ如シ（遞信省）

事業種別	所別		横濱	大阪	神戸	門司	長崎	函館	小樽	東京	四日市	名古屋	呉	佐世保	計	前年同期成績	本年度累計
普通海員養成	入所者		一三	四五	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	五八	一一	一三六
	終業者		一〇	一一	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	二一	四一	九八
高等海員養成	入學者		ー	ー	七	一四	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	三	二四	二三	八一
	船舶職員試驗合格者		ー	ー	三	二	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	五	三	三七
海員宿泊	實人員		二五一	三二	一七	二五	一〇二	二〇	三三	八一	八五	二六六	ー	ー	九一二	七三一	三、五六三
	延人員		八三七	二二六	八五九	一三八	一〇八	一一七	四二〇	三一七	二〇四	四六九	ー	ー	三、六九五	四、〇四七	一五、六四四
患者治療	入院	實人員	三四	四三	六〇	二三	ー	二	四	ー	ー	ー	ー	ー	一六六	一一七	五七五
		延人員	一、二三二	一、〇三五	一、九九三	六四七	三一	一〇五	一九一	ー	ー	ー	ー	ー	五、二三四	三、七九〇	一九、四七六
	外來	實人員	三二〇	一、〇八八	四七九	三一八	一六一	三一	五八	七二	ー	ー	ー	ー	二、五二七	二、二八九	一〇、三五五
		延人員	一、一四〇	五、八二五	二、七〇五	一、一一八	二七一	九〇	八四	一二〇	ー	ー	ー	ー	一一、三五三	一〇、一三二	四四、八三一

在外公館報告

◎蘇州及無錫地方秋繭　本件ニ關スル本月九日著蘇州駐在領事川南省一電報左ノ如シ（外務省）

蘇州及無錫地方ニ於ケル秋繭ノ掃立高ハ約七十萬枚ニシテ作柄稍ヽ佳良ナリ繭ノ取引ハ既ニ三、四日前ヨリ開始セラレ八日マテニ絹行ノ開業セルモノ百二十餘軒相場ハ一擔三十五弗内外ナリ

◎米棉第二回收穫豫想　本件ニ關スル本月九日著ニューオルレアンス駐在領事代理佐藤由已電報左ノ如シ（外務省）

米棉第二回收穫豫想ハ一千二百四十一萬四千俵ニシテ第一回ニ比シ十萬俵ノ增加ナリ右ハミシシッピー以東ノ各州ハ其後天候不良害蟲ノ發生ニ基キ一、二州ヲ除キ減收ノ見込ナルニ拘ラステキサス、オクラホマ、アーカンソー等ノ重要産地ニ於ケル天候適順ニシテ增收豫想ナルカタメナリ

九月一日現在植付段別三千三萬六千英段同日マテノ繰上高一百三十九萬四千俵相場ハ九月八日、十二月限九仙三十一ニシテ前日ヨリ十五「ポイント」上騰セリ政府發表ノ增收豫想カ一般思惑ヨリ尠カリシタメナリ

觀　象

◎全國氣象表（正午觀測）

（備考）氣溫ノ部一印ハ氷點下ノ度ヲ示シ降水量ハ當日午前六時ヨリ翌日午前六時迄ノ總量ナリ

地名	氣壓（粍）	風向	風速（米）	氣溫（攝氏）	天氣	降水量（粍）
九月九日						
臺北	758.7	東	5	31	晴	1
那覇	759.0	東北東	6	29	薄曇	ー
鹿兒島	762.1	東北東	2	29	快晴	ー
高知	762.7	南東	2	30	晴	ー
大分	762.7	東北東	3	28	快晴	ー
多度津	762.4	北	2	29	快晴	ー
廣島	762.7	南南西	2	29	快晴	ー
大阪	762.4	南西	3	31	快晴	ー
長崎	762.7	西北西	3	29	晴	ー
福岡	763.0	北	3	28	快晴	ー
濱田	762.6	西南西	6	27	快晴	ー
名古屋	762.7	靜穩	1	31	晴	ー
横濱	762.2	南南西	5	28	晴	ー
東京	762.1	南	4	29	晴	ー
銚子	762.4	南南西	5	28	曇	ー
長野	760.2	南南西	2	29	快晴	ー
前橋	761.4	東	3	29	煙霧	ー
宇都宮	761.6	南	2	29	晴	ー
福島	761.2	靜穩	1	31	快晴	ー
福井	761.9	靜穩	1	32	快晴	ー
新潟	761.9	西南西	5	29	快晴	ー
秋田	761.7	西南西	5	27	曇	ー
石巻	761.2	南南西	2	26	快晴	ー
盛岡	761.0	南南西	2	28	晴	ー
青森	760.0	西	8	28	曇	ー
函館	759.7	西南西	3	24	曇	ー
札幌	758.5	南東	2	24	曇	4
旭川	757.7	靜穩	1	24	曇	ー
根室	759.1	南西	4	21	曇	ー
大泊	758.3	西南西	3	17	曇	11
釜山	761.6	西南西	3	27	晴	ー
仁川	761.5	西南西	5	25	曇	ー
元山	759.3	西	4	25	快晴	ー
城津	758.6	南東	2	25	快晴	ー
新義州	762.2	靜穩	1	24	晴	ー
大連	762.9	西北西	4	26	晴	ー
奉天	761.5	西	3	21	晴	ー
新京	759.9	西	2	18	晴	ー
天津	762.6	南東	4	28	薄曇	ー
青島	763.3	北北西	3	24	曇	ー
上海	761.8	靜穩	1	29	曇	ー
同十日						
臺北	756.8	南東	10	33	曇	ー
那覇	761.7	東	5	29	晴	ー
鹿兒島	763.7	南東	2	30	快晴	ー
高知	764.1	靜穩	1	31	晴	ー
大分	764.1	東北東	3	28	快晴	ー
多度津	763.5	北北西	3	30	快晴	不明
廣島	763.7	靜穩	1	30	快晴	ー
大阪	763.5	東	3	31	晴	ー
長崎	763.8	西北西	3	30	快晴	ー
福岡	763.9	北	3	29	快晴	ー
濱田	764.1	西南西	2	28	快晴	ー
名古屋	763.7	北	2	32	晴	ー
横濱	763.1	南東	3	30	快晴	ー
東京	763.2	南	3	29	煙霧	ー
銚子	763.5	南南東	3	28	快晴	ー
長野	762.2	東	3	29	快晴	1
前橋	762.3	東南東	3	31	快晴	ー
宇都宮	763.0	南南西	2	30	快晴	ー
福島	762.4	南	2	31	晴	ー
福井	763.8	靜穩	1	31	曇	ー
新潟	764.1	北北西	5	26	快晴	不明
秋田	764.1	西北西	4	25	薄曇	ー
石巻	761.4	西南西	3	30	晴	ー
盛岡	762.4	西南西	7	26	曇	ー
青森	762.7	西北西	9	24	曇	ー
函館	761.4	西北西	8	24	曇	ー
札幌	760.2	北西	4	23	薄曇	ー
旭川	758.8	西	6	22	曇	2
根室	757.3	西	4	21	曇	ー
大泊	756.3	北北東	4	16	曇	ー
釜山	763.6	南南東	3	27	快晴	ー
仁川	764.7	北西	2	24	曇	ー
元山	763.8	靜穩	1	26	曇	ー
城津	764.3	南東	2	23	曇	ー
新義州	763.8	南	5	25	曇	ー
大連	763.4	南南西	10	24	曇	ー
奉天	761.8	西北西	3	23	晴	ー
新京	758.8	西南西	4	24	曇	ー
天津	761.6	南	2	26	薄曇	ー
青島	764.1	南東	3	25	曇	92
上海	762.7	東	2	29	晴	22

◎東京氣象

九月九日　天氣概況　晴

平均氣壓（海面ノ度）	七六二・一粍	平均水蒸氣張力	一七・九粍
平均氣溫	二五・五度	平均雲量	四・八
平年ヨリ二・〇度高シ		日照時間	一〇・一時
最高氣溫	三〇・〇度	平均風速度	三・〇米
最低氣溫	二一・〇度	最大風速度	七・〇米
前五日間平均氣溫	二四・九度	最多風向	南
平年ヨリ一・一度高シ		降水總量	ー
平均濕度	七五％	一時間最大降水量	ー
		記事	ー

同十日　天氣概況　晴

平均氣壓（海面ノ度）	七六三・三粍	平均水蒸氣張力	一八・五粍
平均氣溫	二六・三度	平均雲量	二・一
平年ヨリ二・九度高シ		日照時間	九・九時
最高氣溫	三〇・九度	平均風速度	二・〇米
最低氣溫	二一・六度	最大風速度	四・二米
前五日間平均氣溫	二四・八度	最多風向	南
平年ヨリ一・一度高シ		降水總量	ー
平均濕度	七三％	一時間最大降水量	ー
		記事	ー

（以上中央氣象臺）

土地收用公告

昭和八年八月十五日内務大臣ノ事業認定ニ係ル大阪府知事起業府縣道木屋私部線道路改築ノ爲收用スヘキ土地ノ細目左ノ如シ

昭和八年九月十三日　大阪府知事　縣　忍

大阪府北河内郡友呂岐村大字郡五九七田

昭和八年八月十五日内務大臣ノ事業認定ニ係ル中河内郡小阪町長起業町村道新設並改築ノ爲收用スヘキ土地及物件所在土地並所有權以外ノ權利所在土地ノ細目左ノ如シ

昭和八年九月十三日　大阪府知事　縣　忍

收用スヘキ土地

大阪府中河内郡小阪町大字中小阪四五〇ノ一、六三三宅地

收用スヘキ物件所在土地

大阪府中河内郡小阪町大字中小阪六一五宅地

收用スヘキ所有權以外ノ權利所在土地

大阪府中河内郡小阪町大字中小阪四五〇ノ一、四五一ノ三、四四六、五七〇、五七一、五八五、六二二、六二七ノ一宅地

廣　告

◎高等試驗行政科口述試驗公告

本月二十五日ヨリ高等試驗行政科本試驗ノ口述試驗ヲ左記ノ通施行ス

一試驗ノ場所　東京市麴町區内幸町　貴族院内高等試驗場

一試驗日割

一	河野年夫
三	村田喜一
五	橋本正之
七	池高昉
九	國塩研二郎
一一	和氣幹雄
一三	杉野濤太郎
一五	平島顯一
一七	岩武照彥
一九	白木万里
二一	山本英也
二三	松本孝一
二五	鈴木英
二七	高田敏一
二九	冠木四郎
三一	掛川忠
三三	山口鐵四郎
三五	森巖夫
三七	香取敬司
三九	近藤晴夫
四一	前田嘉壽夫
四三	高橋敬
四五	金谷信孝
四七	中野次雄
四九	栗澤一男
五一	小田原登志郎
五三	渡邊蕭
五五	平田治人
五七	稻垣由吉
五九	栗山松一
六一	晉燄鐘
六三	佐久洋
六五	信原明
六七	齋藤邦吉
六九	福島三好
七一	永田彥一郎
七三	下田三千夫
七五	野口俊一
七七	盧龍鎬
七九	富淵照也
八一	菅谷英次郎
八三	小池隆信
八五	伊藤愿
八七	田村健治
八九	鈴木重雄
九一	山下平一
九三	中山堅吉

二	小野崎權七
四	今泉三郎
六	尹鐘華
八	瀧野達雄
一〇	酒井正從
一二	河合喜代治
一四	岡村三郎
一六	櫻井直堅
一八	野見山勉
二〇	田澤義正
二二	小川鍛
二四	内田泰玄
二六	時津秀男
二八	森井節雄
三〇	田中彰
三二	福間定朝
三四	宇野範三郎
三六	中村卓
三八	中村宏策
四〇	李海翼
四二	池畑祐治
四四	赤野敬止
四六	近江忠次
四八	中山幹雄
五〇	高坂正雄
五二	宮前憲三
五四	高田正巳
五六	船越金太郎
五八	柳本孝正
六〇	中川叢
六二	波々伯部忠光
六四	小和田康長
六六	秋山次郎
六八	松尾金藏
七〇	鳥羽久五郎
七二	原田一郎
七四	澤田建男
七六	司下恒三郎
七八	早川宗比古
八〇	田中四郎
八二	菅原透
八四	徐承杓
八六	前田寛
八八	藤岡政一
九〇	玄錫虎
九二	磯村毅利
九四	中村平四郎

九五	新田光衛
九七	竹内進
九九	櫻井一郎
一〇一	久武猛彥
一〇三	柳沼重三
一〇五	林聰敏
一〇七	笠原喜代佐武
一〇九	橋本龍伍
一一一	太田九州男
一一三	沼田喜三雄
一一五	森尙孝
一一七	天野高明
一一九	中野匡
一二一	有吉正躬
一二三	大田正
一二五	岩淵實
一二七	八重樫運吉
一二九	北村純一
一三一	牧光雄
一三三	吉田豐信
一三五	池本恭
一三七	久米武文
一三九	浦田義人
一四一	湯澤茂彌太
一四三	熊谷林作
一四五	李泰璐
一四七	横堀東一
一四九	榎本逸郎
一五一	弘島昌
一五三	濱島敏雄
一五五	梅原俊雄
一五七	鈴木和
一五九	秋山岩太
一六一	中井孝夫
一六三	白水博愛
一六五	江下忠
一六七	岡孚
一六九	久保昇
一七一	曾我與三郎
一七三	古郡節夫
一七五	阿久津英三
一七七	松田文藏
一七九	北原三男
一八一	秋山淸一
一八三	岡井朝太郎
一八五	劔持平八郎
一八七	石原敏夫
一八九	菅江秀治
一九一	藤村久生

九六	須賀賢二
九八	持田公
一〇〇	岩本晋一郎
一〇二	木下二
一〇四	松村弘
一〇六	增野陽山
一〇八	米澤九野
一一〇	福島昇
一一二	波多野靜夫
一一四	堺田眞夫
一一六	八木新次
一一八	權田良彥
一二〇	岩竹貢
一二二	吉岡千代三
一二四	高田正美
一二六	内藤半三
一二八	小野塚彬樹
一三〇	山本祝
一三二	山下榮吉
一三四	下城義三郎
一三六	鎌田貞雄
一三八	西阪文雄
一四〇	守屋博
一四二	田村基一
一四四	稻田義三
一四六	上羽壽夫
一四八	藤井周吉
一五〇	大山綱隆
一五二	前田榮五郎
一五四	池田廣男
一五六	岡一雄
一五八	祖川武夫
一六〇	丸山信
一六二	松原榮
一六四	小島一郎
一六六	西原英夫
一六八	武田邦雄
一七〇	大村吉衞
一七二	神田坤六
一七四	橘照雄
一七六	久留島孜
一七八	赤池健
一八〇	和栗博
一八二	加見光太郎
一八四	古屋亨
一八六	正和昌三
一八八	水野達雄
一九〇	根本一郎
一九二	宮崎直勝

第2012号本文

一九三	植田夏次
一九五	熊野鶴次郎
一九七	辻畑順一
一九九	浦島繁
二〇一	長濱周吉
二〇三	福田祐一
二〇五	伊藤政吉
二〇七	木本勝
二〇九	中島重喜
二一一	岡崎文士
二一三	鈴木節郎
二一五	峯澤大義
二一七	今泉兼寛
二一九	茨木純一
二二一	石井登
二二三	榎園喜德
二二五	藤田次郎
二二七	西宗直
二二九	西澤權一郎
二三一	崔裏永
二三三	榊原孝
二三五	伊藤信男
二三七	尾崎亀太郎
二三九	金時明
二四一	川崎延壽
二四三	田邊繁雄
二四五	勝本朝男
二四七	金熙德
二四九	菅井和一
二五一	大島斐雄
二五三	鈴木敬人
二五五	小平寛司
二五七	石原周夫
二五九	大角祐吉
二六一	正木崇
二六三	水野左一郎
二六五	新見重仁
二六七	野島酉藏
二六九	宇都榮二
二七一	西村俊介
二七三	加地常弌
二七五	金野連之助
二七七	川添利起
二七九	福田洌
二八一	石井喬
二八三	山口喜雄
二八五	中西實
二八七	原純夫
二八九	神谷秀夫
一九四	中垣清春
一九六	小林三郎
一九八	坂田優治
二〇〇	渡邊秀一
二〇二	崔周永
二〇四	小沼次男
二〇六	龜岡充
二〇八	松尾繁喜
二一〇	小西喜一
二一二	鄭用信
二一四	田中秀雄
二一六	梅田邦彦
二一八	全禮鎔
二二〇	並木平治
二二二	渡部伍良
二二四	安永茂弘
二二六	幸田午六
二二八	永谷眞一
二三〇	水ノ江利克
二三二	大貫英雄
二三四	瀧口麟
二三六	野田久雄
二三八	渡邊廉一
二四〇	緒方鐵次
二四二	李榮燦
二四四	下原潔
二四六	妹尾茂喜
二四八	石岡實
二五〇	香取博史
二五二	三木良雄
二五四	藤田久一
二五六	西原直廉
二五八	山田誠
二六〇	佐野勤
二六二	大槻義公
二六四	鈴木高麗雄
二六六	東浦英男
二六八	繁本俊雄
二七〇	飯島貞雄
二七二	森誓夫
二七四	江口武夫
二七六	仙石永博
二七八	小里玲
二八〇	金澤平藏
二八二	相馬道男
二八四	寺中作雄
二八六	吉村弘義
二八八	高橋常道
二九〇	大井武一
二九一	向井四郎
二九三	岡野幸之助
二九五	池田正雄
二九七	内田東鶴
二九九	宇佐川秀
三〇一	久保龜夫
三〇三	磯前光輔
三〇五	市川茂
三〇七	大澤正
三〇九	坂本義雄
三一一	奥原日出男
三一三	井上正弘
三一五	安西正道
三一七	高木省一
三一九	飼手眞吾
三二一	棟尾勳
三二三	大熊貞邦
三二五	永松信敬
三二七	加藤陽三
三二九	渡邊鎭雄
三三一	藤本重一
三三三	狩野正好
三三五	小林巳根夫
三三七	寺光忠
三三九	綿貫正次
三四一	土田滋
三四三	丹羽知治郎
三四五	川村鈴次
三四七	宮崎保興
三四九	江村重藏
三五一	林益謙
三五三	青山政雄
三五五	林桂端
三五七	岩切道男
三五九	伊藤修助
三六一	緒方政德
三六三	林憲平
三六五	岩瀬主一
三六七	石原辰次郎
三六九	坂上捨松
三七一	高秉國
三七三	吉田榮三郎
三七五	安部覺
三七七	中村義明
二九二	黃介壽
二九四	加藤春吉
二九六	松尾泰一郎
二九八	弘津恭輔
三〇〇	上田新
三〇二	酒井弘
三〇四	下村治
三〇六	柏村信雄
三〇八	吉田威雄
三一〇	平河一夫
三一二	增田潔
三一四	前田弘
三一六	武內繁
三一八	板井俊雄
三二〇	枡田光
三二二	飛田勇
三二四	酒井俊彦
三二六	有賀弘
三二八	川上爲治
三三〇	村松萬壽治
三三二	榮木忠常
三三四	箕勝
三三六	江崎千準
三三八	阿河準一
三四〇	韓鍾建
三四二	渡邊祥夫
三四四	小野澤龍雄
三四六	荻野英男
三四八	中倉貞重
三五〇	植木昇
三五二	鈴木慶太郎
三五四	角田忠夫
三五六	小林一郎
三五八	小泉彌六
三六〇	新宮賢藏
三六二	栗原勝
三六四	下垣嘉一郎
三六六	笠島永之助
三六八	森下龍一
三七〇	加藤成友
三七二	藤田太郎
三七四	成田彦政
三七六	潮松治
三七八	村田利雄

九月二十五日(月)	午前	憲法 自一番至一四番	行政法 自一一三番至一四〇番	刑法 自一九九番至二〇六番 自二四八番至二五三番	農業政策 自二二九番至二三一番 二九九番 三〇〇番 三〇五番
	午後	憲法 自一五番至二八番	行政法 自一四一番至一六八番	刑法 自二五四番至二六七番	社會政策 二四五番 二四六番 自二九六番至二九八番 三〇七番 三二六番
九月二十六日(火)	午前	憲法 自二九番至四二番	行政法 自五七番至八四番	刑法 自二六八番至二八一番	經濟學 自一九一番至二〇二番
	午後	憲法 自四三番至五六番	行政法 自八五番至一一二番	刑法 自二八二番至二九三番	經濟學 自二〇三番至二一二番 二九四番 二九五番
九月二十七日(水)	午前	憲法 自五七番至七〇番	行政法 自一六九番至一九六番	刑法 自一番至一四番	經濟學 自二九六番至三〇四番
	午後	憲法 自七一番至八四番	行政法 自一九七番至二二四番	刑法 自一五番至二八番	國際公法 自一六四番至一六七番 自一八〇番至一八二番 一九五番 自三一一番至三一三番 自三二五番至三二七番
九月二十八日(木)	午前	憲法 自八五番至九八番	行政法 自二二五番至二五二番	刑法 自二九番至四二番	國際公法 自一三七番至一五〇番
	午後	憲法 自九九番至一一二番	行政法 自二五三番至二八〇番	刑法 自四三番至五六番	國際公法 自一五一番至一六三番
九月二十九日(金)	午前	憲法 自一一三番至一二六番	行政法 自二八一番至三〇八番	刑法 自五七番至七〇番	刑事訴訟法 自一六八番至一八一番
	午後	憲法 自一二七番至一四〇番	行政法 自三〇九番至三三六番	刑法 自七一番至八四番	刑事訴訟法 自一八二番至一九〇番 自二四八番至二五一番
九月三十日(土)	午前	憲法 自一四一番至一五四番	行政法 自三三七番至三六四番	刑法 自八五番至九八番	刑事訴訟法 自二五二番至二六四番
	午後	憲法 自一五五番至一六八番	行政法 自三六五番至三七八番	財政學 自二二二番至二二八番 自三〇一番至三〇六番 三一九番 三二五番	刑事訴訟法 自二六五番至二六九番 自三〇八番至三一〇番 自三二〇番至三二四番
十月二日(月)	午前	憲法 自一六九番至一八二番	行政法 自一番至二八番	民法 自一三三番至一三六番 自二七〇番至二七八番	經濟史 二四七番 三二八番 三二九番
	午後	憲法 自一八三番至一九六番	行政法 自二九番至五六番	民法 二七九番 自三〇八番至三一九番	民事訴訟法 二九三番 自三二一番至三二三番

十月三日(火)	午前	憲法 自一九七番至二一〇番	商法 二三七番 二三八番 自二八三番至二九二番	民法 自一〇七番至一一九番	政治史 自二三九番至二四一番 政治學 自二四二番至二四四番 三〇六番 三〇七番 三二七番
	午後	憲法 自二一一番至二二四番	商法 自三一四番至三一七番 三二四番	民法 自一二〇番至一三二番	
十月四日(水)	午前	憲法 自二二五番至二三八番	商業政策 自二一三番至二二一番 二九四番 三一八番 三二八番 三二九番		
	午後	憲法 自二三九番至二四七番			

一受驗人ハ氏名ノ上ニ記セル番號ヲ前表記載ノ番號ニ對照シ受驗日時ヲ了知セラルヘシ

一午前ノ受驗人ハ午前七時三十分マテニ、午後ノ受驗人ハ午前十一時三十分ヨリ午後零時三十分マテノ間ニ高等試驗場ヘ出頭當日ノ受驗科目ヲ記載シタル名刺ヲ受付ニ差出シ受驗順番票ヲ受ケラレタシ

右指定時間外ノ入場ヲ許サス

昭和八年九月

高等試驗委員長　黑崎　定三

◎恤兵金品

今回ノ滿洲事變ニ際シ明治三十七年陸軍省告示第四號ニ依リ受領シタル寄附金、寄附者住所氏名及寄贈品同價格竝ニ寄贈者住所氏名左ノ如シ

昭和八年九月　陸軍恤兵部

寄附金ノ部（代表名ノモノハ内譯ヲ省略ス）

金員　現住所 官職位勳爵族籍　氏名

八年三月八日

朝鮮

一〇・〇〇　咸鏡南道咸興府山形旅館内　藤永　楳岳

東京府

七七・五〇　東京市麴町區丸ノ内一丁目鐵道省大臣官房保健課内　保健課員、東京鐵道病院在郷軍人會有志代表從五位勳五等　影近　清毅

一〇〇・〇〇　同中六番町五三　帝國在郷軍人會麴町區分會第七班代表、班長　長谷川久四郎

一〇・〇〇　同京橋區月島西仲通四ノ二　東京月島ツバメ會代表　島井千代吉

四・二〇　同芝區西久保巴町鞆繪尋常高等小學校高一ノ四組代表（岩堀　美代　沼　玉喜

三・〇〇　同赤坂區青山南町五丁目　東京府青山師範學校附屬小學校　森山　良江

二・五〇　同下谷區新坂本町山伏町尋常小學校五年男代表（笠倉　章　石田　悟

一〇〇・〇〇　同深川區千田町二ノ一三　東京鐵線合資會社從業員代表　西島庄太郎

一〇二・〇〇　同江戸川區西小松川一ノ三、二二三　江戸川中央美容會

内譯

荒井平藏、藪間定吉、岡野武、杉浦五郎、菊池榮司、安井重信、星野トキ、宇田川キン、市川タミ、矢作タケ、石橋マサ、高橋依市、目時由藏、宮崎丑五郎、小久保松保

一・七二　同足立區千住八千代町八ノ三　畠山　耕治

一〇〇・〇〇　同瀧野川區上中里二六五　榎本松次郎

三・〇〇　同世田谷區下代田町六七　澁谷　良夫

五・〇〇　同荏原區中延町六一七　山本　茂男

五・〇〇　同品川區大井鹿島町二、九四七　加藤定太郎

神奈川縣

一五・〇〇　横濱市中區石川仲町一ノ一一　浦野庄次郎

一〇・四〇　足柄下郡足柄村足柄實科高等女學校自治會代表（福山　トク　村越ユキ子

一〇・〇〇　津久井郡川尻村三、七一七　川尻村青年團代表　小林　富藏

兵庫縣

二・〇〇　神戸市葺合區　姓名不詳

一・〇〇　三原郡福良町　福良郵便局　梅本　重吉

埼玉縣

七・〇〇　大里郡寄居町寄居五三六　加藤子之助

栃木縣

二〇〇・〇〇　宇都宮市江野町　高島　敬子

愛知縣

七一〇・〇七　名古屋市中區丸田町六ノ二七　帝國在郷軍人會松枝分會代表、分會長正八位　鈴木　明

二〇・〇〇　同東古渡町四ノ一四　廣瀨　錠三

三・一〇　一宮市一宮字下馬町二二　木村美智子

一・一〇　同下中町七　有志代表　遠藤　弘

二・〇〇　豐橋市花田町大塚　堀井　久造

二〇・〇〇　知多郡鬼崎村西之口字六寸三八　角野　とよ

四・五〇　同大野町　大野郵便局有志

靜岡縣

二・六〇　靜岡市　市内小學校兒童有志

四〇・〇〇　駿東郡金岡村、鷹根村、浮島村本門八本宗妙信會代表　伊藤濱太郎

長野縣

五・〇〇　南安曇郡豐科町　成相青年會代表　中村　健司

福井縣

一〇〇・〇〇　三方郡八村北前川四〇ノ一六　安田　龜吉

富山縣

一〇・〇〇　中新川郡五百石町野口　橘　米次郎

滋賀縣

三〇・〇〇　東淺井郡朝日村東尾上　廣福寺

和歌山縣

一〇・〇〇　和歌山市洲崎丁五　川崎　よね

奈良縣

一一・〇〇　磯城郡纒向村　帝國在郷軍人會纒向村分會江包班代表　久保　榮久

岡山縣

六・〇〇　苫田郡加茂町　加茂消防組第四部代表　河田　信穂

山口縣

二〇・〇〇　下關市椋野町一七四　内田　忠興

福岡縣

一五・〇〇　三池郡駛馬村　駛馬村第九區青年會代表　吉田　重雄

佐賀縣

七〇・〇〇　佐賀市長瀬町泰教寺内　佐賀縣日蓮宗寺院教會所代表、宗務所長　平井　智濟

二・〇〇　同神野町　勸興尋常小學校五年　城田美智子

同九日

樺太

二〇・〇〇　名好郡名好町　名好消防組西柵丹第三部

東京府

一〇〇・〇〇　東京市神田區東松下町三　大日本國防婦人會代表　三宅　イネ

三〇〇・〇〇　同日本橋區通二丁目二ノ二　布袋家　加藤　きん

一〇〇・〇〇　同堀留町二ノ一一　樋口　春吉

一九・〇〇　同富澤町一四　朝和會代表　石井英太郎

一〇〇・〇〇　同京橋區木挽町八ノ一　別府　金七

一〇〇・〇〇　同霞町一ノ一　伊藤　宗二

二〇・〇〇　同靈岸島一ノ二　中村正太郎

六・四〇　同芝區三田豐岡町一三　株式會社東亞大習公司工場從業員代表　水野　四郎

四〇・〇〇　同赤坂區青山南町六ノ八三　上野　勇三

一〇・〇〇　同一ツ木町　近衛歩兵第三聯隊　姓名不詳

一六・六六　同四谷區片町一二　在郷軍人片町戰友會代表　松井　榮市

二一・六二　同淺草區馬道町四ノ一九　淺草尋常小學校職員兒童代表、校長　大西　文太

五・〇〇　同淺草公園六區三號四五岸場映介方　淺草友人親睦會

二〇・〇〇　同本所區太平町一ノ一八　叶協和會代表　染谷彌次郎

二〇・〇〇　同石原町二ノ一〇　鈴木メリヤス店方　荻野　昇

一四・九〇　同錦糸町　鐵道省東京改良事務所錦糸町工事掛有志代表　諏訪部信造

三・七五　同龜澤町　本所尋常小學校五年一組

第2012号 本文

二・〇〇　同吾嬬橋二ノ二美可マ家方　山本彌五郎
八二・二六　同葛飾區本田原町四八　帝國在鄉軍人會本田分會第八班代表　久保半兵衞
一三・七〇　同向島區三ノ四　帝國家政女學校　本科生徒
一・五〇　同江戶川區小岩町　小岩尋常高等小學校尋四ノ四組有志代表　天野美枝子
一・八〇　同王子區岩淵町　岩淵尋常高等小學校尋二代表　津村　宗利
三・〇〇　同瀧野川區西ヶ原町九二八　石塚勇三郎
一〇・〇〇　同豐島區巢鴨町五ノ一、〇一五　栗原　滋之
二・〇〇　同池袋二ノ九〇一　中島　秀雄
一〇・〇〇　同中野區宮前町三三　樽見　一郎
二〇〇・〇〇　同澁谷區八幡通二ノ二七　作樂會代表　小山　光子
一〇〇・〇〇　同常盤松町實踐高等女學校、同實科高等女學校學友會代表　下田　歌子
二・〇〇　同穩田一ノ四　野村　治助
二〇〇・〇〇　同大森區入新井一ノ四六　東京大森海岸二業組合代表、組合長　林　隆吉
一・八四　同入新井第一尋常高等小學校尋三ノ一組代表、訓導　山口　愼七

京都府

一・〇〇　京都市　姓名不詳
二六・〇〇　同今熊野南谷　鞍馬十七日會代表　小原壽三郎
二七・九二　同油小路七條上ル　京都專賣局京都工場工作從業員代表　山西　茂
五〇・〇〇　同下京區吉祥院西條町　共和青年會代表　藤田亥之助
二五・〇〇　同萬壽寺坊城東　京都專賣局京都工場役付職工代表　石原　俊雄
一〇・〇〇　同伏見區中油掛安村覺太郎方　村上　三郎
四・〇〇　同深草　步兵第九聯隊第十中隊有志

內譯

二・〇〇　陸軍步兵二等兵　橋本力太郎　二・〇〇　同　中島庄右衞門
一・〇〇　相樂郡中和東村釜塚字南部九ノ一　畑　武男

神奈川縣

二・〇〇　橫濱市神奈川區當藤分町四七　庄司　則克
五・〇〇　足柄上郡金田村金子四四六　鍵和田佐次郎
一七七・六六　足柄下郡足柄村中嶋一四一妙法堂內　立正君國報恩會

內譯

每一人一圓　大倉別莊、新玉旅館、高橋福次郎、石村貞子、安藤繁晴、佐藤政吉、杉山甚藏、奧津政吉、石塚重太郎、府川民三郎、關野顯治、澤正之助、古谷伊太郎、梅原秋藏、樵木鐵太郎、梅原經世、松本政造、須山廣吉、五十嵐幸吉、山口豐平、尾崎忠治、佐野延太郎、山口藤吉、奧津岡太郎、勝俣作太郎、伊藤シヅ子、添山吳服店、花の家、田代永之助、込山吉太郎、同松三、同イチ、田中善女、西山淺五郎、川口ミツ、中野萬作
五・〇〇環翠樓　五・〇〇石田佐吉　五・〇〇三河屋ホテル　三・〇〇塔嶺旅館男女中　三・〇〇三河屋　三・〇〇春日　二・〇〇一の湯　二・〇〇塔福旅館　二・〇〇梅原逸太郎　一・五〇山吉　一〇・一六其他有志二三一名

一〇・〇〇　同湯河原町　姓名不詳
一〇・〇〇　同國府津町岡　駒澤　峯吉
一〇・〇〇　高座郡茅ヶ崎町下高砂　澤井仁一郎

兵庫縣

一・〇〇　神戶市　姓名不詳
二・五〇　同摩耶尋常小學校內　荒木　駿一
五〇・〇〇　同須佐野通四丁目　須佐尋常小學校須佐校母乃會、須佐處女會代表、會長　大西　鶴子
二〇・〇〇　同須磨區　須磨寺大師講
四四・一六　同東須磨字長池ノ上　東須磨尋常小學校　職員兒童
五〇・〇〇　同林田區蓮宮通四ノ一一　正宗式洗濯法研究會代表　正宗與四郎
五・〇〇　同常盤町二ノ一五五　角谷　政市
三〇・〇〇　同灘區西河原二七六島部貞惠方　堀松　觀義
二四・〇〇　同神戶區東町一二三日華製油株式會社內　日華俱樂部
二・〇〇　加西郡富合村　富合村青年團山村支部代表　山田　與市
一・〇〇　氷上郡吉見村梶木　荒木　金二

埼玉縣

六・三七　秩父郡浦山村　（淺見　丙　小池　司）

千葉縣

六・六〇　君津郡眞舟村諸西　木樵人代表　伊管　仙松

栃木縣

五〇・〇〇　宇都宮市西原町　朝海トシ子

福島縣

五・〇〇　郡山市堂前金透尋常高等小學校尋三ノ三
五・〇〇　相馬郡日立木村立谷町　立谷町青年會
五・〇〇　石城郡植田町　姓名不詳

青森縣

五・五〇　東津輕郡荒川村　青森刑務所收容者有志

愛知縣

一〇〇・〇〇　知多郡武豐町　南部厄歲連中

滋賀縣

二・一〇　愛知郡八木莊村　八木莊尋常高等小學校尋四　西澤龜之助

三重縣

二〇〇・〇〇　桑名郡桑名町內堀一、七六八
五・〇〇　同長島村外面　佐原　愼　伊藤しかを

和歌山縣

一〇・一五　海草郡岡町村　岡町少年團

奈良縣

二一・六〇　北葛城郡王寺町　帝國在鄉軍人會王寺町分會代表　松本彥治郎
九・八〇　山邊郡二階堂村　二階堂村青年團嘉幡支部
一・九五　生駒郡生駒町谷田補下俊男方　宮脇　光芳

鳥取縣

五・二〇　氣高郡加露村　加露村藥師講代表　森中幸次郎
三・〇〇　八頭郡船岡村　船岡第三區婦人會代表　後藤信太郎

山口縣

二六・六〇　美禰郡太田町　太田町青年團
二〇・五〇　吉敷郡大歲村　大歲村婦人會
九・〇〇　阿武郡德佐村　有志代表　中村　キミ
一・〇〇　大津郡菱海村　姓名不詳

福岡縣

一〇・〇〇　門司市白木崎貫田町三丁目　秋田トナミ
八・八〇　同田野浦　笠石區婦人一同
三・〇〇　同淸見町　淸見尋常小學校三年　國友　正子
一・〇〇　同仲町七丁目緒畠病院內　永木ヨシ子
二・〇〇　八幡市　里崎尋常高等小學校尋六　金　五光

佐賀縣

一〇・〇〇　唐津市西唐津　姓名不詳
一〇・〇〇　同　同
一〇・〇〇　佐賀郡西川副村　西川副村婦人會新村支部代表　原田　安代

關東州

五〇・〇〇　大連市連鎖街常盤通　小泉　專治

ハワイ

五〇〇・〇〇　ハワイ島　鳴戶フヨウ

同十一日

臺灣

一五・〇〇　臺北市龍口町三ノ二四　長谷川春吉
二四・〇〇　同末廣町二ノ八　末廣高等小學校一年有志代表　村田　明子
一一・五九　同古亭町二三六　同一年三學級有志代表　村山　兼信
四・二〇　新竹市　姓名不詳

北海道

一〇・三三　利尻郡鬼脇村鬼脇村字メヌウショロ　（能代タキ　鈴木タケ）
一〇・〇〇　夕張郡夕張町大夕張三菱大夕張鑛業所內　（家庭婦人會　御詠歌會）

東京府

一・七〇　東京市神田區　今川尋常小學校四年有志代表　伊藤　尙藏
三・〇八　同鍋町七

內譯

二・四六　橋本幸三　・六二　其他有志一名

三・〇〇　同美土代町二ノ一　三秀舍印刷所有志代表　要藤　友吉
一〇〇・〇〇　同日本橋區蠣殼町一ノ九　蠣殼町一丁目北部町會代表、會長　石福榮次郎
四・三〇　同北新堀町二〇　上野　千代
一・〇〇　同堀留町丁吟商店內　有志代表　小林　眞隆
二〇〇・〇〇　同京橋區銀座七ノ五　京橋婦人美容術營業組合代表　中村　はな
九・〇〇　同芝區三田綱町三慶應義塾幼稚舍四ノB有志代表　（伊藤　昌次　增田　壽一）
一・五〇　同麻布區笄町一〇九　高橋多惠子
三・八二　同赤坂區青山南町六丁目　青南尋常小學校五年濱中學級有志代表　粕谷富美子
七〇・〇〇　同四谷區旭町四　今津　義之
一・五〇　同牛込區藥王寺町五六　村木　淑子
五〇・〇〇　同本鄉區　姓名不詳

一四〇・四〇　同追分町四　追分町恤兵會代表　清水　生稻
三・四六　同眞砂町　眞砂尋常小學校五ノ二男
一・五〇　同駒込林町一五三　藤堂喜美子
一〇・〇〇　同淺草區荒川方　美代子
一〇・〇〇　同永住町一九　菅原　兼三
三・八〇　同北島町　北島尋常小學校五年　村田直太郎　山田辰太郎　菊野　和夫
三・〇〇　同猿屋町　育英尋常小學校三年　久保　政男
一七三・五五　同本所區林町三ノ五二　奧田航器合資會社

內譯

奧田寅藏、加藤政太郎、同忠平、同八郎、原田新藏、同新一、海老原龍吉、加瀨谷賢三、木村常三、美谷鳴砂、三林太一郎、橋本直吉、奈良喜八、秋山又吉、堀江長兵衞、鎌田元次郎、杉田福松、小林芳司、平山末三郎、加瀨春吉、高嶋賢三、山口榮吉、小林仲吉、北岡忠四郎、根岸卓榮、小林信、同眞一、森山鎌吉、鈴木吉藏、大瀨榮吉、小磯武雄、堀江信太郎、村上與吉、辻井虎一、武橋由松、齊藤菊三郎、森下實、小林富貴雄、石井金平、竹內正欣、渡邊十太郎、田稻田武雄、山本延治、深田大助、伊達佐、梅津長鶴見正雄、武者伊三、森山、岩松金太郎、鈴木久次、白川富三郎、小川政吉、竹內

二〇・〇〇　同深川區東元町一四　淺野セメント株式會社スレート部東京工場親交會代表　山本　源藏
一・二五　同千田町二三七　小林　やゑ
一四・六〇　同城東區砂町　砂町青年訓練所有志代表　主事　水谷　馨
一三・三〇　同南砂町　大林組東京工作所　仲仕一同
二・八〇　同向島區吾嬬町二ノ六八　梅澤　麗子
一九・三五　同西五ノ六六　橘新生町會代表　岡　五郎
一・四二　同瀧野川區瀧野川町　瀧野川第四尋常小學校一年　古市　保昌
二・六六　同　同校三ノ一有志代表　（山田　丈夫　星野　猛雄）
一・八〇　同　同校三年有志代表　島岡吉千枝
七・三二　同　瀧野川尋常高等小學校尋五ノ三代表　吉田　一正
二・〇〇　同板橋區羽澤一ノ三、四八二　今井富美枝
一・三〇　同豐島區西巢鴨二ノ二、五〇八　櫻井　和政
五・〇〇　同二、五三三一　工藤　禮子
一〇・〇〇　同四ノ三、三八九　保坂時次郎
二・〇五　同淀橋區淀橋第六尋常小學校五ノ二有志代表　（柏田　忠男　佐久間久男）
一五・〇〇　同戶塚町一ノ四四八　魚商組合代表　武田健太郎
二・〇〇　同中野區揚場町三七　山下
二・〇〇　同野方町　野方東尋常小學校五年　土井　博
六・〇〇　同澁谷區　西原尋常高等小學校尋三ノ一
五五・九五　同大和田町六九　原口電業所、同篠塚出張所從業員有志

內譯

每一人一圓　矢口郁藏、城所登、末吉義一、堀池今朝五郎、長島應次郎、町田辨吉
一〇・〇〇原口岩吉　五・〇〇香月文雄　五・〇〇森田一郎　五・〇〇小林強三　一・五〇小室源德　二・五〇矢島邦　一・五〇荻原甚太郎　一・二五羽鳥吉太郎

一〇・〇〇　同原宿三ノ三〇五　塚本槌三郎
一五・一一　同目黑區　大岡山尋常小學校　兒童
一〇・四五　同碑衾町　碑尋常高等小學校　同
九・五〇　同區　向原尋常小學校　同
五・一七　同　鷹番尋常小學校　同
四・二五　同　八雲尋常小學校　同
二・八〇　同大森區石川町九〇

內譯

一・五〇石島桃子　一・〇〇石島誠　・三〇其他有志一名

二・五〇　同蒲田區今泉町一二五　今泉軍青年代表　森　徹太郎
三・八八　八王子市八木町　八王子第二尋常小學校五年豐級有志代表　市川　勝人
一・七六　西多摩郡箱根崎村　武藏野尋常高等小學校高二有志代表　吉川　俊
一・〇〇　北多摩郡久留米村前澤　齊藤伊太郎

京都府

五・〇〇　京都市下京區河原町通上枳殼馬場角　纐纈　龍三
一・〇〇　同　纐纈田鶴雄
二五・〇〇　同七條通千本西入朱雀裏畑町一四　梶野竹次郎
一五・〇〇　同室町通六角下ル健直商店昭盛會代表　仲井　庄七
三・〇〇　南桑田郡　姓名不詳
一七・五〇　同篠村王子　王子報德會代表　栗山彌一郎
五・〇〇　天田郡福知山町內記六丁目　足立　リヨ
一・〇〇　久世郡槇島村西目川田中捨吉方　姜　又辰
一・〇〇　竹野郡網野町　姓名不詳

神奈川縣

一・〇〇　橫濱市　青木小學校三ツ澤分教場二年　生明　英二
一〇〇・〇〇　同中區千代崎町三ノ八五　中西　セキ
五・〇〇　同海岸通　日本郵船株式會社　福島　安二
二・二五　同神奈川區　縣立工業學校機械科五年有志
二・〇〇　同　同校配屬將校砲兵大尉　檜垣　克雄
五・五〇　高座郡藤澤町

內譯

四・〇〇藤澤尋常高等小學校尋四兒童有志　一・五〇鵠沼尋常高等小學校尋四兒童有志

三・〇〇　鎌倉郡戶塚町　姓名不詳
一・〇〇　中郡秦野町　西秦野尋常高等小學校　高二女

兵庫縣

一〇・六六　神戶市神戶區北長狹通四丁目　神戶尋常小學校尋三有志代表　林　義輝
六・二八　同　同校　（植山　和男　加藤治三郎）
二・〇八　（同三宮町二ノ一一八　長尾　光三　同一九八　福本　正夫）
五・〇〇　同葺合區熊內町四ノ八八　坂本　英世
五・〇〇　同須磨區西須磨　須磨尋常小學校二年　島田ちよ子
一三・四一　神崎郡寺前村　寺前村金剛講最明寺支部代表　井上　智秀
五・〇〇　武庫郡住吉村八甲田　倉賀野胤正
一・七二　三原郡倭文尋常高等小學校內　流部落自治會員

新潟縣

一・〇〇　中蒲原郡新津町　渡邊　寅一

埼玉縣

一三・二〇　北足立郡川田谷村　帝國在鄉軍人會川田谷村分會代表、分會長　岡村　職一
三・五〇　同　川田谷尋常高等小學校兒童有志代表　原見　誠司
一・〇〇　同大宮町　姓名不詳
三七・五〇　秩父郡皆野町一、四〇九　皆野消防組第二部組ガソリン喞筒掛員代表　權太　光義

千葉縣

八・〇〇　市原郡東海村　東海村婦人會町田支部
五・〇〇　同　同海保上鄉支部
三・二〇　同　同二十五里支部
六・二〇　同市西村　市西村婦人會新堀支部
五・〇〇　同內田村　（內田村役場　同青年團　內田尋常高等小學校）
二・〇〇　同濕津村小田部　小田裁縫通
八・四三　香取郡東城村　東城村女子青年團夏目支部代表　向後　逸子
四・〇〇　同萬歲村　（萬歲尋常高等小學校職員兒童　少年赤十字團）
三・〇〇　同神里村織幡　神里村女子青年團織幡分團
一・〇〇　同小見川町山中商店內　有志代表　岡野　あさ
一五・〇〇　安房郡九村　九村青年訓練所
五・〇〇　同館山町　館山海軍航空隊第四分隊海軍一等水兵　佐藤金三郎
一〇・〇〇　千葉郡白井村川井六三二　區民代表、區長　加藤　利八
四・一二　同譽田村　譽田尋常高等小學校
一〇・〇〇　印旛郡大森町　大森青年團第三支部代表　寺島　三郎
二・〇〇　同彌富村　坂戶自治會
一八・〇二　東葛飾郡葛飾町　葛飾尋常高等小學校兒童代表　戶倉半次郎
一〇・〇〇　長生郡東村　東村青年團下之原支部代表、支部長　勝山　良輔

栃木縣

一一・五〇　鹽谷郡氏家町　川岸少年團

愛知縣

二八・三五　中島郡萩原町萩原二、三六三　高福同行代表　齊藤　專覺

靜岡縣

一〇・〇〇　田方郡田中村吉田　田中村女子青年團吉田分團代表、分團長　高岡　とく

第2012号本文

岐阜縣
三一・九一　大垣市　大垣東尋常高等小學校
内譯
二一・九一兒童　一〇・〇〇職員
三・〇〇　不破郡荒崎村　荒崎村在住大正五年兵代表　廣瀬　藏也
福井縣
五・〇〇　足羽郡東鄕村　東鄕少年赤十字團
富山縣
一〇〇・〇〇　東礪波郡北野村五、一三二　西田藤一郎
滋賀縣
一・八三　愛知郡豐椋村中岸本　豐椋尋常高等小學校高二有志代表　川西吉治郎
和歌山縣
五・〇〇　西牟婁郡栗栖川村栗栖川　下芝濟美會代表、會長　崎山　玄敬
奈良縣
一・〇〇　奈良市高天市町　堀口　久子
一・〇〇　同法蓮町　田中製材所　岡村　重慶
一・〇〇　同北魚屋東町　奈良縣女子師範學校　姓名不詳
一・七〇　吉野郡大淀町　大淀第五尋常小學校有志代表　中坊　勝
廣島縣
二一・四九　沼隈郡金江村　金江少年赤十字團
二・一一　蘆品郡大正村　大正少年赤十字團市場分團
島根縣
一〇・〇〇　那賀郡都川村　都川村自治協會
五・五八　同　帝國在鄕軍人會都川村分會
二三・六二　同都野津町　有志代表　同都野津町分會長
五〇・七五　簸川郡稗原村　同稗原村分會
一七・九〇　同直江村　弘法大師講代表　佐藤　智貞
二・六九　同朝山村　朝山尋常高等小學校高女代表　江角アヤノ
三三・八一　美濃郡都茂村　齋藤　月豐
一四・一九　同高城村　帝國在鄕軍人會高城村分會
三三・二五　邇摩郡宅野村　同宅野村分會
一二・八二　邑智郡祖式村　同祖式村分會
山口縣
二・九五　下關市吉原町三丁目　文關小學校六年　大山　義雄
一・九五　同新町三ノ一、二三八　山本　俊治

愛媛縣
一・〇〇　松山市昭和町　河野　守籌
一〇・〇〇　喜多郡出海村　萬野　六助
一・〇〇　溫泉郡川上村　戸井　時雄
福岡縣
七・六五　八幡市　八幡尋常小學校六年有志代表　竹中ヨシ子
六・三五　同　平原尋常小學校三ノ四有志代表　深町ミドリ
四・〇〇　同　平野尋常小學校五年　平子　文枝
二・〇〇　同大藏尋常小學校同（權文　千年　山元カズ子）
一・四〇　同　尾倉尋常高等小學校一年　兒玉　信子
二・〇〇　同中町八丁目　山本友次郎
一七・一五　若松市　鴨生田組合有志代表　白橋友次郎
二・〇〇　小倉市旭町　木村キミ子
一六・〇〇　築上郡八津田村　今津處女會代表　前田フジヱ
七・〇〇　同宇留津　宇留津處女會代表、會長　竹下スヾヱ
二・〇〇　同下城井村　下番樂峠婦人會
一・七〇　同　深座一部婦人會
二〇・〇〇　同南吉富村　南吉富高等實業女學校
三・〇〇　同城井村櫟原　迫　榮
六・二三　京都郡稗田村　稗田村青年團下稗田支部有志代表　鶴崎　忠藏
五・〇〇　同　同下檢地支部　興振會代表、會長　塚本　末彦
四・九五　同白川村　白川村消防組第一部
一・五〇　同蓑島村　蓑島尋常高等小學校高等科兒童代表　吉田　八郎
一〇・〇〇　遠賀郡折尾町　折尾第二八幡組代表　原　國彦
四・〇〇　同遠賀村廣渡　眞行講代表　米森　ナミ
五・〇〇　田川郡方城村方城炭坑　川崎キクヱ
三・二六　同勾金村　勾金尋常高等小學校代表、校長　原田　種治
大分縣
一五・五〇　日田郡日田町
内譯
一五・〇〇日田町青年團日進支部　・五〇其他有志一名
佐賀縣
二一・四八　唐津市　淨土宗五重會信徒

五〇・〇〇　西松浦郡大坪村　松尾　官四
五・二五　藤津郡七浦村飯田二五　藥師寺民也
同十三日
朝鮮
二八〇・〇〇　咸鏡北道明川郡永安面永安工場社宅工藤宏規方　犬塚　リツ
臺灣
一七・五四　臺北市龍口町三ノ二一　臺灣公立第二高等女學校代表、校長　室田　有
一六・一〇　臺南市本町三ノ九八　八幡　喜一
一〇・〇〇　臺北州七星郡北投一、二五九　信州善光寺臺灣別院
北海道
五・〇〇　花咲郡齒舞村　志發島西浦泊佛教婦人會
東京府
一・〇〇　東京市神田區錦町一ノ一　坂井忠三郎
一・〇〇　同一ノ二　誠光堂書店
一・〇〇　同一二　高橋　秀臣
一・〇〇　同　鈴木芳之助
一・〇〇　同　西邊　茂
一・〇〇　同一五　鱧野　滿丸
二・〇〇　同一九　椋羅紗店
一・〇〇　同二ノ四　小貝　丈八
五・〇〇　同五高陽堂内　成田
一・〇〇　同六　山中福太郎
一・〇〇　同三ノ一　大本　寅一
一・〇〇　同三　志村千代作
一・〇〇　同四　清水　重藏
一・〇〇　同六　大川　信太
一・〇〇　同　英山堂書店
一・〇〇　同七　內山　初枝
一・〇〇　同　木村　策
一・〇〇　同八　吉村　春丸
五・〇〇　同　山川　達郎
二・〇〇　同九　博報堂
二・〇〇　同　福田　三男
三・〇〇　同一〇　上條　勇
五・〇〇　同　中澤　鄕
二・〇〇　同一一　桂川鐵次郎
一・〇〇　同　金子　きみ
一・〇〇　同一二　加藤　隆一
二・〇〇　同　金子由次郎
一・〇〇　同二〇　加藤淺五郎
五・〇〇　同二四　岸井　茂吉
一・〇〇　同二五　神代日出男
一・〇〇　同　明治圖書出版會社

五・〇〇　同三　平山　四郎　同佐久間河岸一六大橋方　吹越　仁藏
二・〇〇　同小川町一ノ八　佐藤德治郎
一・〇〇　同　木原　康次
二・〇〇　同二ノ三　曾根　眞文
二・〇〇　同五　刑部巳之吉
二・〇〇　同　田邊ラヂオ店
二・〇〇　同　魚吉女中
一・〇〇　同川崎第百銀行內　藤平喜三郎
五・〇〇　同三丁目　東京出版協會
二・〇〇　同　日本ノート會社
一・〇〇　同　安田銀行支店
一・〇〇　同　青山　長治
五・〇〇　同一　岡本　清
一・〇〇　同　吉澤　丹治
五〇・〇〇　同日本橋區蠣殼町二ノ一〇日本橋區役所內日本橋區産婆會代表、會長　時田　勢ゝ
一・八〇　同芝區三田　聖坂尋常小學校三年男有志代表　武井　心二
一五〇・〇〇　同赤坂區青山南町六ノ一〇六　陸軍士官學校教官　田坂　龍雄
二・六〇　同四谷區　四谷電話局誠和女學校四谷分教場　生徒
八・二〇　同本鄕區追分町四　追分町恤兵會代表　淸水　生稻
二・五〇　同菊坂町三三　坂　本
三・五〇　同下谷區　臺東尋常小學校五年　益永　芳子
二・七二　同　同校　石石　美加子
七八・〇〇　同淺草區永住町七六　東京刺繡技工業組合代表、組合長　志村京之助
八一・七〇　同本所區東兩國二ノ一七　東兩國青年團一丁目分團、帝國在鄕軍人會本所區分會東兩國二丁目組代表、組長　岩佐　淸藏
三〇・〇〇　同江東橋三丁目　白根屋睦會代表　五十嵐作太郎
二五・五〇　同向島區吾嬬町西三ノ一　東京モスリン株式會社裁縫科卒業生代表（內藤千代子　小林トミ子　吉家ミヨ子）
一五・〇〇　同葛飾區本田町澁江七八　本田酒類商睦會代表　和田　利八
二・一〇　同上平井町　第二奧戸尋常小學校五ノ一代表　岩崎　力

一一・〇〇　同荒川區三河島町七ノ八六五　三河島警察署管內教化占業組合
内譯
一・五〇森田兵松　一・一〇赤田部英仙　八・四〇其他有志二一〇名
一・四九　同尾久町　大門尋常小學校六ノ四
一六・六五　同板橋區志村中臺町一、五五五　東京瓦斯電氣工業株式會社從業員
内譯
一・五〇小林江三　一五・一五其他有志三七名
九・七〇　同中新井町一丁目　武藏高等學校恒獨寮有志代表尋常科四年　芳我　孝一
一〇〇・〇〇　同豐島區堀之內一七四　帝國在鄕軍人會池袋分會第九班、堀之內町會豐島區青年團堀之內分團代表　田中　歌吉
一・五〇　同世田谷區太子堂町三七一　小谷　信子

一二・〇〇　同澁谷區幡谷本町二ノ一四五鹽川堅朝方　呂　昌烈
京都府
一、〇〇〇・〇〇　京都市上京區衣棚通リ下立賣上ル　奧野　素經
神奈川縣
一〇・〇〇　川崎市南河原七四一　桑原　荒辰
四一・六五　足柄下郡足柄村中島一四一妙法堂內　立正若國報恩會
内譯
每一人一圓　柳川熊次郎、河原德次郎、一寸木文治、芝三之助、金子コト、室伏一太郎、小林光次、竹村ゑね、樋口伊三郎、金子藤七、吉田屋裁縫店、額田倉藏、川瀬龜藏、青木嘉武
二・〇〇後藤三郎　二・〇〇猪俣十九三　二三・六五其他有志八六名
長崎縣
一・〇一　壹岐郡渡良村　渡良尋常高等小學校三年代表　横山　豐

◉檢定教科用圖書

檢定年月日	目的ノ學校竝學科ノ種類	圖書名	卷册	發行年月日	定價
昭和八、九、五	師範學校 中學校　國語漢文科	最新國文學史	一册	昭和八、八、一三 訂正再版	六〇錢
右著者　笹川種郎 右發行者　東京市小石川區小日向水道町八十四番地　株式會社東京開成館					
同	實業學校　數學科	改訂新實業算術教科書	一	八、八、一八 訂正三版	七二
同	同　同	改訂新實業代數學教科書	一	同　同	八六
以上著者　松本繁三 以上發行者　東京市神田區通神保町三番地　合資會社冨山房					
同	同　博物科	實業植物綱要	一	八、八、二 訂正	五三
右著者　松島種美、多田綱輔 右發行者　東京市神田區仲猿樂町三十番地　株式會社帝國書院					

昭和八年九月　文部省

◉無線通信士資格檢定合格者

無線通信士資格檢定合格者氏名左ノ如シ

昭和八年九月　無線通信士資格檢定委員長　山本直太郎

電話級　中島　弘　鳥丸　峯德

◉朝鮮辯護士試驗合格者

本年度朝鮮辯護士試驗ニ合格シタル者ノ氏名（五十音順）左ノ如シ

昭和八年九月　朝鮮辯護士試驗委員長　笠井健太郎

鵜澤重次郎　金　昌日　金　潤根
姜　柄順　田北　勝正　名嘉眞武勝
堀內　淸壽　李　在元

◉賣拂地

北海道國有未開地處分法第二條ニ依リ賣拂フヘキ土地左ノ如シ賣拂ヲ受ケントスル者ハ本月三十日マテニ願書ヲ所轄支廳ニ差出スヘシ圖面ハ常廳拓殖部殖民課及所轄支廳竝ニ東京北海道廳事務所、青森北海道廳移民取扱事務所ニ備置キ縱覽ニ供ス

昭和八年九月　北海道廳

特賣地

國	郡	町村	大字	地名	處分目的	實測地積（町段畝歩）	分割見込數	殖民區劃內外	概況
釧路國支廳管內									
釧路	白糠	白糠	白糠	上庶路	畑	一〇一、三七〇二	一六	區劃地	雄別線古潭驛ヲ距ル二里立木地
同	阿寒	舌辛	舌辛	雪裡	雜用地	八、三六二三	三	同	中雪裡市街地ヲ距ル約一里同
同	同	同	同	幌呂	畑 宅地	五、〇〇〇〇 二、八一一二	一 二	同	雄別線平戸前驛ヲ距ル約四里未立木地
同	同	同	同	雪裡	畑	一〇、〇〇〇〇	一	同	同三里半立木地
同	釧路	釧路		別保	雜用地	九、四三〇〇	二	同	東釧路驛ヲ距ル約一里無立木地
同	川上	標茶	塘路	シラルトロエトロ	同	二四、七七二四	三	區劃外	釧網線茅沼驛ヲ距ル半里一部立木地
同	同	同	同	オソツベツ	畑	九、八三〇三	一	同	標茶驛ヲ距ル約六里立木地
同	厚岸	厚岸	眞龍	眞龍	同	三、〇九二一	二	同	厚岸驛ヲ距ル半里無立木地
同	同	濱中	琵琶瀨	六番澤	雜用地	三一、三三一〇	四	同	茶內驛ヲ距ル一里立木地
留萌支廳管內									
天鹽	留萌	鬼鹿	鬼鹿	オソネ	雜用地	一五、九四〇五	二	區劃外	鬼鹿驛ヲ距ル約一里無立木地
同	同	小平蘂		モウスヤ	同	八、八八〇七	六	同	小平驛ヲ距ル約一里稚樹アリ
同	同	鬼鹿	鬼鹿	オソネ(5)(9)(11)(12)	同	六、六一二〇	四	同	鬼鹿驛ヲ距ル約半里無立木地
同	天鹽	幌延	幌延	ウブシ	畑	四、六九一七	一	區劃地	安牛驛ヲ距ル一里半立木地
同	同	天鹽		オヌプナイ	同	一七、二九〇二	三	同	安牛驛ヲ距ル約一里無立木地
同	同	同		同	雜用地	九、七〇〇〇	二	區劃外	雄信內驛ヲ距ル約四里立木地
同	同	遠別		パロマウツ	同	一九、四七一五	二	區劃地	遠別市街地ヲ距ル約二里無立木地
同	苫前	苫前	苫前	苫前	植樹地	二七、二一二九	三	區劃外	古丹別驛ヲ距ル約二里未立木地
同	同	羽幌		築別	雜用地	六九、八七二八	一一	區劃地	羽幌驛ヲ距ル約一里半無立木地
同	同	初山別		風連別	植樹地	一九、六九二八	三	區劃外	風連別部落ヲ距ル約半里稚樹アリ
同	同	羽幌		羽幌	雜用地	七二、七〇一三	一四	區劃地	羽幌驛ヲ距ル半里乃至一里未立木地
同	同	苫前	苫前	苫前	畑 雜用地	三五、三八一〇 四九、八〇二五	八 一〇	同	同半里乃至二里同
同	同	同	同	同	畑及雜用地	五、〇〇二五 （內畑一、二〇二五）	一	同	同約一里同
檜山支廳管內									
後志	瀬棚	瀬棚	中歌	中歌山	畑 植樹地	一、九二二一 五、九一二〇	二一 五	區劃外	中歌山部落ヲ距ル五町內外無立木地
同	同	同	瀬棚	瀧ノ澤	雜用地	八、四〇〇〇	四	同	瀬棚市街地ヲ距ル十町同

第2012号本文

同	同	利別		メップ	同	一九、〇六二〇	四	同	今金驛ヲ距ル約二里一部立木地
同	奧尻	奧尻	釣懸	釣懸	同	三、七六〇四	一	區劃地	釣懸市街地ヲ距ル約一里無立木地
同	太櫓	太櫓	太櫓	小川	植樹地	四、二四〇〇	一	同	太櫓本村ヲ距ル約二里同
後志支廳管內									
膽振	虻田	喜茂別		喜茂別	雜用地	四、七八二八	一	區劃地	喜茂別驛ヲ距ル二里無立木地
後志	壽都	黑松內		上來馬	植樹地 雜用地	一七、六〇一四 三八、六〇二〇	二 五	同	黑松內驛ヲ距ル約四里稚樹アリ
同	積丹	入舸	入舸	澤	雜用地 植樹地	五、九七一〇 七九二一	二 一	區劃外	余市驛ヲ距ル十里無立木地
同	古宇	神惠內	神惠內	大川	畑	三、八七一五	一	同	岩內驛ヲ距ル五里稚樹アリ
同	忍路	鹽谷	鹽谷	ヲタモイ	雜用地	一五、九一一四	三	同	鹽谷市街地ヲ距ル約一里半同
日高支廳管內									
日高	沙流	右左府		ウシヤツプ	畑及雜用地	二八、三八〇九（內畑一五、〇〇〇〇）	四	區劃地	右左府市街地ヲ距ル一里內外一部立木地
同	同	同		同	同 同	二四、三三〇五 一九、四三二七	三	同	同二十町無立木地
同	同	同		パンケウシヤツプ	雜用地	三、一五〇五	一	區劃外	同一里半立木地
同	同	別門	佐瑠太	ピク	同	五、〇六二二	一	同	佐瑠太市街地ヲ距ル一里十町無立木地
同	同	同	波惠	ハエ	同	四、〇四二〇	一	同	波惠驛ヲ距ル約二町同
上川支廳管內									
天鹽	上川	溫根別		イパノマツプ	雜用地 畑及雜用地	九、九五二一 五、七〇一六（內畑二、三二二四）	二 一	區劃地	士別驛ヲ距ル三里半一部立木地
同	同	多寄		下タヨロマ	雜用地 植樹地	四、六九一五 四、二六一〇	一 一	同	風連驛ヲ距ル二里無立木地
同	同	和寒		ペオツペ	畑	五、七九〇五	一	同	和寒驛ヲ距ル四里半一部立木地
空知支廳管內									
石狩	上川	當麻		當麻	植樹地	八、八七一〇	三	區劃外	當麻市街地ヲ距ル約二里末立木地
石狩	樺戶	月形		知來乙	雜用地 植樹地	四六、四五一〇 一二、七六二五	六 二	區劃外	月形市街地ヲ距ル一里乃至二里一部立木地
同	同	新十津川		柳ノ澤	植樹地	四、四五〇〇	二	同	瀧川驛ヲ距ル四里無立木地
同	同	同		ルークシエペツ	畑 植樹地	九、八〇〇〇 三三、三六二〇	二 四	同	同六里半一部立木地
同	同	浦臼		札的內	植樹及雜用地	二四、一一〇二（內植樹地一二、五一一二）	四	同	浦臼市街地ヲ距ル二里弱稚樹アリ
石狩支廳管內									
石狩	厚田	厚田	別狩	別狩	雜用地	八二、四七二八	一八	區劃外	厚田本村ヲ距ル數町乃至三十町稚樹アリ
同	同	同	小谷	小谷	同	三四、四八一九	九	同	同
網走支廳管內									
北見	常呂	相ノ內		相ノ內	植樹地	一六、二五二六	二	區劃外	上相ノ內市街地ヲ距ル一里半一部立木地
宗谷支廳管內									
北見	宗谷	猿沸		エサンベ	雜用地	一六、三〇〇〇	一九	區劃外	鬼志別驛ヲ距ル一里乃至二里無立木地
同	同	稚內	拔海	下ユーチ	畑	一五、〇七一五	二	區劃地	勇知驛ヲ距ル約二里同
同	同	同	同	オネトマナイ	雜用地	一五、七二一三	二	同	同三里半同
同	同	同	同	ユーチ	畑	四一、一九〇八	五	區劃外	同約二里立木地
同	同	同	聲問	サラキトオマナイ	同	四、八一二〇	一	區劃地	稚內驛ヲ距ル二里半無立木地
同	枝幸	中頓別		ピラカイ	同	二一、八九一四	五	區劃外	中頓別驛ヲ距ル約一里同

◉代書人許可取消

大阪市大正區泉尾上通三丁目四十七番地
濱村勝太郎方
代書人　川村俊見

右代書人規則第十四條ニ依リ去月二十五日其許可ヲ取消シタリ

昭和八年九月　大阪府

◉村界變更

耕地整理施行ノタメ三島郡日吉村ト同郡脇野町村トノ境界ヲ左ノ通變更シ本月十日ヨリ施行セリ

昭和八年九月　新潟縣

日吉村大字七日市字大坪六六八番、自六七一番至六七八番、六八五番、同字江端自七二〇番至七二二番、七二五番、七一六番

右脇野町村大字葛蒲新田字葛蒲ニ編入

脇野町村大字葛蒲新田字葛蒲八九番、一二三番、二四番、自一二八番至一三一番

右日吉村大字七日市字江端ニ編入

脇野町村大字葛蒲新田字葛蒲五三番、五四番、五九番、六〇番

右日吉村大字七日市字諏訪前ニ編入

脇野町村大字葛蒲新田字葛蒲七五番、七六番

右日吉村大字七日市字大坪ニ編入

◉公債繰上償還

本縣公債第四回の、お、や、ま、け、ふ、こ、あ、さ、き、ゆ、め、み、し、ゑ、ひ、も號ハ本月二十二日全額繰上償還ス

昭和八年九月　新潟縣

◉村役場位置變更

濱名郡新津村ハ其役場位置ヲ本月六日同村新橋千八百二十一番地ノ一ニ變更移轉セリ

昭和八年九月　靜岡縣

◉所屬未定地編入

町村制第三條ニ依リ左記所屬未定地ヲ各地先村ノ區域ニ編入シ本月十一日ヨリ施行セリ

昭和八年九月　靜岡縣

濱名郡知波田村大知波字川岸一三〇五番地先
公有水面埋立地　六畝十七歩一合六勺
同郡南庄內村庄內山字酢釜地先
同　七畝二十三歩

左記所屬未定地ヲ宇土郡三角町大字波多字姥ケ崎ノ區域ニ編入シ本月九日ヨリ施行セリ

昭和八年九月　熊本縣

宇土郡三角町大字波多字姥ケ崎又二一九一九番道路沿地先
一海面埋立面積　六十三坪

◉公債償還

本月三十日償還スヘキ本縣築港公債額面金二万六千二百圓竝ニ第三號大分縣公債額面金六千六百圓抽籤ノ結果其當籤番號左ノ如シ

昭和八年九月　大分縣

一大分縣築港公債
壹百圓券　五　一九　四八　五五　六一　七三
七七　一〇五　一三四　一三六　一五〇
一六四　二四四　三二三　三三四　三三七
三五八　三五九　三九〇　四〇〇　四四六
五一九
五百圓券　一三　二一　二六　五〇　八六
八七　一三三　一四四
壹千圓券　一三　三一　三四　三五　六六
七五　一三五　一五五　一九二　二一〇
二一五　二二四　二五一　二五二　二六七
二九三　三三六　三四四　三五九　三六三
一第三號大分縣公債
壹百圓券　六〇　一三四　一四二　一四六
一四七　一六三
壹千圓券　一九
五千圓券　四七

◉購買入札

一品名及數量　ガソリン　四一、〇〇〇立（豫定數量）
一入札及開札日時　本月十八日午前十一時限入札、即時開札
一入札場所　當局用品課購買係

一契約事項閲覽場所　同係
一入札保證金額及納付日時　見積入札價格ノ百分ノ五以上、入札當日午前十時半限
一入札者資格　大正十一年四月大藏省令第三十三號ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

昭和八年九月十三日　東京遞信局

一品名　電第五〇號外四十六點
一入札竝開札　本月二十五日午前十一時限入札、即時開札
一入札場所　當局經理課
一公示書類　同課ニテ熟覽スヘシ
一入札保證金及其納付日時　見積價格ノ百分ノ五以上（圓未滿切上ク）、入札當日午前十時三十分限
一入札者資格　大正十一年大藏省令第三十三號ノ資格ヲ具フルヲ要ス

昭和八年九月十三日　仙臺遞信局

◉賣拂入札

第一號
東京市足立區千住曙町地先（元千住機械工場ドツク內）所在
一古浚渫船（鋼製）　一隻

第二號
東京市城東區南砂町地先砂町工場所在
一古鐵製土運船　五隻

右本月二十五日午前十一時當所ニ於テ入札（書留郵便入札差支ナシ）、入札保證金ハ見積金額ノ百分ノ十以上、一、二號各別ニ納付ノコト、詳細ハ當所會計係ニテ承合セラルヘシ

昭和八年九月十三日
麴町區大手町一丁目六番地
內務省東京土木出張所

第一號　古金物　四二、六〇〇瓩（機械崩シ鑄鐵ヲ主トス）
第二號　砲金　一、二六〇瓩（機械取外シ品）
第三號　針ドラム　一、一六二瓩五（同）
第四號　磁石　一〇三瓩五（同）
一現品所在地　當局
一現品下見　開札前日マテ（休日ヲ除ク）
一公示書類　當局庶務課ニ就キ熟覽ノコト
一入札竝開札日時及場所　當局ニ於テ本月二十二日午前十一時限入札、即時開札
一入札保證金　入札見積價格ノ百分ノ十以上

昭和八年九月十三日　金澤地方專賣局

◉商業登記

◉東洋拓殖株式會社社債發行（支店）

一第四十九回社債總額　金一千五百万圓
各社債ノ金額　一百圓五百圓一千圓五千圓一万圓
社債ノ利率　年五分
社債償還ノ方法及期限　昭和八年七月二十五日ヨリ二箇年据置其後八箇年間ニ隨時償還ス但一部償還ハ抽籤ニ依ル買入銷却ハ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得
各社債ニ付拂込ミタル金額　全額

◉東洋拓殖株式會社社債償還（支店）

一第四十回社債總額ノ內一部償還ニヨリ昭和八年七月二十八日其社債總額ヲ左ノ如ク變更ス
第四十回社債總額　金八千四百圓

◉東洋拓殖株式會社社債償還（支店）

一第五十九回第六十回第六十六回社債總額ノ內一部償還ニヨリ昭和八年七月二十五日其社債總額ヲ各左ノ如ク變更ス
第五十九回社債總額　金二百八十八万一千圓
第六十回同　金二百十四万五千圓
第六十六回同　金一百八十九万五千五百圓

◉合資會社遠藤製材所淸算結了

一昭和八年七月十八日淸算結了ス
右昭和八年八月十六日登記

◉青島電氣株式會社變更

一左記ノ者昭和八年七月二十六日監査役ニ重任ス
鈴木格三郎　青島遼寧路東段二百十八號
石橋藤次郎　青島高苑路五號

◉南定炭鑛株式會社變更

一左記ノ者昭和八年八月十四日取締役ニ就任ス
荒木利恭　南滿洲本溪湖煤鐵公司住宅
一取締役宮原淸ハ昭和八年八月八日其住所ヲ左ノ地ニ移轉ス
兵庫縣川邊郡川西町小戶字宮西一番地ノ二
右昭和八年八月二十一日登記

◉東洋棉花株式會社變更（支店）

一左記ノ者昭和八年八月十四日會社ヲ代表スヘキ取締役ニ就任ス
會社ヲ代表スヘキ取締役　櫂野健三
右昭和八年八月二十五日登記

◉米星煙草株式會社變更

一左記ノ者昭和八年八月二十一日取締役ニ就任ス
取締役　木村庄三郎　東京市大森區池上洗足町二百八十三番地
同　有賀一郎　東京市杉並區上荻窪町八百七十七番地
右昭和八年八月二十八日登記

◉朝鮮銀行變更（支店）

一昭和八年八月二十一日左ノ地ニ支店ヲ設置ス
咸鏡北道慶興郡雄基邑雄基洞百九十六番地
右昭和八年八月二十九日登記

◉株式會社正隆銀行變更（支店）

一左記ノ者昭和八年八月十二日取締役ニ重任ス
竹內悌三郎　東京市豐島區駒込一丁目二十八番地
楊井勇三　大連市臺山屯三百十六番地
右昭和八年八月三十一日登記

在青島日本帝國總領事館

◉合名會社支店設置（支店）

昭和八年五月五日支店ヲ當管內ニ設置シタルニ因リ左ノ登記ヲナス
一商號　合名會社柏內洋行
一本店　奉天城內小西門裡翰墨胡同
一支店　長春北大街
安東縣前聚寶街
哈爾賓傅家甸南三道街十四號
奉天八幡町二番地ノ二
吉林河南街第二百五十三號
一目的　腿帶子及織物雜貨販賣
一設立年月日　大正十三年六月二十五日
一代表社員ノ氏名　柏野菊太郎
一社員ノ氏名住所出資ノ種類及價格
一金十二万圓　柏野菊太郎　奉天城內小西門裡翰墨胡同
一金八万圓　內藤喜一　岡山縣兒島郡琴浦町大字引網四百七十八番地
一存立期間　設立ノ日ヨリ滿十箇年
右昭和八年七月十五日登記

在吉林日本帝國總領事館

◉合資會社山勝商店解散

一總社員ノ同意ニ因リ昭和八年七月二十五日解散ス
昭和八年七月二十八日登記

秩父區裁判所野上出張所

◉株式會社千葉貯蓄銀行變更

一取締役海老原卓爾ハ昭和八年七月十七日死亡ス

◉株式會社日本勸業銀行變更（支店）

一昭和八年七月二十四日熊本市紺屋町一丁目一番地ノ一ノ支店ヲ左ノ地ニ移轉ス
熊本市花畑町八十一番地ノ一
昭和八年七月二十六日登記

◉株式會社日本勸業銀行變更（支店）

一理事杉浦儉一ハ昭和八年七月二十三日其住所ヲ東京市荏原區中延町千八十五番地ニ移轉ス
昭和八年七月二十七日登記

◉千葉土地株式會社變更

一取締役池尾幸一小池近三八代元吉ハ昭和八年七月二十五日各重任ス
一取締役池尾幸一ハ昭和八年七月二十五日其住所ヲ千葉市寒川二百六十二番地ニ移轉ス
一取締役小池近三ハ同日其住所ヲ香取郡佐原町佐原イ三千四百七十七番地ニ移轉ス
昭和八年七月二十九日登記

千葉區裁判所

◉鍋店株式會社變更

一取締役大塚篤三大塚勉三大塚吉之助大塚富四郎大塚信三會社代表取締役大塚篤三監査役大塚四郎大塚あゝへハ昭和八年七月三十日各重任ス
昭和八年七月三十一日登記

佐倉區裁判所成田出張所

◉株式會社常磐銀行變更（支店）

一取締役角田林兵衞龜山甚監査役川崎友之介花塚仁兵衞ハ昭和八年七月二十六日重任ス
昭和八年七月二十八日登記

◉株式會社五十銀行變更（支店）

一補缺ニ因リ昭和八年七月二十五日左者取締役ニ就任ス
五頭庄三郎　新治郡土浦町一三三六番屋敷
昭和八年七月二十九日登記

水戶區裁判所湊出張所

◉株式會社常磐銀行變更（支店）

一取締役角田林兵衞龜山甚監査役川崎友之介花塚仁兵衞ハ昭和八年七月二十六日重任ス
昭和八年七月二十八日登記

水戶區裁判所助川出張所

◉株式會社五十銀行變更（支店）

一補缺ニ因リ昭和八年七月二十五日左者取締役ニ就任ス
五頭庄三郎　新治郡土浦町一三三六番屋敷
右昭和八年七月三十一日登記

土浦區裁判所谷田部出張所

◉株式會社常磐銀行變更（支店）

一取締役角田林兵衞龜山甚監査役川崎友之介花塚仁兵衞ハ任期滿了ニ付昭和八年七月二十六日重任ス
昭和八年七月二十八日登記

龍ケ崎區裁判所

第2012号 本文

●株式會社勢南銀行變更（支店）
一取締役一名缺員及監査役全員任期滿了ノ處昭和八年七月二十四日監査役橋爨助ハ重任左記ノ者新ニ各就任ス
　取締役　西岡榮一　多氣郡明星村大字蓑村三十四番地
　監査役　正木儀吉　宇治山田市大字岡本町二百四十七番地

●東洋かき合資會社變更
一昭和八年七月二十三日有限責任社員梅本圓六ハ其持分全部ヲ左ノ者ニ讓渡シテ退社シ無限責任社員山田賢一ハ其持分ノ内金七千三百六十四圓ヲ左ノ者ニ讓渡シ其出資額ヲ金一万一千百六十八圓ト變更シ有限責任社員坪谷一雄ハ其持分ノ内金六千二百三圓ヲ左ノ者ニ讓渡シテ其出資額ヲ金八千八百三十二圓ト變更シ同山田鐐十郎ハ其持分ノ内金七十圓ヲ左ノ者ニ讓渡シ其出資額ヲ金百圓ト變更シ同松岡松太郎ハ其持分ノ内金四十二圓ヲ左ノ者ニ讓渡シ其出資額ヲ金六十圓ト變更シ同川本廣吉ハ其持分ノ内金七十圓ヲ左ノ者ニ讓渡シ其出資額ヲ金百圓ト變更シ同市川すゑハ其持分ノ内金百四十圓ヲ左ノ者ニ讓渡シ其出資額ヲ金二百圓ト變更シ同森すまハ其持分ノ内金七百一圓ヲ左ノ者ニ讓渡シ其出資額ヲ金一千圓ト變更シ同淸水きぬハ其持分ノ内金百四十圓ヲ左ノ者ニ讓渡シ其出資額ヲ金二百圓ト變更シ同淸水光次郎ハ其持分ノ内金三百五十圓ヲ左ノ者ニ讓渡シ其出資額ヲ金五百圓ト變更シ同淸水敬三郎ハ其持分ノ内金百四十圓ヲ左ノ者ニ讓渡シ其出資額ヲ金二百圓ト變更シ同木村健三郎ハ其持分ノ内金三百五十圓ヲ左ノ者ニ讓渡シ其ノ出資額ヲ金五百圓ト變更シ同大澤　吉ハ其持分ノ内金一千三百三十二圓ヲ左ノ者ニ讓渡シ其出資額ヲ金八百八十二圓ト變更シ同加藤治一ハ其持分ノ内金九百十二圓ヲ左ノ者ニ讓渡シ其出資額ヲ金千六百四十圓ト變更ス
一讓受人タル左記社員ハ同日出資額ヲ頭書ノ如ク變更ス
　金二万四千六百二十圓　菅井宗吉
一昭和八年七月二十三日有限責任社員大澤竫吉ハ其持分全部ヲ左ノ者ニ讓渡シテ退社シ左記讓受人頭書ノ出資及責任ヲ以テ同日入社ス
　金八百八十圓　有限　大澤てつ
一昭和八年七月二十三日無限責任社員山田賢一ハ其責任ヲ有限ニ有限責任社員菅井宗吉ハ其責任ヲ無限ニ各變更ス

●東洋かき合資會社本店移轉
一昭和八年七月二十五日本店ヲ左ノ地ニ移轉ス
　志摩郡國府村三千二百六十七番地
昭和八年七月二十八日登記

●株式會社高砂病院變更
一監査役中川源治松葉才助大崎楠雄ハ任期滿了ノ處昭和八年七月二十九日各重任ス
昭和八年七月二十九日登記　山田區裁判所鵜方出張所

●株式會社勢南銀行變更（支店）
一取締役一名缺員及監査役全員任期滿了ニ付昭和八年七月二十四日監査役橋爨助ヲ再選シ左記者新ニ選任何レモ同日就任ス
　取締役　西岡榮一　多氣郡明星村大字蓑村三十四番地
　監査役　正木銀吉　宇治山田市大字岡本町二百四十七番地
昭和八年七月二十八日登記　山田區裁判所波切出張所

●紀勢無盡株式會社變更
一監査役全員任期滿了ニ付昭和八年七月二十二日總會ニ於テ改選ノ結果福山稻太郎石倉龜三郎ハ再選重任シ左記ノ者新ニ監査役ニ就任セラレ同日就任ス
　北牟婁郡尾鷲町大字中井浦百七十五番地　畦地益三
昭和八年七月二十八日登記　木本區裁判所尾鷲出張所

●紀勢無盡株式會社變更（支店）
一監査役全員任期滿了ニ付昭和八年七月二十二日株主總會ニ於テ福山稻太郎石倉龜三郎ハ再選重任シ左記ノ者新タニ監査役ニ選任セラレ同日孰レモ就任ス
　北牟婁郡尾鷲町大字中井浦百七十五番地　畦地益三
昭和八年八月一日登記　木本區裁判所引本出張所

●紀勢無盡株式會社變更（支店）
一監査役全員任期滿了ノ處昭和八年七月二十二日福山稻太郎石倉龜三郎ハ重任シ同日左記ノ者就任ス
　北牟婁郡尾鷲町大字中井浦百七十五番地　畦地益三
昭和八年七月三十一日登記　木本區裁判所長島出張所

●株式會社不動貯金銀行變更
一取締役牧野太郎牧野司郎川口彦治柳井信治ハ昭和八年七月二十五日重任ス

●美濃倉庫株式會社變更
一監査役村瀨喜次郎ハ昭和八年七月二十六日重任ス

●美濃製紙株式會社變更
一各株拂込額ヲ金五十圓ト變更ス
昭和八年七月二十九日登記

●合資會社設立
一商號　合資會社服部甚作商店
一本店　岐阜市金寶町四丁目九番地
一目的　織物類ノ製造販賣織物類及織物原料品賣買ノ業ヲ營ム
一設立年月日　昭和八年七月三十日
一社員ノ氏名住所出資及責任
　金五千圓　無限　服部甚作　岐阜市金寶町四丁目九番地
　金三千圓　有限　服部すてよ　同所同番地
　金二千圓　同　廣瀨八郎　本巢郡穗積村別府千百八十一番地
一代表社員　服部甚作
一存立時期　設立ノ日ヨリ十五箇年

●合名會社宮島商店變更
一社員宮島菊太郎ハ昭和八年七月二十四日其出資持分全部ヲ讓渡退社シ左記ノ者之ヲ讓受ケ同日入社ス
　金五百圓　宮島良男　岐阜市今町二丁目三十四番地

●株式會社十六銀行變更
一取締役大野英治山崎丈夫上松泰造岡本太右衛門日下部久太郎桑原頎一渡邊甚吉有川金吉ハ昭和八年七月二十五日重任ス
昭和八年七月三十一日登記　岐阜區裁判所

●岐阜無盡株式會社變更（支店）
一監査役森喜市ハ昭和八年七月二十六日辭任ス
一取締役竝會社ヲ代表スヘキ取締役任期滿了ニ付同日安藤爲司安藤金司栗田貞三鵜飼光次郎芳村力次郎村瀨庄吉ハ重任シ同日左記ノ者取締役ニ就任ス
　岐阜市上太田町十六番地　森喜市
一會社ヲ代表スヘキ取締役ニ同日安藤爲司就任ス
昭和八年八月五日登記　大垣區裁判所

●株式會社十六銀行變更（支店）
一取締役大野英治山崎丈夫上松泰造岡本太右衛門日下部久太郎桑原頎一渡邊甚吉有川金吉ハ昭和八年七月二十五日重任ス
昭和八年八月一日登記

●劇場株式會社長久座變更
一取締役山村末男ハ昭和八年七月二十六日死亡ス
昭和八年八月三日登記

●株式會社多治見水陸物産市場變更
一取締役佐藤佐兵衛ハ昭和八年七月二十五日其資格消滅ス
一取締役補缺ニ付昭和八年七月二十五日左記ノ者就任ス
　佐藤　鐐三　可兒郡豐岡町長瀨七百八十四番地
　水野源兵衛　同所千七百八十七番地ノ三
　鈴木要九郎　同所二千二百八十八番地ノ一ノ二
　小池幸三郎　同所中之鄕千三百九十一番地
昭和八年八月五日登記　御嵩區裁判所多治見出張所

●大井水産株式會社變更
一取締役市川欽次郎丸山朝吉井口初太郎大塚憙六中山秀次郎ハ昭和八年七月二十五日重任シ左記ノ者同日取締役ニ就任ス
　中神市三　惠那郡大井町二百七十番地
一會社ヲ代表スヘキ取締役市川欽次郎ハ同日重任ス
一監査役古山綱吉伊藤寬大塚一三水野仙太郎ハ同日重任ス
昭和八年八月四日登記　御嵩區裁判所大井出張所

●合資會社上呂運送店變更
一有限責任社員二村一雄ハ昭和八年七月二十五日責任ヲ無限ト變更ス
一會社代表社員中島義一ハ昭和八年七月二十五日辭任シ會社代表社員ニ同日二村一雄就任ス
一昭和八年七月二十五日商號ヲ左ノ如ク變更ス
　商號　上呂合同運送合資會社
一無限責任社員二村一雄ハ昭和八年七月二十五日其持分ノ一部ヲ讓渡シ出資額ヲ金三千圓ト變更シ同中島義一ハ同日其持分ノ一部ヲ讓渡シ出資額ヲ金千圓ト變更シ有限責任社員佐伯勝郎ハ同日其持分ノ一部ヲ讓渡シ出資額ヲ金千圓ト變更シ左記ノ者讓受ニ因リ同日入社ス
　金千圓　有限　熊崎磯吉　益田郡川西村大字野上千百十八番地
　金千圓　有限　今井乙彥　同郡萩原町大字萩原千三百十五番地
　金千圓　有限　熊崎準一　同所千四百十七番地ノ一
　金千圓　有限　熊崎初太郎　同所千三百二十二番地
　金千圓　有限　金子忠一　同町大字上呂千四百九十七番地
昭和八年八月四日登記　高山區裁判所萩原出張所

●下呂溫泉藥師湯合資會社變更
一有限責任社員中川雄三郎ハ昭和八年七月二十四日其持分全部ヲ讓渡退社シ有限責任社員武川瀧藏ハ之ヲ讓受無限責任社員武川辰次郎ハ同日其持分ノ一部ヲ讓渡出資額ヲ金十二圓ト變更シ有限責任社員武川瀧藏ハ讓受ニ因リ同日其出資額ヲ金千五百七十五圓ト變更シ有限責任社員武川維夾男ハ讓受ニ因リ同日其出資額ヲ金千三百五十八圓ト變更ス
昭和八年八月五日登記　高山區裁判所下呂出張所

●株式會社森山貯蓄銀行變更（支店）
一昭和八年七月三十一日左ノ者取締役ニ就任セリ
　坂井郡三國町中元甲十八番地　森田左武郎
右昭和八年八月三日登記

●株式會社安田銀行支店移轉（支店）
一昭和八年八月一日岡山縣兒島郡味野町三千七百九十六番ノ内第一地ノ支店ヲ左ノ地ニ移轉ス
　岡山縣兒島郡味野町三千九百七番地　支店
右昭和八年八月四日登記　福井區裁判所

●株式會社福井銀行支店廢止（支店）
昭和八年七月二十日臨時株主總會ノ決議ニ因リ同年同月三十一日左記支店ヲ廢止ス
　福井縣坂井郡雄島村宿二十一字砂山三番地ノ二
　同縣大野郡勝山町袋田七番地ノ一
　同縣同郡大野町五番二百二十五號十番地
　同縣三方郡南西鄕村鄕市二十六號四番地
　石川縣石川郡鶴來町カ四十五番地ノ甲
右昭和八年八月五日登記　福井區裁判所東鄕出張所

●株式會社福井銀行支店廢止（支店）
昭和八年七月三十一日左記支店ヲ廢止ス
　福井縣坂井郡雄島村宿二十一字砂山三番地ノ二
　同縣大野郡勝山町袋田七番地ノ一
　石川縣石川郡鶴來町カ四十五番地ノ甲
　福井縣三方郡南西鄕村鄕市二十六號四番地
　同縣大野郡大野町五番二百二十五號十番地
右昭和八年八月五日登記　福井區裁判所三國出張所

●株式會社福井銀行支店廢止
昭和八年七月三十一日左ノ支店ヲ廢止ス
　福井縣坂井郡雄島村宿二十一字砂山三番地ノ二
　同縣大野郡勝山町袋田七番地ノ一
　同縣三方郡南西鄕村鄕市二十六號四番地
　同縣大野郡大野町五番二百二十五號十番地
　石川縣石川郡鶴來町カ四十五番地ノ甲
右昭和八年八月五日登記　福井區裁判所丸岡出張所

●株式會社福井銀行變更（支店）
昭和八年七月二十日臨時株主總會ノ決議ニ因リ同年同月三十一日限リ左記支店ヲ廢止ス
　福井縣坂井郡雄島村宿二十一字砂山三番地ノ二
　同縣大野郡勝山町袋田七番地ノ一
　石川縣石川郡鶴來町カ四十五番地甲
　福井縣三方郡南西鄕村鄕市二十六號四番地
　同縣大野郡大野町五番二百二十五號十番地
右昭和八年八月五日登記　福井區裁判所金津出張所

●株式會社安田銀行變更（支店）
一昭和八年八月一日岡山縣兒島郡味野町三千七百九十六番ノ内第一地ノ支店ヲ左ノ地ニ移轉ス
　岡山縣兒島郡味野町三千九百七番地　支店

●南越鐵道株式會社變更
一取締役全員任期滿了ノ處昭和八年七月二十五日竹下勘右エ門三田村甚三郎西野市兵衛武内五平西野藤助森廣之坂田勉會社代表取締役竹下勘右エ門ハ各重任ス
昭和八年八月四日登記

●株式會社福井銀行變更（支店）
一昭和八年七月三十一日福井縣坂井郡雄島村宿二十一字砂山三番地ノ二同縣大野郡勝山町袋田七番地ノ一石川縣石川郡鶴來町カ四十五番地ノ甲福井縣三方郡南西鄕村鄕市二十六號四番地同縣大野郡大野町五番二百二十五號十番地ノ支店ヲ廢止ス
昭和八年八月五日登記　武生區裁判所

●株式會社安田銀行變更（支店）
昭和八年八月一日岡山縣兒島郡味野町三千七百九十六番ノ内第一地ノ支店ヲ左ノ地ニ移轉ス
　岡山縣兒島郡味野町三千九百七番地　支店
右昭和八年八月四日登記

●株式會社福井銀行變更（支店）
昭和八年七月三十一日左ノ支店ヲ廢止ス
　福井縣坂井郡雄島村宿二十一字砂山三番地ノ二
　同縣大野郡勝山町袋田七番地ノ一
　同縣三方郡南西鄕村鄕市二十六號四番地
　同縣大野郡大野町五番二百二十五號十番地
　石川縣石川郡鶴來町カ四十五番地ノ甲
右昭和八年八月五日登記　武生區裁判所鯖江出張所

●株式會社福井銀行支店廢止（支店）
昭和八年七月三十一日坂井郡雄島村宿二十一字砂山三番地ノ二大野郡勝山町袋田七番地ノ一三方郡南西鄕村鄕市二十六號四番地大野郡大野町五番二百二十五號十番地石川縣石川郡鶴來町カ四十五番地ノ甲ノ各支店ヲ廢止ス
右昭和八年八月五日登記　武生區裁判所粟田部出張所

●株式會社福井銀行變更（支店）
一昭和八年七月三十一日左ノ支店ヲ廢止ス
　福井縣坂井郡雄島村宿二十一字砂山三番地ノ二
　同縣大野郡勝山町袋田七番地ノ一
　同縣三方郡南西鄕村鄕市二十六號四番地
　同縣大野郡大野町五番二百二十五號十番地
　石川縣石川郡鶴來町カ四十五番地ノ甲
右昭和八年八月五日登記　大野區裁判所

●商號石川宗太夫及伊藤末春
營業ノ種類　伊勢大神樂奏樂勞務請負營業
營業所　福井縣大野郡勝山町下元祿十一號一番地
商號使用者ノ氏名住所　中村幸次郎　三重縣桑名郡在良村大字增山四百七十四番地
右昭和八年八月四日登記

●株式會社福井銀行變更（支店）
昭和八年七月三十一日限リ左記支店ヲ廢止ス
　福井縣坂井郡雄島村宿二十一字砂山三番地ノ二
　同縣大野郡勝山町袋田七番地ノ一
　同縣同郡大野町五番二百二十五號十番地
　同縣三方郡南西鄕村鄕市二十六號四番地
　石川縣石川郡鶴來町カ四十五番地ノ甲
右昭和八年八月五日登記　大野區裁判所勝山出張所

●株式會社福井銀行變更（支店）
昭和八年七月三十一日左ノ支店ヲ廢止ス
　福井縣坂井郡雄島村宿二十一字砂山三番地ノ二
　同縣大野郡勝山町袋田七番地ノ一
　同縣三方郡南西鄕村鄕市二十六號四番地
　同縣大野郡大野町五番二百二十五號十番地
　石川縣石川郡鶴來町カ四十五番地ノ甲
右昭和八年八月五日登記　敦賀區裁判所八村出張所

●株式會社森田貯蓄銀行變更（支店）
昭和八年七月三十一日左記ノ者取締役ニ就任ス
　福井縣坂井郡三國町中元十八番地　森田左武郎
右昭和八年八月三日登記　小濱區裁判所

●株式會社金澤商業銀行變更
一監査役岡本八平ハ昭和八年七月二十九日重任ス

●北陸興業株式會社變更
一監査役小野木他喜男ハ昭和八年七月二十九日重任ス

●株式會社安田銀行支店移轉（支店）
昭和八年八月一日岡山縣兒島郡味野町三千七百九十六番ノ内第一地ノ支店ヲ岡山縣兒島郡味野町三千九百七番地ニ移轉ス

●支配人選任
支配人ノ氏名住所　桑原彌三郎　江沼郡河南村字別所カ十七番地ノ二
主人ノ氏名住所　合資會社桑原商會　金澤市中町三十三番地
支配人ヲ置キタル場所　金澤市中町三十三番地
右昭和八年八月四日登記　金澤區裁判所

●松任倉庫運輸株式會社變更
監査役任期滿了ニ付昭和八年七月二十二日倉山與太郎古瀨榮次郎ハ重任ス
右昭和八年八月一日登記　金澤區裁判所松任出張所

●能美運輸倉庫株式會社變更
一監査役全員任期滿了ノ處昭和八年八月一日金山太次郎中辻博ハ各重任シ同日左ノ者新任ス
　能美郡山上村字辰口イ百六番地ノ一　田川五三郎
右昭和八年八月四日登記

●株式會社福井銀行（支店廢止）
一昭和八年七月三十一日左記ノ支店ヲ廢止ス
　福井縣坂井郡雄島村宿二十一字砂山三番地ノ二
　同縣大野郡勝山町袋田七番地ノ一
　同縣三方郡南西鄕村鄕市二十六號四番地
　同縣大野郡大野町五番二百二十五號十番地
　石川縣石川郡鶴來町カ四十五番地ノ甲
右昭和八年八月五日登記　金澤區裁判所鶴來出張所

●株式會社小松製作所變更
一取締役高岩勘次郎ハ任期滿了ノ處昭和八年七月二十九日重任ス
右昭和八年八月二日登記　小松區裁判所

●白峯電氣株式會社變更
一取締役竹内宗司小々高亨監査役坂本源三ハ昭和八年七月二十五日各重任シ取締役山岸玉十郎ハ昭和八年七月三十日住所ヲ金澤市笹下町三ノ小路六十四番地ノ十三へ移轉ス
右昭和八年八月三日登記　小松區裁判所白峰出張所

第2012号 本文

●北國無盡株式會社變更
一監査役全員任期滿了ニ付昭和八年七月二十四日太田石松ハ退任シ左ノ者各重任ス　村上市右衞門　柿本市太郎
右昭和八年八月四日登記

●株式會社福井銀行變更（支店）
昭和八年七月三十一日左ノ支店ヲ廢止ス　福井縣坂井郡雄島村宿二十一字砂山三番地ノ二　同縣大野郡勝山町袋田七番地ノ一　石川縣石川郡鶴來町カ四十五番地ノ甲　福井縣三方郡南西郷村郷市二十六號四番地　同縣大野郡大野町五番二百二十五號十番地
右昭和八年八月五日登記
小松區裁判所大聖寺出張所

●能登無盡株式會社變更
一昭和八年七月三十一日左ノ者取締役ニ補缺就任ス
野村源太郎　河北郡淺川村字野イ百七十九番地

●株式會社能登銀行變更
一取締役全員任期滿了ノ處昭和八年七月二十九日左ノ者各重任ス
西野勇喜智　櫻井小左ヱ門　坂本常吉　泊宗一　春木清兵衞
右昭和八年八月四日登記　七尾區裁判所

●株式會社餘喜銀行變更
一取締役全員任期滿了ノ處昭和八年七月二十三日左ノ者取締役ニ就任ス
濱田六太郎　羽咋郡邑知村字菱分九十二番地
今井助藏　鹿島郡金丸村セ部十八番甲地
和田政範　同郡同村又か部五十番地
濱田勇藏　同郡餘喜村字大町ソ部百五番地
松柳重太郎　同郡同村字四柳レ部二十一番地
右昭和八年八月四日登記　七尾區裁判所御祖出張所

●株式會社十二銀行變更（支店）
一取締役中田清兵衞　山田信昌　馬瀨清九郎　山村爲介　吉田耕三　家城尙由ハ昭和八年七月二十四日重任ス

●株式會社穴水銀行變更（支店）
一取締役吉村覺右ヱ門　出水時太郎　阿良田六右ヱ門ハ昭和八年七月二十一日各重任ス
右昭和八年七月二十八日登記

●株式會社鳳至銀行變更（支店）
一監査役泉賢次郎ハ昭和八年七月二十六日重任ス
右昭和八年七月二十九日登記　輪島區裁判所

●株式會社鳳至銀行變更（支店）
一監査役泉賢次郎ハ任期滿了ノ處昭和八年七月二十六日株主總會ニ於テ再選セラレ同日重任ス
右昭和八年八月三日登記　輪島區裁判所柳田出張所

●株式會社鳳至銀行變更（支店）
一監査役泉賢次郎ハ昭和八年七月二十六日重任ス
右昭和八年七月二十九日登記　輪島區裁判所飯田出張所

●富岩鐵道株式會社變更
取締役全員任期滿了ニ付昭和八年六月二十八日取締役加藤金次郎　米田元吉郎　鷹取嘉三郎　橋爪竹次郎　赤間德壽　岩城七次ハ各重任ス
右昭和八年七月十二日登記

●株式會社十二銀行變更
取締役全員任期滿了ニ付昭和八年七月二十四日取締役中田清兵衞　馬瀨清九郎　山村爲介　吉田耕三　家城尙由　山田信昌ハ各重任ス

●株式會社富山美術倶樂部變更
取締役神通豐次郎　廣海多聞　市川安平　八川善藏ハ昭和八年七月二十日各重任ス
監査役永井庄一郎　新村正太郎ハ同日各重任ス
右昭和八年七月二十四日登記

●株式會社日本勸業銀行變更（支店）
昭和八年七月二十四日熊本市紺屋町一丁目一番地ノ一ノ支店ヲ左ノ地ニ移轉ス
支店　熊本市花畑町八十一番地ノ一
右昭和八年七月二十六日登記

●株式會社日本勸業銀行變更（支店）
昭和八年七月二十三日理事杉浦倹一ハ住所ヲ東京市荏原區中延町千八十五番地ニ移轉ス
右昭和八年七月二十七日登記

●不二越鋼材工業株式會社變更
一各株拂込額ヲ金三十圓ト變更ス
右昭和八年七月二十八日登記

●株式會社不動貯金銀行變更（支店）
取締役牧野太郎　牧野司郎　川口彥治　柳井信治ハ昭和八年七月二十五日各重任ス

●蓮沼土地商事株式會社變更
監査役蓮沼安太郎　蓮沼友次郎ハ昭和八年七月二十七日各重任ス
右昭和八年七月二十九日登記

●株式會社永守銀行變更（支店）
昭和八年七月二十日射水郡海老江村海老江一四四番地ノ支店ヲ廢止ス

●株式會社高岡銀行變更（支店）
監査役荒木文平ハ昭和八年七月二十四日重任ス
右昭和八年七月三十一日登記

●株式會社日本勸業銀行支配人解任及選任（支店）
一支配人解任
支配人武田平三郎ハ昭和八年七月三十一日解任ス
一支配人選任
一支配人ノ氏名住所　梶原善雄　富山市千石町二百十三番地
一主人ノ氏名住所　株式會社日本勸業銀行　東京市麴町區内山下町一丁目一番地
一支配人ヲ置キタル場所　富山市山王町八番地
右昭和八年八月一日登記　富山區裁判所

●株式會社岩瀨銀行變更
一取締役米田元吉郎　馬場久藏　佐藤與三松　百塚庄太郎　宮城彥次郎　橋爪竹次郎ハ昭和八年七月二十三日重任ス
昭和八年八月三日登記　富山區裁判所東岩瀨出張所

●合資會社設立
一商號　合資會社寺口木材商店
一本店　上新川郡月岡村月岡新六二七番地
一目的　木材ノ委托販賣及建築物ノ請負
一設立ノ年月日　昭和八年八月一日
一社員ノ氏名住所出資ノ種類價格及ヒ責任
一金一千五百圓也　無限責任　寺口太重　上新川郡月岡村月岡新六二七番地
一金一千圓也　有限責任　寺口嚴義　上新川郡福澤村牧野六二〇番地
一金五百圓也　有限責任　寺口德三郎　同郡同村同所同番地
一存立ノ時期　向フ十箇年
右昭和八年八月三日登記　富山區裁判所上瀧出張所

●株式會社十二銀行變更（支店）
一取締役中田清兵衞　山田信昌　馬瀨清九郎　山村爲介　吉田耕三　家城尙由ハ昭和八年七月二十四日重任ス
右昭和八年七月二十五日登記

●合資會社富川八百物店解散
一總社員ノ同意ニ依リ昭和八年七月十五日解散ス
右昭和八年七月二十六日登記

●株式會社高岡銀行變更（支店）
一監査役荒木文平ハ昭和八年七月二十四日重任ス
右昭和八年七月三十一日登記

●株式會社岩瀨銀行變更（支店）
一取締役米田元吉郎　馬場久藏　佐藤與三松　百塚庄太郎　宮城彥次郎　橋爪竹次郎ハ昭和八年七月二十四日重任ス
右昭和八年八月四日登記　魚津區裁判所

●支配人ノ解任及選任
一主人株式會社第四十七銀行東水橋支店支配人野島利久ヲ昭和八年七月二十三日解任ス
一支配人　高見將三　富山市相生町八番地
一主人株式會社第四十七銀行　富山市中町二十五番地
一支配人ヲ置キタル場所　中新川郡東水橋町大字東水橋町十八番地
右昭和八年八月四日登記

●株式會社岩瀨銀行變更（支店）
一取締役米田元吉郎　馬場久藏　佐藤與三松　百塚庄太郎　宮城彥次郎　橋爪竹次郎ハ昭和八年七月二十三日重任ス
右昭和八年八月五日登記　魚津區裁判所滑川出張所

●株式會社新湊銀行變更（支店）
一監査役高松惠二　安川喜一郎ハ昭和八年七月二十日重任ス
右昭和八年八月三日登記

●株式會社高岡商業銀行變更（支店）
一監査役一名缺員ノ處昭和八年七月二十六日左記ノ者新ニ監査役ニ就任ス
河合磯太郎　射水郡野村蓮花寺十番地
右昭和八年八月五日登記　高岡區裁判所小杉出張所

●株式會社新湊銀行變更（支店）
監査役高松惠二　安川喜一郎ハ昭和八年七月二十日各重任ス
右昭和八年八月二日登記　高岡區裁判所氷見出張所

●株式會社泉銀行變更（支店）
一取締役佐々木千秀　植田新之助　天野健太郎　新原虎之助　三宅清一郎ハ昭和八年七月二十七日各重任シ同日左ノ者新ニ取締役ニ就任ス
渡邊寛三郎　吳市登町一丁目四十番地
一監査役三宅貞多夫　宮田群一　大隅賢亮ハ昭和八年七月二十七日各重任ス
右昭和八年八月四日登記　廣島區裁判所海田市出張所

公示催告

會社合併ニ付公告

昭和八年九月十二日當銀行臨時株主總會ニ於テ當銀行ハ株式會社山口銀行及株式會社鴻池銀行ト合併シ新ニ株式會社三和銀行ヲ設立スルノ件決議致候ニ付當銀行ニ對スル債權者ニシテ異議アル向ハ本年十一月十七日迄ニ御申出相成度商法其他法令ノ規定ニ依リ此段及公告候也

昭和八年九月十三日
大阪市東區高麗橋四丁目五番地
株式會社三十四銀行

會社合併ニ付公告

昭和八年九月十二日開催ノ當行臨時株主總會ニ於テ當行ハ株式會社三十四銀行、株式會社鴻池銀行ト合併シテ株式會社三和銀行ヲ設立スルコトニ決議致候ニ付右ニ關シ御異議有之候債權者ハ昭和八年十月二十五日迄ニ御申出相成度商法及銀行法ノ規定ニ依リ此段公告候也

昭和八年九月十三日
大阪市東區瓦町二丁目五十五番地
株式會社山口銀行

會社合併ニ付公告

昭和八年九月十二日開催ノ臨時株主總會ニ於テ當銀行ト株式會社三十四銀行及株式會社山口銀行ト合併シ新ニ株式會社三和銀行ヲ設立スルコトニ決議致候ニ付當銀行ニ對スル債權者ニシテ右合併ニ異議有之候向ハ昭和八年十月二十五日迄ニ御申出相成度此段公告候也

昭和八年九月十三日
大阪市東區今橋三丁目二十一番地
株式會社鴻池銀行

公示送達

呼出狀

被審人　蛯原安太郎

右機船京壽丸乘揚事件ニ付十一月十日午前九時審判開廷候條同日時當審判所ヘ出頭スヘシ

昭和八年九月六日
東京地方海員審判所
審判長地方海員審判所審判官　椿孫次郎
地方海員審判所書記　白鳥堅造

復權申立

滋賀縣栗太郡老上村大字野路千五百八十七番地
破產者　中野宗太郎

右者ヨリ昭和八年九月二日當裁判所ニ復權ノ申立ヲ爲シタリ債權者ハ本公告ノ日ヨリ三箇月内ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

右公告ス

昭和八年九月六日
大津區裁判所

宮城縣宮城郡松島町幡谷字新田四番地
當時仙臺市外記丁三十一番地
破產者　清木存廣

右ノ者ヨリ復權ノ申立アリタリ之ニ異議アル債權者ハ本公告ノ日ヨリ三箇月内ニ其旨申立ツヘシ

昭和八年九月五日
仙臺區裁判所

宮城縣亘理郡山下村八手庭字横山五番地
破產者　星初三郎

右ノ者ヨリ復權ノ申立アリタリ之ニ異議アル債權者ハ本公告ノ日ヨリ三箇月内ニ其ノ旨申立ツヘシ

昭和八年九月六日
仙臺區裁判所

復權許可

破產宣告當時ノ住所東京府南葛飾郡吾嬬町木下百七十九番地
現住所及本籍東京市向島區吾嬬町西九丁目七十五番地
破產者　宇田川濟之助

右之者ニ對スル昭和七年(た)第一三六九號復權申立事件ニ付當裁判所ハ昭和八年二月二十四日左記主文ノ如ク決定シ該決定ハ確定シタリ

主文

宇田川濟之助ノ復權ハ之ヲ許可ス

昭和八年九月八日
東京區裁判所
判事　江村高行

本籍東京市淺草區瓦町十九番地
住所東京市向島區隅田町三丁目千七十七番地網中平藏方
破產者　網中福太郎

右之者ニ對スル昭和七年(た)第一五四六號復權申立事件ニ付當裁判所ハ昭和八年一月二十四日左記主文ノ如ク決定シ該決定ハ確定シタリ

主文

網中福太郎ノ復權ハ之ヲ許可ス

昭和八年九月八日
東京區裁判所
判事　江村高行

横濱市中區尾上町二丁目十六番地
破產者　植木順三

右ノ者ニ對スル昭和八年(た)第三三號復權申立事件ニ付昭和八年八月九日當裁判所ハ左ノ如ク決定ヲ爲シ該決定確定シタリ依テ公告ス

破產者植木順三ノ復權申立ハ之ヲ許可ス

昭和八年九月五日
横濱區裁判所

川崎市南河原六十五番地
破產者　高橋友吉

右ノ者ニ對スル昭和七年(た)第五號復權申立事件ニ付昭和八年八月十日當裁判所ハ左ノ決定ヲ爲シ該決定確定シタリ依テ公告ス

破產者高橋友吉ノ復權申立ハ之ヲ許可ス

昭和八年九月五日
横濱區裁判所

川崎市南河原六百八番地
破產者　鈴木安太郎

右ノ者ニ對スル昭和八年(た)第二七號復權申立事件ニ付昭和八年八月十日當裁判所ハ左ノ如ク決定ヲ爲シ該決定確定シタリ依テ公告ス

破產者鈴木安太郎ノ復權申立ハ之ヲ許可ス

昭和八年九月五日
横濱區裁判所

行旅死亡人

本籍住所氏名不詳男一人推定年齡二十三四年位身長五尺二三寸色白キ方ニテ貌長ク頭髮丸刈其他並著衣ハ木綿白絣人絹用ノ紺綾ノ兵兒帶白晒木綿ノ肌著及白木綿ノ猿股二枚ヲ著ス所持品ハ蝦蟇口中ニ金十二錢名古屋市電割引切符復券一枚白ハンカチ扇子瓦斯風呂敷紙製パナマ帽子ヲ所持ス

右本月二十五日午後六時十八分東海道線鷲津驛新居町驛間新居町中之郷字天當山鐵道線路上ニ於テ轢死シタルヲ以テ檢視ノ上假埋葬取計ヒ置ケリ心當リノ者ハ當役場ニ申出ツヘシ

昭和八年八月二十七日
靜岡縣濱名郡新居町役場

日本銀行週報

●兌換銀行券發行高每週平均高報告（自昭和八年九月三日至昭和八年九月九日）

		圓
發行兌換銀行券		一、一二二、〇八三、五五六・〇〇〇
準備	金貨及金地金	四二五、〇六九、二二五・〇〇〇
保證	公債	二四六、六五〇、九八二・〇〇〇
	政府證券	二二、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	證券	一五三、六六六、一〇〇・〇〇〇
	手形	二七四、六九七、二四九・〇〇〇
	合計	六九七、〇一四、三三一・〇〇〇

●營業每週報告（昭和八年九月九日）

		圓
負債ノ部		
資本金		六〇、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
積立金及損益金		一二五、三八三、七八九・七八一
發行兌換銀行券		一、〇五九、四八一、六五二・〇〇〇
政府預金	政府當座預金	二八二、八四一、四一〇・四〇七
	其他	一七五、五二一、三七二・八六六
	計	四五八、三六二、七八三・二七三
一般預金		九七、二三六、九〇五・四五〇
小額紙幣準備寄託金		一一、二六〇、〇〇〇・〇〇〇
其他		一一〇、五〇三、四一〇・七七一
總計		一、九二三、二二八、五四一・二七五
資產ノ部		
拂込未濟資本金		一五、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
現金	金貨及地金	四二五、〇七〇、一九九・五七〇
	其他	四一、八一三、七九九・一二〇
	計	四六六、八八三、九九八・六九〇
割引手形		六二七、八五七、二一二・四〇〇
政府法定貸金		二、九二四、七五六・二五〇
政府一時貸金		三二、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
貸付金		二六、九六二、五七七・八三〇
外國爲替貸金		一一二、一三〇、四九四・〇三〇
公債		四五二、八〇八、〇五二・一八〇
代理店勘定		一一〇、三〇四、五二九・四一八
政府勘定特殊現金		四七、〇一三、二七三・九八六
小額紙幣準備保管金		一一、二六〇、〇〇〇・〇〇〇
其他		一八、〇八三、六四六・四九一
總計		一、九二三、二二八、五四一・二七五

昭和八年九月十二日
日本銀行

●外國郵便物東京中央郵便局締切日時表

通常 普通 月日時	通常 書留 月日時	小包 月日時	郵便船出帆港	船名
●南支那、香港、フイリッピン群島、海峽植民地、英領印度等行				
九、一四前八半	━	━	神戸	ナルデラ號
同一五後七	九、一五後六半	━	同	もんてびでお丸
同一六前八半	同一五後一〇	━	同	プレシデント、クリブランド號
同三前八半	同三後一〇	九、一五後一〇	門司	香取丸
●布哇、米國、加拿陀、南米等行				
同一四後零一〇	同一四前一一、五〇	━	橫濱	淺間丸
●布哇、加拿陀、米國、南米等行				
同一五後零一〇	同一五前一一、五〇	━	同	エムプレスオブカナダ號
●香港、フイリピン群島、濠洲、新西蘭等行				
同一六後八、一五	同一六後七、四五	九、一四前八半	長崎	熱田丸

（備考）香取丸ノ小包ハ横濱局送トス

第2012号 本文

矢作水力株式會社第壹回物上擔保附い號社債募集

今般當會社第壹回物上擔保附社債總額貳千七百萬圓ノ内第壹回發行い號社債左記要項ニ依リ募集致候間御申込被下度候也

昭和八年九月

名古屋市東區七間町壹丁目壹番地
矢作水力株式會社

一　委託會社　矢作水力株式會社

一　受託會社　株式會社日本興業銀行

一　社債總額　貳千七百萬圓

一　發行方法　分割發行

一　今回發行スヘキ金額　い號社債金壹千四百萬圓

一　各社債ノ金額　壹百圓、五百圓、壹千圓、五千圓及壹萬圓ノ五種、無記名式利札附

一　發行價額　額面壹百圓ニ付金壹百圓

一　乘換應募　左記社債ハ左ノ割合ヲ以テ夫々拂込金（錢位未滿切捨）ニ代用スルコトヲ得

昭和拾年五月貳拾五日期限矢作水力株式會社（舊白山水力株式會社）ヨ號社債（昭和八年拾壹月貳拾五日渡以降利札附屬）ハ額面壹百圓ニ付金壹百貳圓參拾貳錢參厘

昭和拾壹年參月壹日期限矢作水力株式會社（舊白山水力株式會社）ロ號社債（昭和九年參月壹日渡以降利札附屬）ハ額面壹百圓ニ付金壹百圓五拾九錢四厘五毛

一　社債ノ利率　年五分

一　償還方法及期限　昭和拾年九月貳拾五日迄据置キ其ノ後毎半年利拂期日ニ金貳拾五萬圓以上ヲ償還シ昭和拾五年九月貳拾五日迄ニ殘額全部ヲ償還ス

昭和拾年九月貳拾六日以降何時ニテモ全部又ハ一部ヲ繰上償還シ又ハ買入銷却スルコトヲ得一部償還ハ抽籤ノ方法ニ依ル

一　利息支拂ノ方法及期限　毎年參月貳拾五日及九月貳拾五日ノ貳回ニ前半ケ年分ヲ利札引換ニ支拂フ但償還ノ場合ニ於テ半ケ年ニ滿タサルトキハ日割ヲ以テ計算ス

一　元利金支拂場所　株式會社日本興業銀行本支店

一　信託證書ノ表示　昭和八年九月八日作成セル信託證書

一　擔保　昭和八年九月八日委託會社ト受託會社トノ間ニ作成セル信託證書ニ依リ本社債ノ爲メニ委託會社所有左記各工場財團ノ上ニ夫々抵當權ヲ設定ス

一、小松區裁判所鳥越出張所登記第貳號工場財團
一、伊那區裁判所飯島出張所登記第貳號工場財團

委託會社ハ本い號社債發行日迄ニ右伊那區裁判所飯島出張所登記第貳號工場財團ニ對スル先順位ノ抵當權ヲ以テ擔保セラルル金額全部ヲ完濟シ之ヲ擔保スル先順位ノ抵當權ノ登記ヲ抹消シ右兩財團ニ對スル本社債ノ抵當權ヲ何レモ順位第壹番ト爲ス

一　擔保ノ價格ニ關スル調査報告　受託會社株式會社日本興業銀行ノ査定ニ依レハ前記工場財團ハ本社債元利金ヲ擔保スルニ足ル價格ヲ有ス

一　引受募集銀行　株式會社日本興業銀行、株式會社三菱銀行、株式會社川崎第百銀行

一　申込期間　昭和八年九月拾參日ヨリ同拾五日マテ
但期間中ト雖モ締切ルコトアルヘシ

一　申込證據金　金參圓（額面壹百圓ニ付）
但申込ノ際代用證券ヲ提供スルトキハ之ヲ要セス

一　募入方法　乘換應募ハ優先募入トス

一　拂込又ハ代用證券提供期限　昭和八年九月貳拾五日

一　證券代用拂込超過額　金壹萬圓未滿ノ金額ニ限リ昭和八年九月貳拾五日現金ヲ以テ拂戻ヲ爲ス

一　未償還社債總額　八百萬圓（昭和八年九月八日現在）

一　資本金　八千四百參拾五萬圓（内參千七百參拾五萬五千圓拂込濟）（昭和八年九月八日現在）

一　現存財産　六千六百六拾五萬八千九百拾七圓四拾五錢（外ニ未拂込株金四千七百九拾六萬貳千五百圓）（昭和八年參月參拾壹日現在）

一　信託證書閲覽場所　委託會社及受託會社ノ本支店ニ於テ毎日營業時間中閲覽ニ供ス

一　取扱場所　株式會社日本興業銀行、株式會社三菱銀行、株式會社川崎第百銀行各本支店、日興證券株式會社、小池證券株式會社、山一證券株式會社、共同證券株式會社、野村證券株式會社、藤本ビル、ブローカー證券株式會社　本支店

一　利廻　現金五分、乘換ヨ號五分六毛餘、ロ號五分四毛餘

昭和八年九月

東京市麴町區丸ノ内壹丁目八番地壹
受託會社　株式會社**日本興業銀行**

耐火安全書庫
並ニ輕量金庫
專賣特許
耐火木材製
特長
耐火
廉價
輕量
遞信省に四百數十台納入し絕對信用を受く
日本銀行新築證券保管庫
壹千參百六拾個
納入の光榮に浴す
【型錄呈】
商標登録　ノリツ式
鋼鉄事務家具
新案特許
扇狀開閉裝置
ノリツケース
（書類整理抽出容器）
書類箱
書類戸棚
陳列棚、書架台
卓、椅子、衣服棚
合資會社　山口商會
東京京橋二ノ二千代田生命ビル一階　電話京橋七三三七・七三三八番

日本は何處まで行く
陸軍中將　佐藤清勝著
三年後が日本の危機だ。米露の接近、英米は勿論支那及露國では對日諸工作へ進んでゐる。米支は日本に對する共通の利害から緊密なる提携は見逃しならぬ刻下の情勢である。英領殖民地の日本品排擊は何を語るか。満洲事變は解消した。眞の非常時はこれからだ。興るも亡ぶも國民の覺悟一つだ。非常時の眞相を知らずして經濟の發展も民力の伸展もあり得ない。本書は著者の心血を傾けた名書だ。全國民の必讀すべき良書である。壹部貳拾五錢送料二錢要　振替東京七七三壹壹番。東京市麴町區有樂町二ノ二
東亞時局研究會

公債償還抽籤公告

本市財政整理資金公債、第三回水道公債、第二回市立病院建築費公債、土地交換事業費舊債償還並同財政整理資金公債定期償還抽籤ヲ左記ニ依リ執行ス

一、抽籤日時　昭和八年九月十五日午前十一時
一、抽籤場所　横須賀市役所
一、償還金額　四千四百圓（財政整理資金分）
　壹千圓（第三回水道分）
　參千五百圓（市立病院分）
　貳萬七千參百圓（土地交換分）

右公告ス

昭和八年九月九日

横須賀市長　三上文太郎

高級型電動輪轉式
堀井謄寫機
第一五一號
自動給紙
同インキ練
自動計數
電動
裝置
優秀完備
内外眞ニ比類ナシ
最新發賣
優良國産
撰定
型錄贈呈
販賣元　東京市神田區鍛冶町三番地
堀井謄寫堂本店
電話神田壹四二二・四二三・四二四・四二五・四二六
支店出張所　上海・漢口・天津・京城

日本テント
天幕・雨覆・日覆・[illegible]
日本テント商會
テント装飾貸物致マス
大阪[illegible]
電話[illegible]番

宮崎市第貳回上水道敷設費公債償還番號公告

壹千圓券　第三八號

右償還期日　昭和八年九月三十日

昭和八年九月

宮崎市役所

岡田式特許謄寫版
謄寫版界之覇王（創業明治三十三年）
超耐久カミヨ複寫紙
鳥取市片原町三丁目
岡田謄寫堂本店
電話長六〇番
支店
●東京
●大阪
●京城
東京市神田區表神保町十番地
岡田謄寫堂支店
電話神田二四四五番

第2012号　本文

第 2012 号 本文

判決實例
書式文例

民法釋義 全三卷

法曹閣主監 梶康郎氏編著

內容見本贈呈

全三卷の總細目を全部掲載し堂々四六判百三十頁に相當する內容見本製作のレコードを破つてソノ內容の宣傳に徹底を期しました月賦販賣規定と共に御申越次第贈呈致します

特色概觀

1 豐富なる參考判例

法律註釋の劃期的新傾向である判決例の參照は、專門的分類書の續出となつて學者實務家には極めて重要なる一要素でありコレが註釋書に益々多く引用する事は判決實例に對する實感的興味と適法の明確な裁斷を領解する事を得る便宜は恰も文藝作品の映畫化にもひとしいもので本書は特に意を用ひ全條に渉つてコノ所謂代表的新判決例を可決的多數網羅して殆ど各條毎に多きは一條文中に百二十例を引用し六號活字密植無慮參千餘例に及ぶ盛觀は異彩ある本書の一特色である。

2 註釋の『わかりよい』

全編を平明坦々たる逐條解釋にして而も幾多の卑近なる引例說明は殊によく法意を解明し得て從來如何に嚙み碎いても所謂法律的意識の型を脫し得ない難解苦註の弊を見事に打破して『わかりよい』法律說明の形式として嶄然一境地を開拓したるもので更に圖解說明の印象的效果や參照條文の對照研究抔周到なる用意懇切なる指導は尤も時代に適應した法律の社會化に優越な地步を占むるものである。

3 『見よい』索引の趣向

更に著者は大衆に呼びかけて如何にコノ民法が吾人の日常生活に深い交渉を持つかを先づ各卷の卷頭問題索引壹千五百七十貳題に全條文を極めて適切妥當な社會と人生問題化して排列した事である。コレは恐らく何人も老若男女を問はず隨時隨處に自己がソノ問題渦中の那邊に在るかをハツキリ見出し得るであらう。即ち何人も先づソノ問題をとらへて直に說明に突入し、ソノ方向と解決！結果の豫測！をたちどころに知る事が出來『見よい』索引の趣向が端的に法律適用の實際化を容易に且つ興味を以つて會得されるのである。

4 『すぐ役立』諸文例

『すぐ役立つ』ことと、一般の常識的要素として諸種の契約證書、承諾書、申請、訴狀、請求書、申立書、催告書、抗辯書、決議書、遺言書、等の書式文例貳百參拾餘例を各該當條文の後に例示して實用利便に供してある。即ち實際問題解決の第一步であり、實務家の好資料である。

5 『誰れにも』即ち萬人向である

之を要するに『わかりよい』『見よい』『すぐ役立つ』事が、法學生諸君、高等文官普通文官受驗者、法學既修の實務家、實業家、農業家、その他苟も新時代の社會生活を意識する、あらゆる一般人士の『誰れにも』自由に且つ容易に理解し得られ、又有益なる參考書たり得ることは、凡そ民法註釋書多數世に出でゝ未だ本書の右に出づるものは無いと斷言なし得るものである。

各卷內容大觀

第一卷 總則編 物權編

四六判ポプリン裝幀高級函入
參考判決實例　六百例
問題索引　六百二十題
書式文例　四十七例
總頁六百七十三頁（白頁別）
定價金貳圓五十錢
送料內地二十一錢海外卅錢

第二卷 債權編

四六判ポプリン裝幀高級函入
參考判決實例　千三百二十例
問題索引　四百四十五題
書引文例　百二十八例
總頁九百四十八頁（白頁別）
定價金參圓
送料內地二十一錢海外卅錢

第三卷 親族編 相續編

四六判ポプリン裝幀高級函入
參考判決實例　千百八十例
問題索引　五百〇七題
書式文例　五十六例
總頁八百七十四頁（白頁別）
定價金貳圓八拾錢
送料內地二十一錢海外卅錢

各卷分賣自由
全三卷郵送料
內地四十五錢
海外七十五錢

全三卷月賦販賣法ノ徹底的經營法ヲ提唱

月賦販賣法の普及は、所謂産業組織の合理化にして、小堂曩に本書に於て試み江湖の好評を博したるもの、今回更に一層サービスの精神に則り所謂『買ふ身になつて賣る』徹底的趣旨のもとに即ち三回拂（三ケ月）として、一回拂込と同時に全卷（三冊）を御送りする讀者が全卷を閱して、ドコにでも宣傳と違つたところや意に滿たない場合は購入契約を解消される事が（第貳回御拂込の期間）自由としたのである。コノ大膽にして內容實質本位と同時に飽迄も讀者本位に立脚して、眞にサービスの精神を發輝し得る、事は徹底したる月賦販賣制度の本格であり同時に現販賣制度の上には驚異的革命である。敢て大方江湖諸彥！陸續として此新提唱に絕大の御支持あらん事を。〔詳細內容見本に發表〕

東京市淺草區福井町一丁目
電話淺草(84)四〇八一番
振替東京六八〇三番
松陽堂

（本書ノ大サハ國定規格A4判）

明治二十五年三月三十一日第三種郵便物認可

定價　一ヶ月　九十五錢　一圓八十錢（外國郵便ニ依ル地域）各送料共
一部　五錢　八錢
廣告料　本公告　六號一行　三十錢　五號五錢增
一般廣告　六號十四字詰一行　二十五錢　四號十錢增

發行所
東京市麴町區大手町
內閣印刷局
電話丸ノ內三五一〜四
振替東京一九〇〇〇 官報課

付録

第2012号 付録

雜報

511

日本から見た滿洲事變の政治經濟的效果

陸軍省調査班

事變の第一義的效果

昭和六年九月十八日の奉天郊外の鐵道爆破による發端から、同七年三月一日滿洲國獨立宣言、同九月十五日、日滿議定書の締結による滿洲國の承認、呼倫爾作戰、熱河作戰および國際聯盟脱退を經て今日にいたるまでの經過を見ると、この事變の日露戰爭に劣らない大業であつて、世界に日本の大道を顯揚する決意と、自主獨往の覺悟によつて、擧國一致正義の貫徹に邁進し、皇威發揚と大和民族の結束强化とを成し遂げ、沈淪した國民の祖國意識を蘇生高調させ得たことは、事變による最も根本的な效果であるといへる。

これ等の實例はいまさらいふを要しないところである。

特殊權益の確認と擴充

事變前は最も重大懸案とされてゐた、滿鐵並行線問題および吉會線敷設問題が自然に解決し、また商租權問題が滿洲國政府の友好的政策によつて、處理されたことを第一に數へなければならない。

ワシントン會議の際放棄した特定吏員の傭聘についても、日本人官吏の採用が確認され、條約上の權利が空文化してゐた鑛山採掘や、鮮人の不動產その他の保護、東部內蒙古諸都市開放の約束も確認された。また軍事治安關係における駐兵權については、日滿議定書によつて日滿兩國共同防衞の約定、滿洲國內における一般的駐兵權の獲得によつて、權益の擴充を許つた。

わが國人の滿洲進出

舊東北政權張學良一派の下において、公然と行はれてゐた官憲の壓制および妨害が根絶されたが、事變前はこの種の懸案が二百數十件もあり、これ等は滿洲國成立とともに解決したのである。また邦人の土地商租權も確立して、全滿洲において土地を商租することが認められた。その他、貨幣制度の統一によつて安心して商業ができるやうになり、日貨排斥の目的として高率の關稅についても、種々是正してゐるので貿易も盛んになつた。

それ等の好結果によつて、わが國人の人口は年々增加してゐる。昭和八年三月の調査によると、在滿內地人人口は十五万餘人（關東州を除いて）で、昭和六年末にくらべると三万六千餘人の增加である。

朝鮮人におよぼした效果

事變前は滿洲國內の匪賊橫行のため、耕作地を失ひ歸國するものが多數あつたが、滿洲建國後治安安定するにおよんで、入滿者も增加し、昭和七年末は五十九万餘人であり、六年末にくらべては三万人の減少ではあるが、今後の增加は著しいものと斷言ができる。

多くの朝鮮人は事變の一因は、在滿鮮人問題たる萬寶山事件であると信じ、皇軍の活躍に對し敬慕、信頼、感謝の念を抱いて、從來相當根强く行はれた獨立運動、共產運動についても漸く自覺して、一部潜行的のもの以外は沈靜になつた。

貿易、各種事業

同國貿易の大半を占めてゐる、大連を中心とした貿易は七年には輸出一億三千九百万圓、輸入は一億二千六百万圓であつて、六年にくらべると輸出では一倍半、輸入で約五割を增加してゐる。その他わが國人の各種事業、滿鐵、東拓會社等も著々好成績を擧げてゐる。

むすび

以上のやうに、皇國の國力伸張の基礎は既に顯著な實蹟を示してゐる。これは一つに、皇祖皇宗の御靈威と、上御一人の御稜威とによるのはもちろんであるが、幾多將兵の犧牲の賜であることを回想すれば、事變の有終の美果をもたらすべく、全國民はます〳〵奮起する責務があるといはなければならない。

日英經濟抗爭の全面的展開

（その二）

日本國際協會

日英經濟の抗爭が世界經濟上必然的宿命的のものであつて、その前哨戰が今回の印度ダンピング問題であることは、前號において一言したが、その直接誘因となつたものは何であるかといふと、おそらく次の數項に歸し得られるのであらう。

一、英國輸出貿易の敗勢　二、邦貨下落の影響　三、オッタワ英帝國經濟會議の結果　四、日印貿易關係の逆調　五、本邦の國際聯盟脱退

一、英國輸出貿易の敗勢　これを語るためには、やはり綿製品を第一とせなければならない。何となれば、英國の綿製品の輸出額は一九三二年において六千二百万ポンド即ち全輸出額の一割四分に當り、わが國綿製品の輸出また三億一千万圓を算して全額の二割二分に當り、兩國共に他のいづれの輸出品を凌駕して第一位に相當するからである。

しかるに、この日英兩國の海外競爭市場に對する綿製品輸出狀態を綜合するに（單位百万方碼）

	一九三〇	一九三一	一九三二
日本	六六六	六七五	九〇一
英國	一、一一二	七一一	一、〇〇五

（日本國際協會調査）

であつて、最近英國の輸出量は逼塞しつゝあるのに對し、わが製造は三箇年間に三割七分の輸出增を示した計算になる。しかもわが製品はこれ等の販路中蘭領印度トルコの如きはいふにおよばず、英國の販圖である印度、海峽殖民地、埃及すらわが經濟勢力圏內に置いてしまつた。僅かに南阿、濠洲、香港、支那、新西蘭、アルゼンチンのみ、かれに一籌を輸してゐるも、これとて支那濠洲以外は、わが輸出力は漸次かの領域に喰込みつゝあるのを見るのである。

爾餘の輸出品を見ても、英國が頑强に自己市場として死守せんとする自治領および殖民地に範圍を限つて考へても、わが特產貨物たる樟腦、生絲、薄荷の如き原料品はもとより、絹および人絹類、メリヤス、帽子、ゴム靴の如き、染織服裝品、鐵および金屬製品等いよ〳〵顯著なる增加を示してゐるのと反對に、これ等に對する英國輸出の量もまた減少を告げてゐたことに着目しなければならない。

もちろん、英國製品市場の勢力失墜は、市場地における內地產業蹶起の壓迫によることも事實である。しかし大觀するに、品質において日本品は英國品と、かゝる內地產業品との中間に位してゐるから、內地土產品の壓迫は直接英國品に向けられるよりも、むしろわが國品に向けられる可能性が多い。綿絲布における印日英品の地位は正にその適例である。

二、邦貨下落の影響　しかして、かゝる邦貨の進出に對して、海外市場ならびに競爭國ではその原因を全く昨年下半期以來のわが爲替下落の影響に歸してゐる。一昨年末再禁止以來半箇年にして三十ドル臺を割り、一箇年にして二十ドル臺を割つた記錄は、戰後の獨佛等二三の例を除いては、世界まれに見る我人共に意想外な現象であつた。確かに再禁止以來一箇年有餘にして、爲替の六割も下落したことは、わが輸出產業に一時的には好影響をもたらしたに相違ない。殊にわが紡績業の如きは、爲替高騰時に買入れた原料安と、勞銀迫階高騰の雙方より來る原價安の利益を一時は滿喫したことは明かである。

だが、われ〳〵はこの邦貨下落をもつて、海外市場に對する例外なきわが物資のダンピングを意味すると解することはできない。わが輸出品が原價を割つて輸出してゐるとか、或は差別的價格をもつてゐるとかいふ、外國側の臆測の採るに足らないのはもちろん、現在の爲替低落の影響を受けたわが國今日の物價であつても、決して海外物價に比して高過ぎるといふことはない。何となれば再禁止直前のわが物價指數は、米國物價指數と同位置にまで修正せられるにいたらずして、再禁止を迎へざるを得なかつた事情を考へなければならないからである。もしこの事情を斟酌するときは、わが對外物價は決して甚だしく下落してゐないことが明瞭となる。

世界戰前を基準とする日米卸賣物價指數

	日本再禁止前	米國再禁止前
日本國內物價	一一六・〇	一五五・五
日本對米爲替	一〇〇・〇	四一・五
日本對米物價	一一六・〇	六四・五
米國國內物價	八五・五	六七・二

（東洋經濟新報調查、日本は昭和六年十一月末、アメリカは昭和八年二月末）

右によると日本對米物價は六四・五となり、米國國內物價の六七・二に比して殆んど懸隔を見ないことになる。この事情を顧ないで、單に再禁止直前のみを基準として、わがダンピングをそのまゝ肯定する如きは、われ〳〵の採る能はないところである。況んや今日においては、わが綿業についてみても、高爲替時代に輸入した手持原棉は既に消費つくしたにおいておやである。

三、オッタワ英帝國經濟會議　一九三一年の世界金融恐慌以來、經濟沒落を直前に見つめた英國として、昨年八月のオッタワ英帝國經濟會議は、將來の全運命をかけたものであつた。從つてその議題の中心は何といつても、英帝國內諸國間の通商協定にある。この通商協定は英本國とカナダ、オーストラリヤ、南阿、新西蘭、印度、ニューファンドランド、南部ロデシアとの間に結ばれた七協定と、カナダと愛蘭、南阿、南部ロデシヤ間に締結された三協定および南阿と新西蘭、愛蘭間に結ばれた二協定、都合十二の協定より成つてゐる。

しかし、いふまでもなくオッタワ協定による英帝國內で結束關係は上記に止るものでなく、さらに非自治領植民地および保護領が英帝國構成地の何れかに對して與へてゐる特惠は、これに該協定に參加する自治領にも與へることになつてゐるから、從つて結束の範圍は、英帝國構成地の全部におよぶものとされた。

右の決議および協定に基いて、英本國との特惠關係が樹立されて行つた。しかしてその效果がわが國の利益に對し、反噬的であることはいふまでもない。その上決議中には「英帝國特惠關稅と最惠國待遇約款との關係につき、英帝國內諸國は特惠關稅の妨げとなるべき條約を今後外國と締結せず、外國との現行條約にして特惠關稅の妨となるべきものあれば、當條約義務より免るゝ措置を採るべく、その他特惠關稅の活用および維持につき一切の措置を採ることゝなる條項が包含されてゐて、この原則に基き英本國は從來の通商條約を一擲するの果敢なる行爲すら敢てした。メトロ・ヴイッカース技師判逆問題を機會に對露通商斷交を決行し、また英領西アフリカとの通商を協定した日英條約を廢棄し、またこれ等に先ち日印通商條約の破棄を斷行したのも、またかゝる方針の一つの現はれである。

他方においては、今日までにデンマーク、アルゼンチン、ドイツ、スヰーデン、ノルウヰー等との互惠協定が成立を見るにいたつた。しかしこれ等の協定の中心は、英國の石炭と前記諸國の食糧品との間の互惠關係を定めたものであつて、問題の綿成品關係については、近く開かれる日英、日印間の協定、或は今後豫想さるべき日本と英自治領間の了解にして成らざる限り、同國綿製品輸出の將來はなほトすることは困難である。

アメリカ海軍政策の改訂とその影響　（その三）

海軍大佐　關根郡平

（三）新海軍政策聲明の雰圍氣

一、アメリカの現政府は就任後緊縮政策を採つたのであつたが、間もなくインフレーション政策に轉向し、金貨本位制を停止して世界を驚倒せしめただけでなく、六月初旬からロンドンで開かれた世界經濟會議においては、爲替安定協定を拒絕した結果フランスの率ゐるヨーロッパ大陸金本位ブロックとの間に對立關係を生じた。かやうな國際情勢と關係があるかどうかは別問題とし、この間アメリカは失業救濟といふ名目で、頻りに軍備就中海軍充實費を支出しつゝある。日本との關係も石井氏一行の渡米と共に緩和說が傳はつたのであるが、右海軍々備充實計畫の進展と共に何となく緊張して來た、新海軍政策の發表を見たのは恰もこのときであつた。

二、いまこの間の消息を明かにするために、去る三月以來米國海軍充實問題が如何に進展したかを略記して見やう。

二月十一日　大海軍論者として有名なクロード・エー・スワンソン氏（民主黨上院議員）はルーズヴエルト新內閣の海軍卿就任要請を容れた。

三月三日　一九三三——三四年海軍豫算（三億九百五十万ドル）大統領の承認を受けた。

三月十一日　新飛行船メーコン完成進空。

三月十七日　海軍卿スワンソン氏重ねて新聞記者に對し、條約限度まで建造することの必要を力說した。

四月　海軍作戰部長プラット大將海軍學會誌四月號に「忘るゝなかれ」と題して、論文を寄せ軍縮の必要な所以とその經過から說き起しフーヴアー案を賞揚して、暗に日本の新提案を攻擊しリツトン報告を引用して「日支紛爭に關する日本の態度を時代錯誤である」と非難し「軍縮が成立しなければ建艦競爭も敢て辭するところにあらず」と述べ、米國の國民性を禮讚し世界戰爭參加の實例に徵して、國內輿論統一の容易であることを說き、大戰前の英獨海軍交涉問題を例示して「日米間事端發生の有無は日本今後の軍縮ならびに日支紛爭に對する態度に決まる」と結論した。

四月四日　（一）下院海軍委員長ヴイソン氏は大統領と會談後「近く議會に提出される失業救濟案中には二億三千万ドルを投じて向ふ三箇年間に、六吋砲巡洋艦四隻、航空母艦二隻、驅逐艦二十隻、潛水艦四隻、計三十隻を建造しやうとする法案を含ませることになつた」と發表した。（二）飛行船アクロン號爆破

五月一日　大統領は一九三三——三四年度海軍豫算から五千五百万ドルの節約を命じたが、五日になつて三千九百五十万ドルを節約することに決つた。

五月七日　海軍卿スワンソン氏は對日海軍問題に關して左の聲明を發表した。

「若し日本が日英米海軍力の均等などを主張するやうなことがあれば、米國は絕對に贊意を表する譯には行かない、ロンドン條約で規定された六、四の比率は公正妥當のもので、この比率は絕對に遵守されなければならない。若し日英兩國が米國と共に世界の海軍力を縮少することを欲しない場合は、米國はロンドン條約の許す範圍內で海軍力の最大擴張を續行しやうとするものである。なほまた日本が依然として海軍軍備の縮少を今日以上讓步しない場合は、米國はロンドン條約で許された全勢力を保持するためさらに航空母艦二隻、八吋砲巡洋艦四隻、六吋砲巡洋艦七隻、驅逐艦九十隻、潛水艦十八隻を建造する必要がある」

五月二十三日　海軍卿スワンソン氏は新建艦案に關し左の聲明を發した。

「米國海軍は漸次老朽狀態に陷りつゝある。若し米國海軍が世界第一位を維持しなければ、抑も海軍を維持することが全く徒爾に終るのであらう。一旦緩急ある場合米國の權益を擁護するためには、世界第一位の海軍力を必要とするのである。余のいはゆる建艦案は六吋砲巡洋艦四隻、航空母艦二隻、驅逐艦二十隻、潛水艦四隻、砲艦二隻、計三十二隻を含んでゐる」云々。

六月十四日　大統領は新建艦法に署名した。

六月十六日　大統領の決裁を經て公共事業費から新艦艦載飛行機購入費千五百万ドルを支出することになつた。

六月二十九日　海軍卿の名をもつて新海軍政策を發表した。

六月三十日　海軍省は一九三三——三四年度の艦船運用計畫を發表したが、これによると米國海軍は本年七月一日から來年六月三十日までの一年間に左の大海軍力を太平洋中心に配備運用する豫定である。

隻數　二九九隻　將兵　五四、一五〇人　飛行機　四九一機

七月五日　海軍卿は主力艦その他近代化および根據地施設改良のため約一億ドルの支出方を要求した。

七月六日　米國合同通信社取締役會長ロイ・ハワード氏は今後の對日政策として「一面親善一面建艦」を主張した。

右のロイ・ハワード氏のこの聲明は、米國の建艦熱に對して火に油を注いだ感があり、ハワード系新聞は盛に對日軍備充實の必要を叫び、就中七日のワールド・テレグラムの如きは、東洋平和維持のために建艦を行へとさへ極言するにいたつた。

七月十日　スワンソン氏は「余は平和主義者で多年世界の軍縮に努力して來たが、列國が米國の主張に聽從しなかつた結果、米國もまた條約限度まで建艦を行ふことに決意した」と聲明した。

七月十二日　スワンソン氏財務省より經費を受領すれば、直に眞珠港およびパナマ兩作戰根據地の施設改良に著手すべき旨聲明し、さらに日本が條約限度まで造艦してもこれは介意しない旨をも聲明した。

日本人絹のドイツ市場進出

外務省通商局

日本工業の世界進出、日本品の輸出ダンピング等の語は、最近當地新聞雜誌にも一の合言葉と化せる觀がある。一九三三年七月十四日の漢堡フレムデンブラット紙は、ドイツ人絹市場の日本の輸出ダンピングなる題下に、日本人絹より受ける脅威に關する記事を揭げてゐる。それは左の通りである。

日本人絹工業は近年大擴張を行ひ、內地市場を完全に征服したが、その急速に發達する生產餘剩の捌口を、圓價下落の追風に乘じ外國市場に求め、今やドイツの人絹市場にも供給者として出現するにいたつた。

對獨取引において日本人絹の販路開拓を試みられたのは、比較的短時日にもかゝはらず、その事業が如何に注目に値する敏活さをもつてなされたかは、ドイツの日本人絹輸入の躍進的增加が雄辯にこれを物語つてゐる。

フロレット絹絲を含めて、日本人絹の輸入は一九三〇年には八百キログラム四千マークに過ぎず、一九三一年も千二百キログラム五千マークであつたところ、一九三二年に入り俄然增加し、五万五百キログラム十六万七千マークとなり、本年一月以降三月までの期間について見るも、前年同期の二千三百キログラムより二万五千四百キログラムに增加し、價格も六万七千マークとなつた。

日本よりの人絹輸入は主として百二十および百五十デニール（生絲の太さを表はす言葉で、一デニールは九百メートルの長さのものが〇・一グラムの重さ）の人絹絲なるが、聯邦統計局の商品表において、三百九十四番ａとして擧げられてゐる、百五十乃至百八十五デニール人絹絲について見ると、本年に入り三月以來月を逐て輸入增加し、二月二千九百キログラム、三月三千四百キログラム、四月五千四百キログラム、五月九千九百キログラムに達し、一月以降五箇月間輸入總量二万八千キログラムを算する。

日本人絹の攻擊的擴張政策の影響は、今やドイツ人絹生產業者の內國取引において看取されるにいたつたが、右は島帝國のこの新進工業部門の疾風的上昇發展を明示するものである。

日本人絹の生產高は一九二六年には約二百万キログラムに過ぎなかつたが、一九二九年は千二百五十三万キログラム、一九三〇年千六百二十九万キログラム、一九三一年二千九百七十五万キログラムに增加し、その輸出も一九三〇年の百十一万キログラムより一九三二年の三百七十五万キログラムに增加した。これに反し輸入は減少し、一九三二年は前年の七十二万キログラムより二十五万キログラムとなつた。

かくて日本の人絹は、一九三二年には三十五万キログラムの出超を示すにいたつた。（在漢堡大野總領事代理報告）

世界最近の失業狀況

國際勞働局東京支局

國際勞働局は最近の失業狀況を左の通りに發表した。

これによればかなり多數の國において、一年前に比し失業の減少が見られるが、これは現時不況の開始以來初めてのことに屬する。もつともこれをもつて、不況が既に底をつき景氣が上昇しつゝあると見ることは早計であるが、發表された計數そのものからは、この見解を裏書してゐるし、かつその他の經濟指數もまた改善を示してゐるところからすれば、待望の景氣回復が現はれ始めたと見られないこともない。

もちろん左にあげる計數は、その意味および相互の比較に關しては若干の留保を附さなければならないが、ドイツ、大ブリテンの如き重要產業國その他多數のヨーロッパ諸國において一年前に比し、失業の減少したのを見るには充分である。同樣の減少はその他の諸國オーストリー、チリー、日本、パレスティナにおいても起つてゐる。もつともヨーロッパのチエコスロヴアキア、イタリー、北アメリカのカナダ、合衆國の如き重要產業國を含む多くの國々においては、過去三箇月間に失業の增加を示してゐるが、前記の改善の傾向が普遍的になつてゐることは注目に値する。即ち左の計數を三箇月前のそれに比較すると、ポーランド、ニュージーランドを除く他の國々は、ことごとく失業の減數を來たしてゐる。この傾向は最近數箇月間に世界の殆んど總ての國におよんでゐる。

▼オーストリー　一九三二年六月二七一、四八一人　一九三三年六月三二〇、九五五人（受給失業者）

▼ドイツ　一九三二年六月五、五八二、六二〇人　一九三三年六月五、〇三九、五一二人（暫定數で職業紹介所登錄失業者）（以上强制保險）

▼大ブリテン　一九三二年六月二、八二一、八四〇人　一九三三年二、六三六、[illegible]人（一部時間失業者を含む）

▼ベルギー　一九三二年五月一五三、四四一人　一九三三年五月一八〇、一四三人

▼チエッコスロヴアキア　一九三二年四月一九五、〇七六人　一九三三年四月二九六、四九一人（一部時間失業者を含む）

▼デンマーク　一九三二年六月七〇、六五八人　一九三三年六月八四、二一〇人（暫定數）

▼オランダ　一九三二年六月一三三、五一〇人　一九三三年六月一五〇、五三〇人

第2012号付録

第 2012 号 付録

▼スイス　一九三三年六月一〇三、〇八二人　一九三二年六月一一三、二七三人　（以上任意保險）

▼オーストラリア　一九三三年四月一二〇、四五四人　一九三二年四月一〇九、一八一人

▼カナダ　一九三三年五月四〇、九三六人　一九三二年五月三七、七三〇人

▼スヰーデン　一九三三年六月七九、八〇四人　一九三二年六月一〇七、三五六人（以上勞働組合の報告）

▼チリー　一九三三年四月九一、〇五六人　一九三二年四月八二、〇〇〇人（暫定數）

▼ダンチッヒ　一九三三年五月三三、四一八人　一九三二年五月三六、二〇五人

▼オランダ領東印度　一九三三年三月九、二〇〇人　一九三二年三月一三、四一七人

▼エストニア　一九三三年四月八、三九五人　一九三二年四月一四、三一二人

▼フランス　一九三三年六月三二二、三二〇人　一九三二年六月三一四、二四二人

▼ハンガリー　一九三三年五月六八、四五九人　一九三二年五月六五、七九三人

▼イタリー　一九三三年六月九六八、四五六人　一九三二年六月一、〇〇〇、一二八人

▼日本　一九三三年五月四八三、一〇九人　一九三二年五月四二九、二九五人

▼ラトヴィア　一九三三年五月一四、六〇七人　一九三二年五月九、九七八人

▼ノルウヰー　一九三三年六月二七、七五二人　一九三二年六月三〇、三九四人

▼ポーランド　一九三三年四月三三九、七七三人　一九三二年四月二五八、五九九人

▼ルーマニア　一九三三年三月五〇、六〇六人　一九三二年四五、三七一人（以上職業紹介所登錄者および類似の推定）

附記　左はカナダ外四箇國の就業指數であるが、參考のために擧げて見ることにする

▼カナダ　一九二六年を一〇〇として一九三二年は八七・五%、一九三三年は九七・七%

▼フランス　一九三二年五月を一〇〇として一九三二年一〇〇、一九三三年五月九七・七%

▼ドイツ　一九二五年を一〇〇として一九三二年は六三・四%、一九三三年は七〇・〇%

▼大ブリテン　一九二四年を一〇〇として一九三二年は九八・八%、一九三三年は一〇一・四%

▼合衆國　一九二三―二五年を一〇〇として一九三二年は六四・三%、一九三三年は五七・七%

九月一日現在の物價

東京商工會議所調べ

九月一日現在における市內日用品小賣物價は調査品四十七品中、前月十五日現在に比して騰貴したもの九品＝大豆、馬鈴薯、鰹節、鷄卵、豚肉、干瓢、綿縫絲、綿、木炭（土釜）＝であつて、下落したものは四品＝白米、小豆、砂糖、鹽鮭＝であり、その他は保合のもの三十二品であつて、總平均において一分四厘の騰貴を示した。

なほこれを前月一日現在にくらべると、總平均において一分八厘の騰貴またこれを前年同期に比すると、總平均において六分八厘の騰貴を示してゐる。

帝室博物館列品陳列替

帝室博物館において新に陳列替をなし、展覽せしむべき主なるものは左の通りである。

▼歷史部＝後陽成天皇宸翰御懷紙　以下拾壹點

▼美術部＝千手觀音像一幅（永保寺藏）　牡丹圖二幅（高桐院藏）　蓮花圖二幅（本法寺藏）　觀音像一幅（天龍寺藏）　瀟湘八景圖（狩野尙信筆）一雙（本館藏）　山水圖（久隅守景筆）一幅（同上）外十三點（以上東京）

▼美術品繪畫　法隆寺寄託　聖德太子勝鬘經御講讃圖一面外二十一點

▼圖書と書蹟　海龍王寺寄託　海龍王經傳聖武天皇宸翰一卷外三點（以上奈良）

◎寄贈圖書雜誌◎

（九月分請書代りに）

▼外務省報、國際事情、海外經濟事情、移民情報（外務省）▼內務省報（內務省）▼勞働時報、保險時報（社會局）▼職業紹介報（中央職業紹介事務局）▼外國鐵道彙報、國際運輸時報（鐵道省）▼財務通報（大藏省）▼農務時報、山林彙報（農林省）▼特許公報、同明細書、實用新案公報、商標公報（特許局）▼學校衞生（文部省）▼航空旬報（遞信省）▼遞信協會報（其會）▼國際知識、世界とわれ等（國際聯盟協會）▼世界の勞働（國際勞働局東京支局）▼社會政策時報（協調會）▼國立公園（內務省內其會）▼東京市公報（東京市）▼帝國農會、農會時報（帝國農會）▼正金週報（橫濱正金銀行）▼經濟月報（東京商業會議所）▼專賣協會報（其會）▼財務協會報（其會）▼ローマ字新聞（其界）▼婦女新聞（其社）▼京城日日新聞（其社）▼度量衡（其協會）▼燃料協會誌（其協會）▼帝國鐵道協會報（其協會）▼つはもの（陸軍省）▼美術新論（其社）▼斯民（中央報道會）

最近官廳刊行圖書抄報

左記は各官廳近刊圖書中當局へ到著分の一部

◎商業論集　第八卷第一號　（大分高等商業學校）
同校商學研究會發賣（大分市上野）　九〇錢 送料六錢

◎行政裁判所判決錄　第四四輯第三卷　（同所）
帝國地方行政學會發賣（京橋區銀座）　六〇錢 送料二錢

◎國語講習所教本　（臺灣臺北州）
臺灣日日新報社發賣（臺北榮町）　一二錢 送料二錢

◎昭和六年度直轄工事年報　（內務省）

◎昭和八年度門司稅關管內貿易趨勢　（同稅關）

◎考案記錄　第一九回　（陸軍造兵廠）

◎日本帝國司法省第三十三行刑統計年報　昭和六年　（司法省）

◎屋久島森林視察の感想　（熊本營林局）

◎例規類纂加除訂正書　第五號　（東京遞信局）

◎國際觀光協會の資金募集に就て　（鐵道省）

◎朝鮮の經濟事情　（朝鮮總督府）

◎昭和七年滿洲氣象表　（關東廳觀測所）

◎交通調査報告書　（東京府）

◎京都府史蹟名勝天然紀念物調査報告　第一四冊　（同府）

◎神戶港貿易統計　（兵庫縣）

◎農山村經濟更正副業指針　（奈良縣）

◎愛知縣男女青年團體調査　（同縣）

◎昭和八年長野縣勢要覽　（同縣）

◎公共圖書館の使命　（石川縣圖書館）

◎富山縣の名勝　（同縣）

◎岡山縣治一覽　（同縣）

◎養蠶獎勵指導指針　（廣島縣）

◎家畜ノ經濟的飼養　（山口縣種畜場）

なほ、官廳刊行圖書の全部及びその內容等についての詳細は、當局發賣の「官廳刊行圖書目錄」に登載されてゐる。

因に同書第二十六號（昭和八年四月より六月迄の分）は去る七日より發賣。

◆前週の官報に◆

◎四分利國庫債券の額面金額種類および利子支拂期に關する件（大藏省令）　四日

◎七月の十三都市賃銀概況（彙報）　四

◎朝融王妃知子女王殿下御分娩女王御誕生（宮內省告示）　六

◎交通審議會設置並に同委員および幹事任命（彙報）　六

◎七月の十三都市卸賣特價概況（同）　六

◎朝鮮金融組合聯合會令その他（制令）　七

◎高等試驗行政科本試驗の筆記試驗合格者（廣告）　七

◎八月三十一日現在預金部狀況（彙報）　九

◎八月末の紙幣および銀行券流通高（同）　九